

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	良くなる	旅行代理店（従業員）	・客の動向が早い。企業需要も年間見込みの上含みにともない、これまで控えていた消費への意欲が上向いている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・例年観光期がピークを迎える。
	やや良くなる	住宅販売会社（経営者）	・7月の参議院選挙までは株高が想定されるため、それまでは景気は順調に回復する。
		商店街（代表者）	・ガソリン価格や電気料金等の物価上昇がなければ上向き傾向となる。
		商店街（代表者）	・天候や気温に左右される部分大きいものの、この夏の傾向やカラーのトレンドがはっきりしているため、今よりも消費が安定してくる。
		商店街（代表者）	・客の気持ちとして、新政権の経済対策の効果に自分も乗りたいという声が多く聞こえている。
		商店街（代表者）	・前年と比べて、ビジネスによる来客を除けば、中国及び韓国からの観光客は減少したままであるが、台湾からの観光客が徐々に回復しつつある。さらに、全道規模、全国規模の大会等の予定が順調に組まれており、該当月前後は売上の増加が見込まれる。
		商店街（代表者）	・今月は前年比で3割の減少となっているが、新政権の経済対策効果もあり、ゴールデンウィークに向かって期待できる。
		商店街（代表者）	・北海道の景気は関東圏の景気回復から数か月遅れで実感できるのが通例である。若干だが関東圏の回復基調が見えてきたことで、夏以降の回復に期待している。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・2～3か月後の景気は今よりも確実に良くなる。給料や売上が増えるよりも諸経費の上昇が先行しているが、やはり新政権の経済対策に対する期待感が非常に高いため、良くなる。
		百貨店（売場主任）	・来客数が若干低下したなか、客単価アップがみられる。また、主要購買層の春夏商材の最盛期が遅れていることで、今後に需要が集中することが期待できる。
		百貨店（販売促進担当）	・客単価アップの流れは、ラグジュアリーブランドからボリュウムラインにまで拡大している。また、円安傾向の流れから、東南アジアの富裕層の来道が増え、高額品の売上が拡大しており、この傾向はしばらく続く。
		スーパー（店長）	・単なる低価格志向でなく、品ぞろえによる比較での購買意欲が活発化している。
		スーパー（店長）	・衣料品の動きが少し良くなってきており、景気回復が影響しているとみている。
		家電量販店（経営者）	・電気料金の値上げ、消費税増税を控えて、LEDや冷蔵庫等の省エネ製品の販売量の増加がやや期待できる。
		家電量販店（地区統括部長）	・新政権の経済対策の効果に期待しての予測であるが、冷蔵庫、エアコン等の大型白物家電の需要が伸びる。
		自動車備品販売店（店長）	・来客数が4か月連続で伸びている。今後もある程度までは継続すると期待している。
		高級レストラン（経営者）	・新政権の経済対策により、地方都市にも何らかの好影響があるのではと期待している。
	高級レストラン（スタッフ）	・市場経済の上向きさが伝わることで、消費意欲が増すことになり、来客数の増加につながる。	
	スナック（経営者）	・新政権の経済対策により、経済的な効果が少しずつ出てきている。特別、店舗の数字が上がっているわけではないが、街の雰囲気も少しずつ良くなっている。	
	観光型ホテル（経営者）	・先行予約が徐々に回復しており、若干景気は良くなる。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・需要を喚起するような大型の学会や製薬会社による講演会を受注している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		タクシー運転手	・これから観光シーズンに入っていくなか、景気が良くなることを期待している。ただし、物価が上昇してくると財布のひもも固くなるため、タクシーの乗り控えが起ることを心配している。
		観光名所（従業員）	・地元で大規模な野外コンサートの連日開催が決定していることや、大型クルーズ客船の入港が続けて予定されていることなどから、観光関連でのにぎわいが期待できる。
		美容室（経営者）	・今月は悪天候のため来客数が減っているが、今後暖かくなってくれば来客数が増加する。
		住宅販売会社（従業員）	・木材利用ポイント事業などの新たな制度と消費税増税を控えての動きによる相乗効果が期待できる。
		商店街（代表者）	・報道などで景気の気だけが先行しているが、地方都市の商店街では高齢者が多いだけに購買動向に変化はみられない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ここ2～3か月の売上や売行きの動向をみても、特に今までと大きく変わったところはみられない。マスコミで頻りに報道されているような新政権の経済対策の効果は当業界には全く影響がない。
		百貨店（売場主任）	・現在はまだ寒い状況ではあるが、3か月の長期予報によると、暖かい日が続くということである。前年は冷夏で春夏物の動きが厳しかったため、これから春物、夏物とも単品商材の動きがみられるようになる。
		百貨店（売場主任）	・全体的に販売量は増えてきているが、高額品に目立った動きはみられない。
		百貨店（販売促進担当）	・消費マインドの基調が上がっている感触はあるものの、天候要因に左右されやすい。下押し要因を押し返すほどの力強さまでには至らない。
		スーパー（店長）	・円安株高で景気浮上と言われても、実際の生活では燃料価格が上がったり、大幅なベースアップも見込めない状態であり、客の財布のひもは固いままとみられる。
		スーパー（企画担当）	・北海道は例年になく、低気温が続いており、昨今の灯油価格の上昇がじわりと家計に影響を与えることが予測される。また、賃金の上昇も一部の企業に限定されていることから、消費が上向くには時間がかかる。
		スーパー（役員）	・長期予報では5月初旬の当地域の天候は晴れマークが1日もなく、ゴールデンウィークの動員に不安が大きい。気温が低すぎるため、春メニューに移行しない状態となる。また、消費税増税や電力料金値上げ等のネガティブな情報に加え、ローカル地域では高齢化や人口減少のスピードが速いため、実質所得が上がりなければ、現在の状況がさらに悪化しそうな気配がある。
		スーパー（役員）	・円安の影響で値上げが必要な商品が出てきたが、価格を上げると一気に販売量が落ちることになる。値上げイコール売上ダウンの状況がしばらく続く。
		コンビニ（エリア担当）	・買物1回当たりの購入金額は増加しているが、来店頻度が減少しており、売上に変化はみられない。
		コンビニ（エリア担当）	・円安、株高の恩恵は小売の段階では感じられない。逆に輸入食材、燃料等の値上がり影響してくる。天候要因による増減はあるが、しばらくは景気上昇による売上や来客数の増加にはつながらない。
		コンビニ（エリア担当）	・良くなる要因が見当たらない。
		衣料品専門店（店長）	・客や同業者、町内会で話を聞いても、あまり芳しい話はないため、今後も変わらない。
		衣料品専門店（店員）	・夏物衣料は平均単価が下がることになる。また、デフレ脱却の効果が出てくれば物価が上がり、買い控えが起きる。公共料金の値上げや消費税増税の動きが消費者の家計を圧迫することになる。
		家電量販店（店員）	・気温上昇によりエアコンの販売台数が前年並みまで伸びることを期待している。薄型テレビはいまだに回復してこない。
		乗用車販売店（従業員）	・国の政策で賃金を上げるなどと報道されているが、エンドユーザーまでそういう効果が行き渡るのには相当先になる。あまり実感を持ってないのが正直なところであり、賃金上昇などが本当にきちんと行われるのであれば、これから景気が良くなると思うが、現状をみるとそのようになりそうな予感が全くない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		乗用車販売店（営業担当）	・地場産業の動向も好材料が見当たらない。また、新商品の投入もないため、現状維持の状況が続く。	
		高級レストラン（スタッフ）	・国内景気の高揚感に加えて、当分、中国以外のアジア人観光客が増加しそうなことから、期待感が強くなってきている。	
		旅行代理店（従業員）	・来客数や商品の販売動向、商品単価、売上のいずれもムラが多く安定しない。また、秋口の問い合わせが多い一方で、直近部分の底上げはあまり進んでいない。	
		旅行代理店（従業員）	・T P P問題や電力料金の値上げなど、消費マインドを抑制する要因がみられるため、元々あまり航空需要が高くない5～7月は大きく伸長する要素がない。	
		旅行代理店（従業員）	・前々年11月より、良い状況が続いている。	
		タクシー運転手	・5月は大型連休があり、タクシーの売上が1年間で最も悪い月である。6月はイベントなどがあり、少しは売上に期待できる。	
		タクシー運転手	・景況感そのものは上向きの兆候がみられるが、現在の身の回りの状況をみると、円安傾向による輸入品の物価上昇に対して消費者が非常に敏感であり、消費そのものが上向きになるのはまだまだ先のことになる。したがって、ここ半年程度は様子見の状態が続く。	
		タクシー運転手	・今後の予約や問い合わせ件数の状況は前年と比較しても変化がみられない。景気が良くなるような要素も思い当たらない。	
		通信会社（企画担当）	・競合他社を上回る商品を提供できるまでは今のままの状態が継続する。	
		観光名所（職員）	・政府による景気対策等の効果が見え始めるまで、相応の時間を要することになる。	
		住宅販売会社（従業員）	・建築単価が上昇し始めているため、分譲マンションの価格も少しずつ上がることになる。そのため、マンション購入者のマインドは若干冷えることになり、分譲マンションの販売ペースも少しスローダウンする。	
	やや悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・現状の収入減少は短期的には戻らない。	
			その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・年金減額の影響が出ている。通院患者も通院回数を減らして自衛しているようだ。薬局は尚更である。
			パチンコ店（役員）	・電気料金の値上げ及び一部地域での水道料金の値上げ等により家庭負担が増えることになる。
悪くなる			旅行代理店（従業員）	・先行受注をみると、国内旅行は6月が前年比82.0%、7月が前年比154.4%となっており、海外旅行は6月が前年比100.2%、7月が前年比80.9%となっており、トータルすると今月より悪くなる。
		タクシー運転手	・新政権の経済対策の効果により雰囲気は良くなっているものの、実態経済の浮揚は感じられない。	
		美容室（経営者）	・電力料金値上がりのニュースに加えて、燃料代にも値下がりの気配がないことなどから、景気が良くなるとは思えない。	
		企業動向関連 (北海道)	良くなる	通信業（営業担当）
		やや良くなる	家具製造業（経営者）	・景気回復による収入増が見込め、特に富裕層の購買意欲の上昇が期待できる。
		金属製品製造業（役員）	・最近になり、見積の引き合いが増えてきている。また、民間建築物が少しずつではあるが動きだしてきている。	
		建設業（経営者）	・公共工事の発注が土木、建築ともに進み、工事の稼働も例年に比べてかなり多くなる。民間建築、住宅についても消費税増税を控えて引き合いが増えている。ただし、人手や機材の不足と資材単価の高騰が心配され、工期、工程によっては採算面が懸念材料となる。	
		建設業（従業員）	・消費税増税を考慮した建設工事の駆け込み着工の動きがみられている。	
		輸送業（支店長）	・補正予算による土木工事にともなう建材の荷動きが第2四半期より期待されている。また、それにともない秋口の繁忙期の注文もおお盛になり、現在よりも物流量の増加が見込まれる。	
		金融業（企画担当）	・観光関連は円安により外国人観光客の増加が見込まれる。国内旅行も海外から北海道観光へのシフトが期待できる。また、公共工事の執行も本格化し、基幹産業である建設業の業績が好転する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		司法書士	・新政権の経済対策から半年を経過することになるため、実感として景気が回復することに期待している。
		コピーサービス業（従業員）	・慎重ではあるが、設備投資の話が少しずつ、継続的に出てきている。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・消費税増税を見越した設備投資が予想される。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・客先である鉄骨加工業者の仕事が5月から一気に急増することに加えて、他の金属加工業者の仕事量の増加も期待できる。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	・定年制の延長や賃金改定において、今の業界状況では従業員が期待するような対応ができない。新政権の経済対策、日銀の施策等は当地の食料品製造業界までは効果が及んでいない。
		食料品製造業（役員）	・今後2～3か月先に景気が良くなると思えるような大きな案件は見当たらないが、小さな案件はいくつかあるため、悪くもならない。
		司法書士	・今後、土地取引や建物の新築等が活発化してくる時期ではあるが、現実的に景気が上向きにはもう少々時間が必要である。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・現時点で特に目新しい話はないため、景気対策が順調に進んだとしても3か月先に良くなるとは思えない。下請にまでその効果が反映されるには半年はかかる。
	やや悪くなる	輸送業（営業担当）	・原油価格の高値が続いており、海上部分は一部荷主に転嫁できるが、陸上部分はほぼ認めてもらえず、非常に収支が厳しい。LNGやシェールガスの輸入拡大、使用量の増加に期待するが、施設の建設にはまだ時間がかかる。
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (北海道)	良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・道外の業務請負など、一部の業種を除き、求人件数が高水準で推移しており、全体的に人手不足感がみられる。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・65歳までの雇用義務化により、若干、企業内に混乱も見えるが、ここ数か月の景気状況をみると、経営者心理に安心感が広がっている。求人職種で営業職が多いことも踏まえると、経営サイドが業績拡大に大きくかじを切ろうとしており、景気低迷から少しずつ脱却できる環境になると期待している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・政権交代後の期待感は今後も継続していく。ただし、実際にどのような政策が実行されるかによって一気に下振れる懸念もある。電力料金や燃料費、輸入材の値上げも懸念材料である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・正社員ニーズの増加や休眠顧客の起き上がりなど、景気上昇に対する期待感が上がってきている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・景気回復のきっかけがなく、今後も変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数の増加に対して、求職者が不足状態となっている。求人倍率の上昇イコール景気の上昇との判断は早計とみられる。
		職業安定所（職員）	・景気回復への期待感が先行しているが、先行きは不透明である。
		職業安定所（職員）	・福祉を始めとした慢性的な人手不足の業種では、新規求人に占める更新求人の割合が高く、数字よりも実態としては厳しい雇用情勢にある。また、正社員求人の割合の低さとパート求人の割合の高さから景気回復に向かうとは感じられない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・政府の施策と国内企業の反応がまだ見極めにくい。
	やや悪くなる	—	—
悪くなる	—	—	

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)	良くなる	百貨店（経営者）	・株価の回復が著しく、特に資産家、高所得層には資産効果が大きく貢献している。また、現在は大勢の人が投資信託等をしており、これまで含み損を抱えていた人がプラスに転じてきている。多くの人が資産効果の恩恵を受ければ、景気回復が期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・気温にもよるが、3か月後の7、8月は年を通して売上、来客数、単価すべてでピークとなる。今年は景気の上昇により、更なる期待ができそうである。
		一般レストラン（経営者）	・毎朝行っている市場の活気や人の出入りがやや多くなってきている。また、当店でも当日予約がかなりあると予想される。長年の経験からも、人の出入りも多くなり忙しくなるとみている。
		タクシー運転手	・当地だけが特殊なのかもしれないが、どこに行っても人が多く、学会で訪れた客も人の多さに驚いていた。当地は今良い方向に向かっており、このままいくのではないかと。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・客も景気楽観説には半信半疑であろうが、それでも7月の参議院選挙までは政治が無理にでもムードを高めてくのではないかと。夏のボーナスが10%でも増えれば良いが、これが増えない場合は期待が失望に変わる懸念もある。そうなるかの可能性は半々である。
		商店街（代表者）	・各店においても大きく変わる要因は見られないが、徐々にではあるが全体的に客足は伸びてきている。
		商店街（代表者）	・4月の後半より桜の開花もあり、これから本格的な春として夏物の動きが出てくる。観光客並びに地元客も外に出る機会がこれから増えていくので、天候が良くなることを祈っている。
		商店街（代表者）	・アベノミクス効果が徐々に浸透し、景気回復への兆しが出てきている。
		百貨店（売場主任）	・天候の回復やガソリン価格の値下がりなどの要因で人の流れが良くなり、今月に比べ消費マインドが上向いていくという期待感がある。
		百貨店（総務担当）	・中央では円安や株高の影響が実際の消費に回ってきているとの報道もある。それを受けて、地方においても夏のボーナス商戦以降あたりに上向きの景況感が数字に反映されてくるとの期待がある。
		百貨店（売場担当）	・4月の気温は異常であり、この状態が長く続くとは考えられない。今の社会情勢や景気の状態から、4月の負け分が5月単月で取り戻せるとはいえないが、買い控えをしていた方の反動は多少なりともあるはずである。
		百貨店（経営者）	・周辺企業の賞与が前年増となりボーナス商戦が期待できる。株高とは違い賞与増は全体の景気を上向きにさせるので期待できる。
		スーパー（店長）	・ますます競合激化エリアになるが、競合店オープンの影響も落ち着き、業績回復の見通しを立てている。
		スーパー（店長）	・中元商戦を目前にして、ベースアップ等の満額回答もあり、消費全体が上向いている。
		コンビニ（経営者）	・買上点数が大幅に伸びているのは、景気の上向きに期待して、気持ちに少しの余裕が出てきているためとみられる。買上単価も前年比3%増だが、買上点数ほどの伸びではないので、緩やかな上昇という判断である。財布のひもは間違いなく緩んできているが、あと一歩のところである。
		コンビニ（エリア担当）	・客単価に回復の兆しが見られる。店内で調理しているファーストフードや生鮮品などの伸長が起因している。
		コンビニ（エリア担当）	・当社の出店ペースも加速する。また、施策も多く実施する。
		コンビニ（エリア担当）	・公共事業の進行や賃上げ、金融緩和などの効果が少しずつ一般消費者まで波及するとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・暖かくなれば、来客数の増加も見込める。
		衣料品専門店（店長）	・前年は震災の影響もあり、シニア層の旅行マーケット、ジャケットマーケットがなかなか動いていなかったが、今来店している客の感触では、この辺の客の動きがそろそろ出てきそうである。夏に向かって閑散期的なタイミングでこういったシニア層の動きが活発になってくるので、少し良くなっていくのではないかと期待している。
		家電量販店（店長）	・前年が景気の底とみているので、緩やかに改善していく。
		家電量販店（店長）	・全体的に景気は上向きのようなのだが、業界や業種によりばらつきがある。日経平均株価が上昇しつつある今の段階では、やや良くなる方向に向かっていくようではあるが、小売業について油断は禁物の状態である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・原発事故の賠償金や復興需要の影響で、単価の高い、少し良いものが売れている。テレビの不調は現在も続いているが、2、3か月後にはこの不調も脱するとみている。県全体としても3か月後から明るくなってくると期待している。良いものを買うという単価の上昇志向も見られることから、景気も良くなっていくことが期待できる。
		乗用車販売店（経営者）	・個人の購買意欲の盛り上がりはまだ少々欠けており、受注面では当面10%近い前年割れが続くとみられる。しかし、円安株高による好業績を背景に、法人関係の代替え需要の発生に支えられていく。
		乗用車販売店（経営者）	・活発化しつつある客の動きに加え、新型の軽自動車発売など、期待されるイベントがある。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・今後、新年度予算の執行や除染活動の拡大により、軽油の需要を中心に増加してくるものと予想される。また、復興需要が原発賠償金の支払の執行とともに地場の建設を下支えしていくので、当面、石油需要は堅調に推移する。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・燃料の売行きが回復傾向にある。4月後半は前年比ガソリン101%、軽油106%と前年を上回っている。除染関係の仕事が本格的になったことが影響しているようである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・2013年度に入り売上高が前年と比較して伸びている傾向にある。
		高級レストラン（経営者）	・今の円安であれ、株高であれ、しばらく続くとみられる。日本経済も大分復調してきており、当社のような零細企業にすぐには影響しないが、良くなりつつあるのではないかと。
		高級レストラン（支配人）	・連休明けは財布のひもも固くなるが、景気の回復の風潮を感じて、夏物商品の消費や国内旅行等の計画が早期に実行される。
		一般レストラン（経営者）	・アベノミクスに期待している。
		一般レストラン（経営者）	・アベノミクスの影響はまだまだあり、今後も良くなっていく。ただ、マスコミ等のおおもりもあつての現象とみられるので、本当に良くなるのかどうかは、今後行政が景気回復に向けきちんとした対策を行っていくのかで決まる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・仙台空港の発着等、新たなフライトも増えている。それにより、ビジネス客が多いが県内への入込も増え、予定外の入込もそれなりにある。こういったことが観光にも好影響を与えることを期待し、来客増に向けた取組をしたい。多少明るさが見えてきている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏に向けて復興イベントが組まれており、県外からの客がたくさん訪れる。
		旅行代理店（従業員）	・アベノミクスの効果が期待できそうである。
		タクシー運転手	・働きたくても仕事が無いという客がよくいるが、仕事はあるが全部短期で、不安で就職ができないということのようである。とにかく長期の仕事が全くない状態であるという話をよく聞く。
		通信会社（営業担当）	・自民党政権に代わってから、景気のムードが上がっているようであるし、実際に財布のひもも緩くなっている。投資意欲もわいて先行きは明るいようであり、期待が持てる。
		テーマパーク（職員）	・夏に向かってアベノミクス効果が今よりも明確になってくる。
		観光名所（職員）	・当社は他の県からの客が多くなっている。地元の給与所得者の所得は特に増えてはいないが、そういった方たちの購買意欲は上がっており、財布のひもも若干緩んできているようである。今後、来客数さえ伸びれば、売上も一気に増えていくのではないかと。
		美容室（経営者）	・梅雨時期になると、ストレートパーマをかける客が増える。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・しばらくは良い状態が続くとみられる。しかし、円安による石油関連原材料及び消耗品の値上がり、7月からの電気料金の値上がり、来春の消費税の引上げといった懸念材料もある。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要により、住宅はもとよりRC賃貸マンションの受注が複数確定している。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・震災で被災した家屋の緊急の修繕対応は落ち着き、平常の修繕リフォームの問い合わせに戻っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	商店街（代表者）	・一般的な経済指標や各新聞ではみな景気が上向きになっていて、良くなるはずなのだが、置かれている立場、業種、商売の内容によって、良い悪いが分からない状態になってきている。このまま横ばいになっていくのではないかとみている。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・このまま推移していくような雰囲気がある。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・アベノミクスの影響による給料のアップはごく一部の人であって、これから行われる電気料金の値上げなど、生活に関わる値上げが増え始めている。円安で恩恵を受けた資産家を除き、一般消費者はこの値上げに対して非常に不安を持ち、財布のひもが固くなっている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・景気が上向いているのは確かである。ただ、極端に伸びる材料は見当たらないので、このままで推移するのではないかとみている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・前年までは4月に入れば商品の動きが見えたが、今年は先行きが見えない。
		百貨店（企画担当）	・様々な景気対策のもと多少の追い風は感じる。しかし、大きな期待感を持って臨んだ春商戦も、高額商品の動きが好調であったため前年を若干上回る実績で推移したが、一部の商品の動きにとどまり、消費全体を押し上げるまでは至っていない。ここ2、3か月は現在の動きのまま推移すると予測する。
		百貨店（営業担当）	・来年の消費税増税を控え、高額品を中心に少しずつ特需の傾向が出てくるとみられる。一方で、お中元については、震災特需も一段落しており大きな伸びが望めないことから、落ち着いた数字で推移するものとみられる。
		百貨店（買付担当）	・株価上昇で潤う人も一部にはおり、円安による輸出拡大の期待もある。しかし、公共料金や食料品、ガソリン、灯油などの値上げもあり、財布のひもは固くなる。
		百貨店（経営者）	・今後2、3か月で景気が上向く要素は具体的にはない。株価上昇の恩恵は地方には及んでおらず、高額商品もさほど動きが良くなっていない。
		スーパー（経営者）	・販売量は安定的だが、商品原価上昇傾向のなかで価格競争は厳しくなる。
		スーパー（経営者）	・5月は現在の株高推移や民間各社のエネルギー対策投資も聞かれ、政府の対米、対ロ交渉、貿易交渉も進みだし、将来的な期待感も膨らんでいるようである。ただ、一部百貨店を除き、足元の消費状況には変化が見えてこない。消費環境は大手コンビニ各社の大量出店計画や競合各社の出店など競合関係が厳しさを増すものと予想される。景気への金融緩和の後押しも出て、円安が進み、株高もあり、輸出業など国内の設備投資拡大を期待したい。そして雇用の改善、消費者所得の底上げにつながっていくことを期待したい。ただ消費の状況はしばらく現状のまま推移するものとみている。
		スーパー（店長）	・来客数は微減、1点単価及び買上点数も減少という状態が続いているなか、価格を上げるどころか、ますます価格競争に拍車がかかっている。この状況は簡単に脱却できそうにない。
		スーパー（店長）	・金融政策による円安や株価の回復など、国内の景気そのものに期待感があるが、農業生産県である本県ではその影響も少なく、逆にT P P参加や消費増税など不安材料も多い。
		スーパー（店長）	・競合の状況も来客数も変わらない。
		スーパー（物流担当）	・4月からの輸入原材料の価格上昇による商品の値上げが始まっており、客の購買動向はより価格に向いている。競合状況が激しいなかでの集客には、チラシ価格を強く打ち出さなければならず、1点単価及び客単価の下落傾向が続く今の状況は変わらない。
		コンビニ（経営者）	・現在のままの推移になると予想している。
		コンビニ（エリア担当）	・現状で来客数が回復傾向にあり、夏の観光需要にも期待が持てる。引き続き来客数の回復に期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・円安、株価の上昇で一見、景気が好転しているようだが、この状況が継続できる希望は持てないため、給与支給を増やす企業が増えたとしても、世の消費が増えはしない。
		衣料品専門店（経営者）	・フリー客のシビアな購買状況は変わらないが、富裕層の購買が活発な状況はこれからも続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・大雪の影響により車関連と建設関連に多少の上昇機運が見られ、今後に期待できる見通しである。また、円安で輸出関連企業の復調に期待する。
		衣料品専門店（店長）	・円安や株価上昇など、景気回復への期待を持ちたいところであるが、一般消費者の給与に恩恵が出てくるまでの間は急に購買意欲が高まるとは考えにくい。
		衣料品専門店（店長）	・年々、クールビズによるスーツ離れが進んでおり、客単価が低下している。
		衣料品専門店（総務担当）	・来客数及び買上点数に増加が見られない状況のため、景気の上向き、消費活動の増加にはまだ時間が掛かる。
		乗用車販売店（経営者）	・例年、この時期から8月までは販売量は下降傾向にあるが、今年はその傾向が早まってきている。
		乗用車販売店（従業員）	・今後も新型車が何台か出る予定があるので、景気が良い状態が続くとみている。
		乗用車販売店（店長）	・ハイブリッド車やエコカー等、話題性のある新型車の予定は無い。今後しばらくは我慢が続くだろう。
		自動車備品販売店（経営者）	・例年だと6月くらいまで繁忙期が続くのだが、今年は現在の仕事量が少ない状況が変わらないと予想される。
		住関連専門店（経営者）	・地方は過疎化などで需要を引っ張る力に乏しく、インフレによる売上回復には相当の時間がかかる。また、今後消費税増税による影響を心配している。
		住関連専門店（経営者）	・現状ではなかなか回復基調は見えない。大企業はアベノミクスの恩恵を受けることができるが、地方ではまだまだそういうところはないので難しい。2、3か月先も現状のまま変わらない。
		住関連専門店（経営者）	・デフレ解消の経済効果も出ているが、当店に来る客はデフレ解消というよりも、値段の安い商品を求めて来る客が多いため、なかなかデフレの解消というわけにはいかない。それで、景気が追い付いていかない面がある。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・現在、問い合わせや見積の件数が出てきているが、すべてが契約や受注に至るわけではなく、ある程度の件数に落ち着くのではないかと予想している。客はまだお金を使うことを渋っている様子が見られるため、今後も市場全体の活性化は期待できそうにない。消費者全体でもお金の循環はできていないようである。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・天候が良くなれば動きも出て売上が上がるのは当然だが、それが今以上であったり例年以上かと問われれば何とも言えない。まだまだ消費者の財布のひもは固いままである。報道などに流されてそれが簡単に緩むとは到底考えられない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・まだまだ地方ではアベノミクスの効果は現れていない。消費者の様子見が続くのではないか。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・一部企業の業績回復など良い要素もあるが、地方ではまだ変化が現れていない。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・特に大きな変動要因は見当たらない。これから各メーカーの動きが活発になるようなので、定番の売れ筋商品と付加価値の高い人気商品の集約と新商品発売による品ぞろえやメニューの入れ替わりが少しずつだが着実に進んでいくとみられる。しばらく堅実な動きが続くと予想している。
		一般レストラン（経営者）	・以前だとレストランや少し高級な飲食する客の中心は中年であったが、この頃はそういうことを控えている。今後とも景気の良し悪しにかかわらず、そういったことは控え続ける習慣が付いてしまっているのではないかとということで、今と変わらない状況が続くとみている。
		一般レストラン（経営者）	・良い話は聞こえてこないが悪い話もそれほど聞こえてきていないので、現状維持が続くと予想している。
		スナック（経営者）	・今月は歓送迎会で多少人の流れもあったが、来月からは連休もあり、来客数はまた元に戻る。多少景気が上向きのような気もしないではないが、都心から当地までそういった流れがくるには時間が掛かりそうである。
		観光型ホテル（経営者）	・震災復興支援関係の客も減り、4～6月の地域の大キャンペーンも集客があまり芳しくない。
		観光型旅館（経営者）	・世間の景気は上向きのような雰囲気報道されているが、実際の予約は特に増減なくあまり変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型旅館（スタッフ）	・ゴールデンウィーク期間の国内旅行需要の向上が報道されたが、施設の現実としては、売れる日は一部に集中しており、構造上一日の売上に限界もあることからあまり変化は無い。今後もその傾向は継続されるとみられるため、在庫と料金のコントロールを強化していかなければならない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・消費者のマインドは格段に回復しているようだが、ホテル業についてはタイムラグがあるため、実感として出てくるのはまだまだ先である。そのときのために、消費者のニーズに応えられる商品をそろえておくことが必要になる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊はJRA開催の週末特定日、一般宴会は定例の件数以外は今のところ目立った動きはない。景気回復による職場旅行や家族旅行に期待したい。
		旅行代理店（経営者）	・今の状況からみて2、3か月後に良くなる要素が見い出せないため、変わらない。
		旅行代理店（店長）	・現在既に良い状態にあり、今後大幅な円安に傾かない限りは良化も悪化もしない。
		タクシー運転手	・これから始まるゴールデンウィークに期待したい。
		通信会社（営業担当）	・2、3か月は景気は変わらない。夏の賞与時期が分岐点とみられるが、今後は格差が生じてくるのではないかとみている。
		通信会社（営業担当）	・アベノミクス効果を期待している。
		通信会社（営業担当）	・現在の水準は継続すると予想され、短期での改善は望めない。
		通信会社（営業担当）	・一部では回復している兆しもあるが、全体としては変化は無い。
		通信会社（営業担当）	・一部の業界では好況感があるようだが、東北の大方の企業では好況感を感じるまでに至らない。
		通信会社（営業担当）	・4月は転入による新規加入の大幅な増加があったが、5月以降はしばらく新規加入が見込まれる大きな要素が無いため、売上もあまり変わらない状況が続くとみられる。
		観光名所（職員）	・この先の予約状況は前年並みである。
		遊園地（経営者）	・景気回復はメディアで報道されるほどには地方に波及していない。ただ、他の地域よりは復興需要により下支えされており、下降には至らない。
		競艇場（職員）	・現在の景気からよほど良くならないと、当業種には影響が出ない。
		美容室（経営者）	・期待感で良くなってほしいということはあるが、客の動向からして、まだしばらくはこの状態が続くとみている。一気に回復というのは難しい状態である。
		美容室（経営者）	・景気は少し良くなりそうな期待はあるものの、客の動きなどで実感できるまでには時間が掛かりそうである。
		設計事務所（経営者）	・しばらくはこのままの状況が続くとみている。
	やや悪くなる	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・大きくまとめ買いをし、今まで富裕だと思われていた客が経済的に余裕が無くなったという話を立て続けて聞いていた。さまざまな事情で蓄積してあった資産を失ってしまったということである。得意客でも、本当に収入が多い人はまれで、資産を取り崩してやりくりしている人がほとんどのようである。特に若い人は資産も少なく、医療や保健に自費をかける傾向が見られる。優良な客層は従来の高齢者であるが、この層が薄くなっていくと予想される。
		スーパー（総務担当）	・既存店の乗客数と買上点数が前年比94%台となり、落ち込みが大きい。なかでも、花とベーカリーの売上高の落ち込みが大きい。それだけ節約志向が進んでいるとみられる。
		コンビニ（経営者）	・天気や気温が安定しない限りは、景気もなかなか良くならない。
		コンビニ（店長）	・当店の周りの会社は電力関係が多いが、今年の労使交渉も思わしくなかったようで、いらいら感が非常に募ってきている様子がある。そして、価格に非常に敏感であり、あまりお金を使わないようにとの工夫が見られる。また、原油価格も上がるなど、良い材料も無い。しかしながら、そこまで悪くもないので、やや悪くなるくらいの雰囲気である。
		乗用車販売店（店長）	・半期決算期前ということもあり販売量が毎年伸び悩む時期でもあるのに加え、クリーンディーゼル補助金も終了したことも重なるので、景気が落ち込むことが考えられる。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・夏物の動きが全く読めない。売りたい商品はたくさんあるのだが、果たして客が求めているのは何なのかを逆に調査をしていかないと取り残される気がする。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（支配人）	・ポイントになるのはT P Pである。情報が無い分不安感が大きい。多分現在の雇用や給与にも影響が出るはずである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・大雪に加えて、当県では大手電子部品メーカーのグループ会社が相次いで閉鎖しており、県内景気に与える影響は非常に大きくなっている。デスティネーションキャンペーンが始まる秋までは何とか持ちこたえたい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・向こう3か月の予約状況から、今後はやや厳しい局面を迎えると予想される。
	悪くなる	スーパー（経営者）	・食品のみならず日常の生活品等々の値上げ要請がきているが、原価は上がっても売価ベースでは転嫁ができない。また、給与ベースに反映されるにはまだまだ時間が掛かる。
		コンビニ（経営者）	・人口の流出がかなりあり、客の動きが大分鈍くなっている。そういった面ではかなり落ちると予想される。
企業動向関連 (東北)	良くなる	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・原簿賠償金が各企業に入っているため、それにより景気も上向くと予想される。また、国の企業立地資金を始めとする復興関係の補助金が行き渡ってきて、景気の下支えになる。株式市場も回復しているので、そういう部分もプラスに作用していく。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先の設備投資に期待感がある。
		建設業（従業員）	・官公庁からの発注見通しが出始めてきており、夏ごろにかけて地方自治体W T O案件の出件が見込まれている。
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・デスティネーションキャンペーンで少し動きは良くなりそうである。
		繊維工業（経営者）	・円安株高等により、何となく景気が良くなっているような雰囲気があるので期待したい。
		木材木製品製造業（経営者）	・住宅着工が順調に推移する。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・年度の初めということもあり、少し動きが出てくるような話が来ている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・円安による会社業績の改善継続、アベノミクスによる公共事業拡大での周辺企業の業績アップ、また夏の賞与の期間に入るため、今年に入ってから会社業績改善が実利として見えてくるフェーズに入る。
		建設業（企画担当）	・技術者不足等一部に懸念があるものの、官庁工事の出件増で受注量の増加が見込める。
		通信業（営業担当）	・株価の上昇、円安の進行によるメリットが地場企業へ浸透しはじめて、雇用及び設備投資が上向き、販売価格等も上昇するとみられる。
		金融業（広報担当）	・販売額の増加が期待できる。
		広告業協会（役員）	・広告業界も業績が上向いてきたので人材募集に力を入れているが、応募者が集まらず苦戦している。
		広告代理店（経営者）	・選挙も控えており期待しているが、印刷物の用紙の値段が上がるとのこと、その分を価格に反映できるかどうか微妙なところである。
		広告代理店（経営者）	・様々な業務に関する引き合いが多くなっている。
		司法書士	・消費税増税前の駆け込み需要が期待できる。
公認会計士	・建設関係は人手不足、資材不足で復興関係の仕事が進まない状況であるが、これが落ち着いてくれば、徐々に景気は良くなるとみられる。		
変わらない		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・2月ころから前年とは様子がだいぶ変わってきている。受注量、販売量共に前年より非常に良い状況にあり、今後も期待が持てる。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・デスティネーションキャンペーンが6月まで続くことから、地元、観光需要の高まりによるホテル、旅館を含めた飲食需要に期待が持てる。
		金属工業協同組合（職員）	・依然、低価格及びコストダウンの要請はあるものの、以前に比べて量及び新規引き合いが目立ち始めてきている。
		農林水産業（従業者）	・農家の収入は震災前と比べ前々年は3割、前年は7割程度となっており、風評被害は徐々に少なくなっている。今年こそは従来の値段で売れるのではないかと期待感がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		食料品製造業（経営者）	・観光土産としての牛タンの人気は維持されている。レストラン関係の売上も、やはり当地に来たら牛タンをという客がまだまだ根強くおり、今後もしばらく変わらないとみられる。また、アメリカの牛タンも30か月齢以下のものが入荷されるとなると、品質的に向上することも予想され、人気はまだまだ維持する。
		食料品製造業（総務担当）	・消費者に景気向上の実感がないようなので、当面変化は無い。
		食料品製造業（総務担当）	・商品はし好品であるが、購入額は変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・円安による輸出環境の良化はあるが、国内生産に大きな変化は無い。
		建設業（経営者）	・現在は景気よりも物価上昇が先行している。今後は消費税増税の影響で工事量は増えると予想され、期待もしている。
		輸送業（経営者）	・若干の変化は見られるが、大きな好転は期待できない状況である。
		輸送業（従業員）	・貨物の動向に大きな変動要因が見当たらない。
		通信業（営業担当）	・若干は持ち直す兆しは見えるが、際立って上向きになる要素は見当たらない。
		通信業（営業担当）	・企業は良くなる傾向が出てくるかもしれないが、一般消費者のレベルは変わらない。
		金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因は無い。
		経営コンサルタント	・デスティネーションキャンペーンやテレビドラマの効果で東北への注目度が高まっている。
		コピーサービス業（経営者）	・国の復興予算はまだ末端の我々の業界まではきておらず、店頭は来客数も減少傾向にあり、凶面の動きが悪い状態である。また、物販営業も大口の取引は発生せず、小口の取引に追われている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・10月からの下期に期待したいが、それでも予算削減の影響は免れない。
		やや悪くなる	
出版・印刷・同関連産業（経営者）	・行政等の発注量が減ってくることが予想される。		
土石製品製造販売（従業員）	・今年度の予算がほとんど復興事業へ回るため、大きな発注工事は落ち着いてからとなりそうである。		
その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・管理している工場の先行きが上向きではない。当地でも規模の大きな工場であるため、それに伴い取引先である多くの小売業や運送業の仕事量の減少に繋がる懸念される。		
悪くなる		—	—
雇用関連 (東北)	良くなる	アウトソーシング企業（社員）	・受注件数が前年同時期と比べて増えており、閑散期がなくなっている。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・求職者が微減しながらも、引き続き求人が多くなる現象が止まらない。一方で、それでもマッチングする現状を分析すると転職が見えてくる。特に営業職やCADなどの技術職での動きが顕著になってきている。既存企業に収まっていた人材がついに重い腰を上げた様子が見取れる。いよいよ景気が上がってきているように感じる一方で、実力が伴わない浮き足立った人も増えてきているのが心配である。
		人材派遣会社（社員）	・アベノミクス効果は数か月は期待を含め継続する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・当県の場合、参議院選挙を以て知事選と仙台市長選があり、そこまでは復興需要とあいまって上向き傾向が続くとみられるが、その後の反動がいつくるのかという不安要素を抱えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業の採用意欲は積極的になっている。今後は雇用形態で正社員採用が増えてくれることを期待したい。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・過去の例からいえば、求人数が増えるイコール景気が上向きとなるが、そういった循環が起きている。
		民間職業紹介機関（職員）	・製造業は相変わらず停滞しているが、他の業種は求人も増加傾向となっている。総合的に判断すると良くなってくる。
		変わらない	人材派遣会社（社員）
	人材派遣会社（社員）		・現状は求人依頼が増加しているものの、年度替りという季節的需要も含まれているため、企業側の業績、派遣単価も含め、いまだ景気向上を実感するには至っていない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）		・5月の申込状況も今一つである。7月の参議院選挙までは様子見が続くとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・建設業、卸小売業及び医療・福祉関連からの求人は依然増加しているものの、新規求人数が2か月連続で減少しているのが気に掛かることである。
		職業安定所（職員）	・大手製造業の生産拠点再編による解雇者の半数がまだ就職できていない。また、今後も解雇の発生が予想されている。
		職業安定所（職員）	・新規求人の前年割れや季節的要因もあり、有効求人倍率の多少の変動はあるが、依然として求人は高水準で推移するものとみられ、状況が大きく変わることは考えにくい。
		職業安定所（職員）	・円安による原材料価格の上昇等が企業に及ぼす影響が懸念され、雇用に及ぼす影響も注視する必要がある。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は12月の1.34をピークに、1月1.28、2月1.26、3月1.21と3か月連続で減少しており、先行きが心配である。
		職業安定所（職員）	・当所の基幹産業である製造業の求人は少なく、今後も急激に増加することは考えられない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は依然として高水準で推移するとみられる。そのなかで、建設業の伸びが見えているので、今後も同じ水準でいくとみられる。ただ、現状の景気としては大きく変動するものではないと推測される。
		職業安定所（職員）	・電力会社から7月以降の電気代の大幅な値上げ要請がある。直接的なコスト圧迫と原材料の値上げに結び付いた場合は利益の悪影響が予想され、人件費へのしわ寄せに繋がることも懸念される。景気拡大の期待と不安が相殺される、との製造業からの話があった。
		やや悪くなる	人材派遣会社（社員）
悪くなる	—	—	

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	良くなる	コンビニ（経営者）	・気温の上昇とともに売れる商品が多くなり、また、夏休みに集客率が上がるため売上が伸びていく。
		一般レストラン（経営者）	・個人客、家族客の動きが多少ではあるが良いため、この先の会社関係にも期待できる。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・事業所等から引き合いの見積が少しずつ増えてきており、先が明るい感じがする。
		百貨店（営業担当）	・着物といった高額商品などの動きが出始めている。
		百貨店（販売促進担当）	・現状は報道先行で、アベノミクス効果は実感として乏しいが、県内において好調に推移し始めた企業もあることなどから、少しずつだが消費に回ることが期待できる。
		百貨店（店長）	・円安、株高による企業業績の上方修正が多くなってきたほか、一部メーカーの生産が国内回帰するとの情報もあり、賃金に反映されれば良くなる。ベースアップの期待感がある。
		スーパー（店長）	・天候の予測次第で上下するので、毎年、この月の見通しが難しい。暑い夏になるとの予測が多く、近隣の消費者の動向から判断すると上向きとなる。
		コンビニ（経営者）	・ゴールデンウィークの前半3日間をみると、売上が前年比110%、来客数が同102%と明らかに使っている。平日も、たばこコーヒーだけだった人がガムを1品追加したりしている。やや良くなってきているようである。
		コンビニ（経営者）	・夏場の暑さとコンビニの相性という意味で、ある程度売上が見込めるということが一つと、他店との競合関係もある程度落ち着いてくるのではないかと期待から、やや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・気温が大分高くなってきており、週末の天気が良いときは来客数が伸びている。
		衣料品専門店（統括）	・4月に入り、やや客の動きが出てきている。特に当店の専門である祭り用品については、夏の納涼祭に向けての準備も始まっている。しかし、郊外に大型ショッピングセンターがあるため、来街者はなかなか増えない。
		家電量販店（店長）	・家電リサイクル法施行から12年が経過しており、エアコンの買換え需要が発生している。冷蔵庫や洗濯機が同じように盛り上がっていかれば良くなってくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・コスト削減などの締め付けで、第2次以下の下請業者の経営は楽ではないようであるが、そういうなかでも一部の企業で社員の所得は微増すると思う。内需拡大につながることを期待している。
		乗用車販売店（統括）	・例年4月は販売台数の落ち込みがあり、その後持ち直してくるのが恒例となっているため、今後は回復していく。
		乗用車販売店（販売担当）	・当地域は観光地だが、福島第一原子力発電所の事故による風評被害も徐々に消えて、観光客が戻ってきた。外国人観光客も戻ってきている。また、安い旅館などが平日でも7～8割、土曜日はほとんど満室である。このままゴールデンウィーク、夏休みに突入すれば、かなり景気が良くなるのではないか。
		自動車備品販売店（経営者）	・来客数並びに周辺道路の交通状況などからすると、多少、人の動きが活発になっている。
		住関連専門店（経営者）	・趣味の品や行楽用品の販売実績が向上しつつある。
		スナック（経営者）	・客の雰囲気が良くなってきている。皆明るくなってきており、よく飲むようになってきている。
		観光型ホテル（営業担当）	・今年は地域挙げての周年記念イベントが数々行われ、それに伴い様々な告知も実施されているため、多少の期待感を持っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・輸出業界では大分企業も活発化していくのではないかとと思うが、まだまだ地方では影響が少ない。3か月先は現状のままではないか。
		旅行代理店（経営者）	・今の上昇傾向の流れで、これから更に良くなると考えている。来客数の動き、客単価の上昇等、大変期待している。
		旅行代理店（所長）	・円安、鳥インフルエンザなど、海外に不安要素があり、終息するまで国内基調で推進すると思う。学生団体のシーズンにも入るので、客の動きは更に活気を帯びてくる。
		旅行代理店（営業担当）	・ゴールデンウィークを迎え、国内、海外旅行共に取扱量が増えることが予想される。
		旅行代理店（副支店長）	・ゴールデンウィークを含めそれ以降の受注や商談が増え始めている。個人客も国内旅行の商談が増えてきており、夏に向けて受注が増えそうである。企業については、中国以外への海外出張も順調で、社員旅行の商談も出始めてきている。
		通信会社（営業担当）	・まだ景気回復の実感を抱くまでには至っていないため、例年より若干消費が高くなる程度に落ち着く。
		テーマパーク（職員）	・ゴールデンウィークの国内旅行の増加や開園記念イベントなどにより期待ができる。
		ゴルフ場（業務担当）	・今月は土、日の天候が不順だったせいか、入場者の確保にやや苦慮しており、前年比ほぼ横ばいである。単価はある程度維持している。物品の販売等も前年並みに推移をしている。また、向こう3か月については、会員の補充募集関係で結構引き合いがあり、入会を希望する人の声も聞こえている。2、3か月先の予約の引き合いもきている。先行きの景気の明るい兆しを感じて消費につながっていくのではないのか。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・両替機を利用する客のなかで、1万円札を使う客が結構増えつつある。しかし、単価が上がっているわけではなく、おつりとして持って帰ってしまうという状態である。アミューズメントは景気が悪くなった時も、比較的遅い段階まで景気の落ち込みを感じずにきたが、これから景気が良くなっていくなかでも、少し遅れ気味に上がってくる。3か月先を見通すのであれば、間違いなく良くなる傾向は現れてくる。
		美容室（経営者）	・これから先、地震や北朝鮮のミサイル等のマイナス外部要因がなければ、少しずつ来客数が増えてくる。
		設計事務所（所長）	・建築の場合、9月末までの契約であれば消費税が現状のままである。そのため、それまではとりあえず良い状態が続く。
		住宅販売会社（経営者）	・実際に首都圏では、人気のある地域の地価が上昇傾向にある。地方まではまだ先ではあるものの、地価上昇の前から動きが活発化してきている。需給関係に動きがあることは確かであることから、良くなると予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・全事業が好調だが、原材料の高騰や技術者不足が深刻となっており、施工が追いつかない状況が続いている。欲を言えば、更に強力にエネルギー問題に取り組んでほしい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	商店街（代表者）	・良くなることを期待したいが、選挙で一時的に足踏みするような気がする。
		商店街（代表者）	・毎年新学期になると、小学生は臨海学習、中学生はキャンプや登山が始まり、また、水泳用品の販売も始まるため、何とか夏の間はいろいろと販売があって、前年並と思っている。
		商店街（代表者）	・マスコミ報道に踊らされているのか、アベノミクスの実感がないのが現状であり、中小零細企業に三本の矢が届くのを消費者は待っているようである。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・物価は上がり始めているが、給料はまだ上がる見込みがないため、客は買物を控えている。アベノミクスの影響がこちらにもきてくれればと思っている。
		一般小売店〔乳業〕（経営者）	・地方の一般消費者の消費意欲が良くなる要件はまだ見えてこない。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・当地域で大企業の合併が7月にある。その合併を見てからでないと、この街の今後の景気については答えられない。
		百貨店（営業担当）	・円安による輸出企業の景気に期待感はあるが、実際、生活必需品の値上げも進んでいくため、総体的にはそれほど極端に良くなるとは思えない。
		百貨店（販売促進担当）	・円安、株高との報道が目立つが、実体経済は依然停滞したままのように感じる。向こう2、3か月で消費行動が改善するとは思えない。
		百貨店（店長）	・政府の支持の高さや、円安、株価などの環境がしばらくは続くと考えられ、少なくとも夏まではこの好況感が維持できる。
		百貨店（店長）	・中小企業に円安の恩恵はない。景気が上向くにしても、地方がプラスになるには時間がかかる。
		スーパー（店長）	・曜日ごとの来客数は、数か月間変化がない。
		スーパー（総務担当）	・株価の上昇、大手企業の賞与の満額妥結、輸出製造業の受注拡大に期待する部分はあるが、輸入品の価格上昇、消費税増税のマイナス与件もある。
		スーパー（統括）	・消費マインドの改善だけでなく、わずかではあるが実質売上高が前年同期比で増加してきており、市況にブレーキがかかる要素もなく、しばらくはこの傾向が続くとみている。
		スーパー（経営企画担当）	・株高や大手企業の好決算、百貨店の売上回復が報道されているが、必需品を扱う業界ではその恩恵はすぐには表れず、むしろ小麦粉やガソリンの値上げなどのマイナス要因が心配である。
		コンビニ（経営者）	・今までは来客数が少し落ち込んでいたが、元の数字に戻つつある。ただし、客単価がやや低下しているため、今後も変わらない。
		コンビニ（店長）	・街中から外へと客の動きがますます激しくなっている。特に土日、祭日が影響を受けている。何とか現状維持をしたいところである。
		コンビニ（店長）	・当地域での競合店の出店などは一応落ち着いたようなので、今後は現状とあまり変わらない気がする。来客数の減少理由が今一つ把握できておらず、特に夕方から夜にかけての減少の理由がはっきりすれば若干回復すると思うが、特別変わらない。
		衣料品専門店（店長）	・円安や株高により景気回復の期待はあるものの、売上の減少傾向は続いている。消費者の収入が増えない現状と、食品や燃料費の上昇、また、消費税増税による負担増が控えているため先行きが不安であり、悪い状況は続く。
		衣料品専門店（販売担当）	・身近なところでの値上げが進み、これから加速するようなことがあれば悪くはなると思うが、今のところ、このくらいだったら仕方がないという忍耐の部分がうかがえる。そのため、今月と比べてほとんど変わらない。
		家電量販店（営業担当）	・産業用の太陽光発電は魅力があり動きがある。売電価格も36円となったが好調である。しかし、電力会社の対応が悪いことを懸念している。
	乗用車販売店（経営者）	・このままの状況がしばらく続く。	
	乗用車販売店（経営者）	・来年の消費税増税を前にした住宅関連の動きも地方ではあまり見られない。景気が良くなるのはもう少し先ではないか。	
	乗用車販売店（販売担当）	・世間ではアベノミクスで景気が良いと言われているが、我々販売店はずっと変わっていない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（店長）	・3か月くらいでは、今の状況は変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・少しずつではあるが、車種を絞り込んでの台替え相談が出ている。しかし、全体的にはまだまだ低調である。
		住関連専門店（仕入担当）	・生活必需品、消耗品への節約傾向は今後も継続し、デフレ傾向もまだ当分続くと予測する。
		一般レストラン（経営者）	・ここ何か月か客単価もそれほど上がらず、集客も伸びていないため、売上がほとんど変わらない。なかなか売上が増える要因も少ないため厳しい。
		スナック（経営者）	・テレビのニュースでは景気の良い話が多いが、なかなか地方には回っている様子がない。まだ2～3年の長い闘いだと思う。本当に大都会とは違っている。
		観光型旅館（経営者）	・4、5月の予約状況が、前年よりやや悪い。
		都市型ホテル（支配人）	・当地域では、まだまだ福島第一原子力発電所の事故による風評被害の影響がある。また、当地域の空港ではメインの国際線が現在運休していることもあり、外国人客や空港を利用する客の宿泊はまだ入ってきていない。
		都市型ホテル（営業担当）	・このところ良くなってきていると感じるが、3か月後は更に伸びるところまではきていないと思う。実際、企業は潤ってきており、様々な良い要素もあるが、個人までその波及があるかが気になるところである。
		タクシー運転手	・電車から降りてくる人は大勢いるが、タクシーを利用する人がいない。また、深夜の人通りも全くない。地方は駄目である。
		タクシー（経営者）	・不景気感があり、この先も変わらない。
		通信会社（経営者）	・解約数や休止数が昨年と同様の傾向であるため、すぐに状況が良くなるとは考えにくい。
		通信会社（総務担当）	・円安の影響により、仕入等の材料費の値上がり懸念される。
		通信会社（局長）	・個人消費の現場では、円安、株価上昇の効果が出ておらず、景気回復の実感がない。
		ゴルフ場（支配人）	・新緑の季節を迎えゴルフシーズンとなるが、プレーヤーの財布のひもは固い。値引き交渉は常にある。現在、周辺のゴルフ場数が多く、需要と供給のバランスが悪いため、この業界の行く末が案じられる。
		競輪場（職員）	・全国発売の記念レースの売上額にそれほど変化がみられない。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・定期契約については最近伸びているが、一方で解約もほぼ同数となっている。また、予約台数についてもほぼ同じであるため、横ばいで変わらない。
		その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・世の中の動きとしては景気が上向きの風潮だが、地方においてはそのような感じは受けない。
		設計事務所（所長）	・先期の受注で忙しくはなるが、景気はさほど変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・株高やボーナス増などの一部の景気の良い報道に刺激されて、従来よりお金を使おうという機運が高まっているように感じる。
		住宅販売会社（経営者）	・昔のバブル期もそうだが、東京が良くなってから2、3年後でないと地方には波及しない。恐らくここ半年や1年では全く変わらない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・大型店が来月閉店するため、大型店同士の売出しが激しくなり、一層、街や路面店への買物客が減る。周辺の小売店はますます厳しい。
		スーパー（商品部担当）	・電気料金の値上げや一部の小売商品に値上げ傾向がみられ、消費動向が上向き雰囲気を感じられない。
		乗用車販売店（従業員）	・受注量は横ばいで推移しているが、コンパクトカーが増加しているため、収益面では減少していく。
		一般レストラン（経営者）	・円安による価格上昇に対し、一般消費者の飲食業界に対する考えは変わらない。むしろ厳しくなっているようにも思える。今は当業界にとって、ある意味で以前より悪い状況である。
		一般レストラン（経営者）	・例年、ゴールデンウィークを過ぎると急激に客が減る傾向であり、本年も変わらないのではないか。
		スナック（経営者）	・ゴールデンウィークで、客の入りが毎年悪くなっていることを考えると、来客数は減少する。
		旅行代理店（従業員）	・給料が上がらないなか、公共料金を含め、先に値上げが進んでいるためである。
		タクシー運転手	・他地域から同業他社が進出してきたため、やや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	悪くなる	通信会社（経営者）	・円安で仕入コストが下がらず、利益がひっ迫している。また、業者間での顧客の取り合いで競争が激化し、更に状況は悪化している。アベノミクスの効果が浸透するには、2～3年はかかる。	
		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・福島第一原子力発電所の事故により、山菜、山椒の実や葉が食べられない。当地域で取れる魚も食べられない。そういうことを考えると、良くはならないような気がする。残念だが、その対策を考えないといけないのではないか。	
		スーパー（経営者）	・競争激化による価格の下落のため、悪くなる。	
		観光型ホテル（経営者）	・円安による急激なランニングコストの増加を、売上でカバーできない。	
		通信会社（経営者）	・この状況下では、地方での景気回復はいつになるのか皆目見当もつかない。中央からの波及があるにしても、それを肌で感じられるのは、いつも5～10年後である。そこまで持ちこたえるエネルギーは、今の地方にはない。	
企業 動向 関連 (北関東)	良くなる	食料品製造業（営業統括）	・円安が安定してきており、国内の旅行者の増加がみられる。それに伴って、ワイナリーでは体験型の工場見学者が更に増加して売上高も増加すると期待している。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・中国向け油圧建機の仕事でスポット受注が入ってきている。そのほかの分野に関しても、仕事量が減るとの情報が入っていない。	
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・リース会社を使わない自社製品の直接レンタル、リース契約が今年は大幅に入っている。5年で切れるレンタル、リースも4か所で装置を入れ替えて再契約となっている。	
	やや良くなる	一般機械器具製造業（経理担当）	・円安や株高が、我々、中小企業にも少しずつ影響してくるのではないか。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・5月より、客先の新機種の本格的な生産が始まるのを期待している。	
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先のほとんどが低迷していたが、この2か月間くらいは、仕事量、受注量等が徐々に増えてきている。	
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・アルミ部品などの原材料、電気料金、ガス代などが上昇傾向に入ってきており、さらに、オートメーション化の自動車メーカーからのコストダウン要請が4月から始まり、収益面は非常に厳しいが、生産の3か月見通しでは、非常に高水準の受注量になっているため、量が増えることによって収益面を少しカバーできるのではないか。良い方向に向かっている。	
		建設業（総務担当）	・ゴールデンウィーク明けから発注も動き出すと考えられるので、政権交代、補正予算の効果が顕在化していくことに期待したい。	
		金融業（調査担当）	・非製造業でマインド面の改善が先行しているが、製造業の受注が改善していくことが、景気全体が持ち直しに向かうための条件となる。急激な円安も、原材料価格の上昇によりマイナスの影響が生ずる可能性もある。	
		金融業（役員）	・今後、建設業の一部に公共工事が出てくるなかで、特に当地域は県や国からの受注が増えることになり、そのインパクトがかなり大きくなる。	
		広告代理店（営業担当）	・販売促進予算という一番削減されるようなものが、積極的に投下されている。2、3か月先に納品予定である現在の受注をみても、悪くはない。	
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・経営者のマインドは、間違いなく変化してきている。あとは、受注量がどう増加するか見極めたい。今しばらく時間が必要である。	
		変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・新商品を投入するなど、種々展開はしているものの、売上につながる要素も少なく、先行きは不透明である。
			窯業・土石製品製造業（総務担当）	・良くなるのではないかと期待している。
金属製品製造業（経営者）	・注文が多くなりそうな話はあるが、実際には多くないので、今までと変わらない。			
一般機械器具製造業（経営者）	・受注は2月に底を打ち、それ以降ほとんど変化がない。ただし、採算割れをしているため、人員整理をしなければならない。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・理由は分からないが、景気が良くなっているという話とは反対に、当社はどんどん仕事が減っていき、厳しい状況である。受注の増加は見込めないため、既存の取引先の新しい仕事を取るべく今一生懸命に努力をしている。しかし、取引先でも全般的に販売量が少なく、増産の予定はないということである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・若干の仕事の話は出ているが、まだ成約まで至っていない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・毎日、円安、株高の報道がされているが、当社の現在の受注量、販売高には影響がない。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・売上は期待できると思うが、材料費の高騰から利益の確保が難しい。
		輸送業（営業担当）	・アベノミクス効果による株高等の傾向で景気が回復している状況で、物量的に購買意欲は高まっている。しかし、業界的には円安による燃料コストの負担により、どうしても利益の確保が厳しい状況が続いている。
		通信業（経営者）	・アベノミクスで物価だけが上昇して所得が向上しなければ、消費は増えない。果たして消費者がどこまで耐えられるか、疑問を感じ始めてきた。
		金融業（経営企画担当）	・製造業においては、円安により輸出が伸び、小規模零細事業者にも波及してくるとの期待感や、建設業においても政権交代による公共工事の増加や、消費税増税に伴う駆け込み需要への期待感を取引先が持っていることなどから、景気はやや上向く。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・ある建設会社の社長の話では、補正予算が生まれ、この先、県、市の仕事が見込めると思うが、それは一部の業者に限られ、反対に民間企業の賃上げが消極的なので、景気回復に明るい材料はあるものの、消費者の購買意欲の向上はまだ先になるだろうとのことである。
		経営コンサルタント	・中期的な業績改善を見込んでの設備投資などが散見され、やや動きがあるが、まだまだ経済全体から来る消費や投資への刺激が欲しいところである。
		社会保険労務士	・毎年多少でも賃上げしていた事業所は今年も賃上げしたが、毎年上げてこなかった事業所は今年も賃金は据え置きである。
やや悪くなる		食料品製造業（製造担当）	・7月以降の穀物の単価が、今の円相場だと非常に厳しい。この状態だと、販売数量が横ばいでも原料高騰のため内容が良くない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・相変わらずの見積、低価格競争である。少しでも安いほうに客は行く。
		化学工業（経営者）	・昨年の電気料金の値上がり分は価格転嫁できなかった。今後の電気料金の値上がりで仕入材料の値上げが予想されるため、更に収益が圧迫される。
		不動産業（経営者）	・周囲を観察すると、購買意欲の上昇が偏った分野にしか影響を及ぼしていないようである。経済の流れが、生産力や次世代に還元されない流れになっている。
		不動産業（管理担当）	・業務委託を受けられるように交渉しているが、受注できたとしても業務内容は従来と変わらず、当社の利益が減少する額で受注せざるを得ないため、受注量は元に戻っても、売上、利益は減少する。
悪くなる		建設業（開発担当）	・新年度が始まったばかりで公共事業については今のところ大きく期待はできない。とにかく営業力を強化し、公共工事に頼らず、民間工事にウエイトを置きたい。そのため、こまめに設計会社を訪問し、受注に力を注ぎたい。
雇用関連 (北関東)	良くなる やや良くなる	—	—
		人材派遣会社（経営者）	・ゴールデンウィークを前にしての夏物の衣料品や食料品関係での材料調達での伸びがあった。夏に向けては、まだ見通しの分からないところが多いが、住宅関係や電機自動車部品関係、携帯電話の部品など、こういった生産で幾分募集が増えるとみている。期待は半分くらい持っており、周辺企業もそのような動きと思われる。
		人材派遣会社（営業担当）	・労働者派遣法改正など規制強化の話題から、円安傾向の持続、株高など明るく前向きな話題へと転換している。
		人材派遣会社（管理担当）	・携帯電話のアフター修理業務と麺食品の派遣が増える予定である。
		職業安定所（職員）	・アベノミクス効果に期待感がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・今年に入ってあまり仕事がない。予定していた仕事我突然なくなったり、今のところあまり忙しくない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・当分の間、周辺企業の景気回復は見込めない。むしろ物価上昇により値上がり商品などが多くなると景気が低迷する。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・学校卒業予定者にとって、今ある求人はミスマッチの状況である。景気の好転も含めて中小企業における採用計画がしっかり組まれるようになれば、景気の上昇といえるようになるのではないかと。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・企業から、中小企業緊急雇用安定助成金についての問い合わせが増えている。
		職業安定所（職員）	・ここ3か月の新規求人状況について前年同月比でみると、1月は1割減、2月はほぼ横ばい、3月は5.6%減となっている。対して新規求職者数は、管内主要企業及びその関連企業で4～6月にかけて早期退職の追加実施があり、さらに、例年4月は新規求職者が増加してくるため、4月以降増加が見込まれる。また、管内の複数の企業での合併や主要企業での一部事業の経営統合などもあり、こうした影響から今後の仕事量の減少を心配をする声が企業訪問時などに聞かれる。新規求人関係は厳しい状況がもうしばらく続く。
	悪くなる	—	—

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	良くなる	商店街（代表者）	・今の世の中の中の動向が大きく変わらない限り、アベノミクス効果は続く。また、私鉄の相互直通効果は、気候が良くなればなるほど大きくなる。
		百貨店（店長）	・給与が上がれば、更に良くなる。
		コンビニ（経営者）	・マスコミが良くない、良くない、と言うと景気は悪くなるが、今の状態ではアベノミクスが非常に功を奏していて、我々事業者としては非常に嬉しく思っている。これから間違いなく良くなる。
		家電量販店（営業統括）	・夏の行楽シーズン目前となり、旅行関係、アウトドア関係の商材の販売数量が増加している。引き続き外国人観光客は右肩上がりが増加していくと予想しているため、免税販売は好調に伸びていくと考えている。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・アベノミクスの勝利である。
		旅行代理店（経営者）	・2、3か月先の予約もようやく埋まりつつあるため、大分良くなってきているようである。個人客、団体客共それぞれ、初夏に向けて旅行しようという話が出ているため、今のところ期待している。
		旅行代理店（従業員）	・国内団体旅行の2、3か月先の予約が好調になってきており、電話対応、手配業務を処理するのにかなりの時間を要している。各地から都内への団体旅行の動きが特に好調である。
		通信会社（経営者）	・政策によりマインドは良くなってきているため、早く实体经济に波及して欲しい。
		観光名所（職員）	・これから観光シーズンとなり、毎年4月よりは徐々に良くなっているため、かなりの来客数を期待している。
		設計事務所（経営者）	・顧客から問い合わせが増えてきている。内容は様々だが、ある程度の期間と費用が必要な仕事も動いてきている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・社会全体のベースが上がることで、ある程度、販売量は増加すると思う。
		商店街（代表者）	・周りの状況から、良くなるような気がしている。
		商店街（代表者）	・電気、ガス料金の値上げが控えており、消費者が買い控えることもある。それが一段落してアベノミクスの効果が多少、我々にも及んでくるようになれば、少しずつ伸びてくると思うが、現状ではなかなか難しい。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・アベノミクスなどで、円安、株高などの景気に対するムードが良くなりつつあるため、期待している。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・いくらムード的に景気が良くなる方向に向いているようだが、実体として所得が増えるということではない。しかし、ムードが良くなるということは、やはりやや良くなるのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・経済のファンダメンタルという部分で数字が良くなっているとはまだ実感できないが、景況感、また、各企業の業績の好調ぶりを考えると、この景気の上向きは、消費税増税前までは続くのではないかと。
		百貨店（営業担当）	・円安、株価がある程度景気を良くしているが、一方で原材料高騰などにより、製造メーカーが苦戦しているのも事実である。夏の賞与支給情報が前年比マイナスにならなければ、良い状況を維持できそうである。
		百貨店（販売管理担当）	・株価上昇がすぐに所得の増加につながるわけではないが、明らかに今まで我慢していたファッション関連商材に動きがみられる。今後の消費、購買意欲の回復に大きな期待が持てる。
		百貨店（副店長）	・外商顧客の客単価は上がっていないものの、買上金額は増えている。政府の政策、例えば税制改正などを受けて消費を拡大しようとしている客の声を多く聞く。
		百貨店（管理担当）	・新政権の経済政策であるアベノミクス効果による円安、株高の恩恵を受けた企業の好決算が続いている。
		百貨店（営業企画担当）	・高額品は堅調であるものの、衣料品は天候の影響も大きく、3月に需要が前倒しになっていた傾向がうかがえ、本格的に回復するかどうかは、今後の消費者の収入の動向に左右される。
		百貨店（計画管理担当）	・景気はマインドで大きく変わると思うが、元々当店の主要顧客は、資産を持っているが貯めこんでいるため、世のすう勢が変わることによって消費が活発になることを期待している。
		スーパー（店長）	・今後の経済対策にもよるが、客のなかで給与増や雇用の改善から、将来の不安が減り、お金を使おうという流れがあり、さらに良くなっていくのではないかと期待している。
		スーパー（店長）	・競合店が出店してから4か月になるため、現在の底から脱するという意味でも、今よりはやや良くなると期待している。
		スーパー（店長）	・賃上げや株価上昇により、景気に対する期待感と消費マインドの上昇がかい間見えて、良い方向へ向かっていく。
		スーパー（営業担当）	・このまま円安、株高が継続するようになれば、相関関係で良い方向にどんどん向かってくるのではないかと。
		スーパー（仕入担当）	・景気自体は上向きになっていくと思うが、円安により輸入商品の値上げ幅が大きくなる傾向にあり、懸念される。
		コンビニ（経営者）	・アベノミクスで一部では景気上昇の動きがある。それが我々に回ってくるかは疑問だが、暑くなるころに回ってくるのではないかと一応期待している。
		コンビニ（経営者）	・客の買物動向が変化している。低価格商品志向は根強いものの、高品質商品が伸び続けている。
		コンビニ（経営者）	・近隣スーパーにレンタルビデオ店がオープンする。集客力がある店舗のため、流れが変われば期待が持てる。
		コンビニ（経営者）	・近隣のスーパーが閉店し、気温も上昇してくるため売上は上がる。
		コンビニ（店長）	・一気に良くなるとは思えないが、来店客の動向から、緩やかに客の気持ちがいよいよ買ってみようというように変わってくる機運を感じている。
		コンビニ（商品開発担当）	・他のセールもスタートしたが、前回実施したものより反応が良く、徐々にではあるが消費動向が上向きになってきている。
		衣料品専門店（経営者）	・数か月前と比較して、販売単価は変わらないものの、来客数や販売量が少し増えてきており、これが景気を押し上げて行く原動力になっていくように感じている。
		衣料品専門店（経営者）	・価格だけの商品ではなく、気に入った良い商品を選びたいとの感じが、今までより多くみられる。介護施設から出張販売の要請が2件あった。売上はまだ少ないが、周りに施設が多いため、営業をかけている。
		衣料品専門店（店長）	・景況感が上向いていることから、客のマインドが財布のひもを緩くして、買上点数が今後も増加していくと予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をしており、整備は順調に入っているが、販売は少し足踏み状態になっている。恐らく消費税増税前の駆け込み需要で、来月からまた販売が良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・新規客が増えてきており、既存客の新車への買換えも増えてきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・4月は中だるみということで3月よりは若干落ち込んだが、中古車市場では玉不足状態が続いており、建築関係のダンプカー、クレーン車については相当高く売れているため、将来的には建築関連を含めて伸びていくと判断している。ただし、車両が高値でしか入ってこないため収益は得られていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・今の政策が続けばという期待を込めて、やや良くなる。
		乗用車販売店（店長）	・新型の軽自動車投入、また車検、点検は月初から計画以上のペースで好調に推移し、客の景況感も高まっている。やはりアベノミクスの効果だろうか。期待している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・世間がアベノミクスへの期待感を抱いていると感じるためである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・景況感の改善が継続しそうである。
		高級レストラン（店長）	・大口の宴席予約が普段よりも早い時期に受注できている。
		高級レストラン（支配人）	・法人、個人共に消費マインドは確実に上向いてきているため、数か月先に関しては期待をしている。ただし、それ以降になると原材料の値上がりの影響が出ることも予想され、どこまで利益が出せるか疑問である。
		一般レストラン（経営者）	・新しいリピーター客の増加がみられ、外食におけるすみ分けがはっきりしてきている。
		一般レストラン（経営者）	・まだまだ前年比100%を超えられずにいるが、前年の4月は前年比90%前半だったため、前年に比べると良くなっている。夜の売上がほんの少し上がってきている。期待したい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・実体経済がこのまま良くなっていけば、ホテル等のサービス業へも徐々にそれが波及してくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・緩やかではあるが個人での宿泊やレストラン利用が増えてきており、法人から宴会の問い合わせも多く、景気回復への動きがみえる。先々の予約見込みもそこそこで良い方向で進んでいる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴席の先の入込は婚礼、一般法人共に前年同時期をオーバーしており、宿泊も周辺での今後のイベントには変化はない。レストラン関係は予約の入りがだんだん遅くなってきているが、係を囲んでの食事や、あまり堅くならない両家の顔合わせでの個人のお祝い利用や法事での利用は少しずつ増加しており、こうした傾向は今後も続く。
		旅行代理店（支店長）	・法人関係は6、7月前半の交渉がピークを迎える。また、7月からの夏休みに向けた動きが例年より早く始まっており、個人の動きも活発になってくるため良くなる。
		タクシー運転手	・政権が変わり、アベノミクスで円安になり、株価は上昇している。一般消費者としてはまだ景気が良くなったという実感はないものの、今までが悪かっただけに期待感が高まっている。
		タクシー運転手	・今年に入って確実に良くなっている。深夜の利用が増えているのが良い例で、チケットの利用者、長距離の客共に多くなっている。売上が昼夜とも平均して伸びている。
		タクシー運転手	・労働団体は、まだ雇用と労働条件が改善していない今、家計の所得を増やして、雇用や将来の不安を払しょくすることが大事だと言っている。またTPPへの参加でメリットもデメリットもあるが、デフレ脱却に向けて日本列島が動いているようにみえるため、景気は上向きと言いたい。
		通信会社（経営者）	・スマートテレビ向けのセットトップボックスの新規販売及びセットトップボックスからの移行が今後も見込まれる。
		通信会社（営業担当）	・景気が良いという実感はないが、近い将来は良くなるだろうとの期待感が大きい。
		通信会社（営業担当）	・価値を見出せないサービスへの支出は削減するが、良いサービスへは支出を増やす傾向が続く。
		ゴルフ場（支配人）	・2～3か月先の予約数が、例年同時期を上回っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（支配人）	・レジャー産業の一員として考えれば、現役をリタイヤして時間や予算の面で少しゆとりがある人々が増えてくると考えられるため、これから4、5年はやや良くなると思う。しかし、今後、底辺の広がりがあり期待できない状況では、企業としては厳しいものがある。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (店長)	・3月下旬より下降していた客単価が上がってきており、ここ数か月の動向から単価の高い客層が増加してくると考えている。
		その他レジャー施設 (経営企画担当)	・円安による外国人観光客の増加が既に表れており、今後も増加が見込まれる。
		美容室（経営者）	・客の買上や利用が増えている。
		その他サービス [保険 代理店]（経営者）	・客の様子から、6～7月の売上は期待値も含め、増加すると思う。少しずつではあるが、購入予約を始め購買意欲が感じられ、大いに期待している。
		その他サービス [立体 駐車場]（経営者）	・景気が上向いてきた都市や企業が報道されているため、3か月もすれば当地域も良くなるだろうという希望的観測である。
		設計事務所（経営者）	・民間の仕事もやや好調であり、問い合わせも大変多くなっている。行政の仕事も新年度になり、指名が1日に何本も入るような状況である。ただし、競争ということではなかなか厳しいが、仕事を選べるということは良いことだと思っている。民間の仕事プラス行政の仕事を合わせて、少しでもチャンスをもにしようと考えている。
		設計事務所（所長）	・2、3か月前まではほとんど相談すらなかった民間の物件が、ここにきてやっと相談等があり、具体化する方向に向かっていることを考えると、今後良くなるのではないかと。
		住宅販売会社（経営者）	・新政権に変わり、数々の景気対策が出されているが、その効果がまだ出てきていない。即効性のある景気対策を期待している。今年中に景気を回復させないと来年4月からの消費税増税もできないのではないかと。良くなることに期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・まだまだ景気は良くなっていく。しっかり景気の波に乗り、他社と競合しない分野に力を入れていければ良くなる方向に向かう。5、6月が重要になってくる。
		住宅販売会社（従業員）	・来場者数、資料請求数などから考えると、若干良くなっていく。
住宅販売会社（従業員）	・特に収益物件については、今後、消費税増税前に工事請負契約を締結し、増税後に引き渡してほしいという要望が出てくることを見込まれる。		
変わらない		商店街（代表者）	・今回のゴールデンウィークは、途中で平日が入ってしまうため、連休を取りにくいと思う。将来は、連休が続くように政府が何とか考えたほうが良いのではないかと。
		商店街（代表者）	・テレビ等の報道では円が安くなる、株が上がるということで、輸出関連の企業についてはかなりの貢献をしていると思うが、我々中小零細企業がそのような状況を感じるにはほど遠い。暮れごろにならないと少し変わったという感じは出てこないと考えている。
		一般小売店 [和菓子] (経営者)	・マスコミ等で景気が良くなっているという報道が聞かれるが、まだまだ実感が伴っていない。
		一般小売店 [祭用品] (経営者)	・変わる要素が見当たらない。
		一般小売店 [文房具] (経営者)	・今月ほどは良くなれないと思うが、そこそこはいくのではないかと。
		一般小売店 [印章] (経営者)	・報道等でアベノミクスが騒がれているが、業種によって相当左右される。小売業がこの厳しさから立ち直るには時間を要する。
		一般小売店 [文具] (販売企画担当)	・急激に単価が上がったり、来客数が増える等はなかなかないのではないかと。また、大口の案件もこの後それほど件数が多いわけではないため、あまり変わらない。景気的には緩やかながら同じように推移していくのではないかと。
		百貨店（売場主任）	・2～3か月先ではまだ給料が上がっていないと思われるため、変わらない。
		百貨店（総務担当）	・企業は内部留保するだけで、給与を上げるとは思えない。結果として個人消費は良くならず、消費税増税で致命的な打撃を受ける。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・経済的な問題だけではないと思うが、特に良くなる材料に乏しい。ただし、消費税増税前の駆け込み需要などの影響で、半年後ぐらいのスパンでは売上げが見込めると考えている。
		百貨店（広報担当）	・政府の支持率も高止まりで、日銀との景気浮揚策連携もうまく回っている。来客数や売上も好調で、直近では景気を冷やすような要因は見当たらない。したがって、何らかのアクシデントが発生しない限り、来年の消費税増税までは何とか現状の景気が続く。
		百貨店（営業担当）	・今後の経済状況に影響されると思うが、現状から大きく変化があるとは考えにくい。交通アクセスの変化により、他商圏への流出が懸念されるが、景気上昇に伴い客単価が向上することにより、売上の変動は少ないと推測する。今後、株価下落等により、高所得者の購買意欲が低下すると厳しい状況になる。
		百貨店（営業担当）	・ボーナスの大幅増があれば変化はみられると思うが、大きな変化はないと思う。婦人服に売れ筋や大きなトレンドの流れがない以上、変化は見込めない。
		百貨店（営業担当）	・アベノミクスの期待から円安、株高が続いており、宝飾品、美術品の動きが良くなったが、婦人服、紳士服等の衣料品や服飾雑貨の動きは今一歩であり一過性の感もある。
		百貨店（販売促進担当）	・景気自体は引き続き現在の状態が続くと思うが、客の買物に対する慎重な姿勢は変わらない。
		スーパー（経営者）	・3月の後半から4月にかけて段々悪くなってきている。天候の影響も多少あるが、客の買上状況が非常に良くない。余計なものを買わないため、決して景気が良いとは思えない。2～3か月はまだこの状態が続くと思うため、悪いままで変わらない。
		スーパー（総務担当）	・社会全般では、景気が上向いている、株価が上昇していると言われているが、個人の可処分所得については、あまり増えていないようである。また、円安ドル高で小麦粉や油等、またガソリン等が値上がりしているなかで、身の回りの商品、頻度性の高い物を扱っているスーパーでは、なかなか客が買物をしない状況のままだと思う。
		コンビニ（経営者）	・今の時点では何ともいえない。
		コンビニ（エリア担当）	・直近の来客数を前年比で見ると、しばらく変わっていない。また、今のところ今後も変わる兆しがない。
		コンビニ（商品開発担当）	・来客数は回復しておらず、実感として回復につながるにはまだ時間がかかる。
		衣料品専門店（経営者）	・ゴールデンウィークから様々な形でイベントを予定しているが最近稼働率が悪く、数字が読みにくい。商材的にも春物消化と初夏物を導入するが、仕入れの一部インポート商材は値上がり気味になりそうであり、シビアな客には価格で苦戦しそうである。
		衣料品専門店（経営者）	・7月は参議院選挙が予定されているため、天候にもよるが消費は停滞するのではないかと。
		衣料品専門店（店長）	・企業の業績が改善しているわけではないので、インフレターゲットの政策でムードは良くなっているものの、実際に末端の企業まで給与に反映するのは1年以上先なのではないかと。
		衣料品専門店（営業担当）	・アベノミクスで円安や株が上がっても我々の商売は厳しくなるばかりである。現金問屋ではウォンが上がり、昨年と同じ物が200～300円上がっているため、売れ筋だったものが同じ値で売ることができず、仕入れを断念するか、違う物、価値観の合う物を探して仕入れるしかなくなっている。電気料金や小麦粉などの食料品価格が上がり、主婦の財布のひももきつく縛られるばかりである。給料が上がったなどと言っているのはごく一部であり、ほとんどの人は給料は下がっている。日本は確実に下向きである。
		乗用車販売店（経営者）	・アベノミクス効果でと思ったが、市場は意外と冷めている感じがする。
		乗用車販売店（渉外担当）	・受注は前年よりは減少しているものの、目標に対し堅調に推移している。今後も各社から安全で燃費性能が高い新型車の投入があり、この傾向は続く。
		住関連専門店（店長）	・ゴールデンウィーク前の買い控えがみられるのは、連休中に遠出、旅行する人が多いためと考えられ、連休後も母の日を境に、消費が落ちると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・今年の夏も暑くなる予想のため、季節に合わせた展開をしっかりとできれば勝機はある。
		その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・2月ごろから新しい店をどんどん作っているが、その売上も落ちずに割と順調にきている。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・今後の為替の動き、天候等、様々なことが影響してくると思うので、正直分からない。しかし、良くなる要素はない。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・5月中旬～6月にかけて各社から新ハードの発表などがある見込みだが、かつてのように驚きをもって市場に受け入れられることはないと思う。
		一般レストラン（経営者）	・マスコミ、テレビ等で報道されているとおり、アベノミクス効果で、株高、インフレになってくるという状況で、一般消費者の気持ちが随分違ってきているような気がする。決して所得が増えているということではなく、この先良くなっていくという雰囲気があるため、飲食しようという傾向が多少ある。決してゆとりが出ているわけではなく、現実的なものはまだまだだと思う。
		一般レストラン（経営者）	・客単価自体は若干上がってきているように感じるが、やはり慎重に消費し、使いすぎてしまった時には回数を減らすという消費行動になっているため、しばらくは横ばい、もしくはやや悪くなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・先の見通しは立っておらず分からない。大企業の仕事は動き出しているが、中小企業はまだ動いていないため、全体を平均すると何も良くなるとは思わない。ただし、今は前より夢があり、明るい気持ちである。
		旅行代理店（従業員）	・先行きの受注状況は、前年比100%ぐらいで推移している。
		旅行代理店（従業員）	・旅行業まで好景気は波及していない。
		旅行代理店（営業担当）	・昨年4月の高速道路バス事故以来、厳しい状況が続いている。
		タクシー運転手	・政府の経済政策への期待感はあるが、それが末端まで波及するにはしばらく時間がかかる。
		タクシー運転手	・とにかく客は先のことですべて迷っているような感じである。不安の上に迷いが出ており、やはり今までと変わらない状態である。
		タクシー運転手	・マスコミで百貨店の高額商品が売れたなどと報道されているが、まだ我々の業界においてはそのような気配すら感じられない。
		タクシー（団体役員）	・2～3か月後は、そろそろ参議院選挙に入る。毎回選挙期間中は企業はもとより一般客の利用が落ちる。しばらくは現状のままだと思う。
		通信会社（社員）	・今度の選挙結果は興味深いと思っている。好調に転じる要素が特にないため変わらない。
		通信会社（営業担当）	・アベノミクスの効果は一般消費者にはまだ回っておらず、しばらくは購買意欲には大きな変化はみられない。
		通信会社（総務担当）	・景気回復の兆しがみられるものの、デフレの根は深く、すぐには良くはならない。
		通信会社（局長）	・他社との競合が更に激化するなかでは、ARPU（通信事業における加入者1人当たりの月間売上高）の低下が危ぶまれ、それをカバーする契約数の増加の期待が今一つのため、収益的には景気が良いとはいえない。ただし、今後世帯収入が上がる傾向になれば、精神的に余裕が出てくる層への販売強化に期待は出てくる。
		通信会社（営業担当）	・株価の上昇と物価の上昇でプラスマイナスゼロである。このまま株価が上がり続ければ、それなりの反応が出てくると思うが、一般消費者が恩恵を感じられる状況はまだ先がある。
		通信会社（管理担当）	・春のトレンドで後半もそのまま推移することが多く、この状況は変わらない。
		遊園地（職員）	・ガソリン代も値下がりせず、さほど景気回復に向かっているような印象がない。
		ゴルフ場（従業員）	・天候不良が常態化とすると景気は悪くなるが、新政権に期待し変わらない。
		パチンコ店（経営者）	・店の状況は客の懐具合もあるが、人気のある機械かどうかにも左右される。これから先、特別良い機械は出ないが、コンスタントには出るため、先行きは変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	・消費税増税前には景気は一時的に盛り上がりを示すものと考えているが、これが続くか続かないかまだ不明のため、変わらない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・4月が終わり、新入生の数は例年と変わらず、辞めていく人数のほうが多い。景気が回復しているとは考えにくく、現状維持である。
		設計事務所（所長）	・アベノミクスと言われているが、個人や零細企業が豊かにならなければ、我々零細企業は上向かない。
		設計事務所（所長）	・いずれにしても仕事量ももっと増えてこなければならぬ。また、人出不足なども考えられる。これから3か月先はそれほど大幅には変わらないというのが一般的な見方だと思う。景気が良くなっているとはいっても、まだ大企業ばかりが良いような感じを受けている。
		設計事務所（職員）	・円安による鋼材価格の上昇、労務単価の上昇、一部職種の慢性的な労務不足、建設業界としての適正価格受注等、建設コストは急激に上昇している。消費税増税も加わり、民間の発注量の動きがどのように変化するか読みにくい。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要により、受注は増加すると予想される。それによる売上効果はまだ先になるため、景気回復は少し先になる。
		住宅販売会社（従業員）	・今月の来場者の状況を見ると、具体的に動いている客が多く、販売に結び付いている。住宅ローンについても金利優遇幅をさらに上げる銀行も出てきた。引き続き景気は良い状況で推移するのではないかと。
	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・客からの情報では、ここ2～3か月の間では特に大きな案件等もなく、受注量もさほど変わらないだろうということである。	
	やや悪くなる	一般小売店〔茶〕（経営者）	・例年4月は新茶の予約があるが、今年は非常に少ない。特に4月からの値上げによって消費者は買い控えている感じを受けている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・お茶の販売量も茶葉の時代から粉末茶の時代に様変わりしているとはいえ、急須を使わない粉末茶の売行きも芳しくない。専門の立場からすると、客は粉末茶に飽きが出てきているのではないかと感じてしまう。高級茶葉を買う客はどんどん減ってきているのが現状である。
		スーパー（店員）	・来年4月の消費税増税を踏まえて、無駄な買物は極力控える傾向にある。現在、単価の動きも低単価商品や必要な物だけと、大きく偏りがみられる。
		コンビニ（経営者）	・デフレ脱却と新聞、テレビ等で騒がれているが、現場としては、その片りんもまだみられていない。どんどん物の値段が下がっていく感じを受ける。
		衣料品専門店（経営者）	・世間ではアベノミクスと騒いでいるが、円安による物価高騰で景気が本当に末端の実体経済にまで表れるまでには時間がかかる。特に、中小企業はそうだと思う。このところの国際情勢をみても厳しい要因のほうが多いのではないかと。
家電量販店（店員）		・アベノミクス効果といえども、一部が潤っているだけで肝心の景気回復には至らない。	
乗用車販売店（販売担当）		・個人消費は落ち込むと思うが、法人は見積依頼等多くある。消費税増税の話題がもっと報道されたり、直前になってから個人消費が増える。	
住関連専門店（統括）		・様々な政策が始まっているが、まだ収入に還元されることはなく、冷え込みはこのまま続く。	
一般レストラン（経営者）		・3か月先は、ニッパチと行ってかなり売上が落ちるため、今より当店の景気は悪くなる。	
悪くなる	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・商業施設が多過ぎる。	
	一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・一般市民の給料が上がらずに物価が上がれば生活が苦しくなるのは当たり前で、景気はもっと悪くなる。	
	コンビニ（経営者）	・何とか努力をして来客数が増え、売上も増えて店が活気付いてくると、本部が近隣に新しい店を出してくる。その繰り返しで一向に生活が良くならない。いよいよ当業界は、飽和状態から余りすぎるぐらいの状態になってきた。これから良くなる見通しはない。残念である。	
企業動向関連	良くなる	金融業（支店長）	・明らかに投資マインドは良くなっており、経済、財政政策はひとまず成功といえる。実のある次の一手に期待する声が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(南関東)	やや良くなる	税理士	・円安の効果で輸出産業を中心に活力が出てくる。
		食料品製造業（経営者）	・大口の注文とスポット販売が決まったため、売上は伸びるが、通常の客は厳しい状態が続くそうである。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・4月は新会社の設立に関する登記の印鑑注文が10本あった。通常6～7本なので、4月という季節性を抜いたとしても多いと感じている。法人関係、店頭での受付もやや上向きである。
		金属製品製造業（経営者）	・大手中心に景気は回復基調にあると思うが、中小企業にとっては円安の影響はない。円高時にコストダウン要請にこたえざるを得なかったが、円安になってもコストアップは認められない。また、現地調達がかなり進行してしまったために、現地生産されたものが戻ることはないが、海外移転は少し止めることができるだろう。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現在の引き合い状況から推察すると、2～3か月先からの受注が望めそうな物件が増えてきている。他社との競争も激しくなるが、物件が増えれば受注の増加も見込める。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・最近、景気が良い、景気が良いと噂では聞くが、具体的にはこうだというものはない。しかし、景気が悪いということがなくなっているため、そういった意味では、一般的にお金が動き出しているのではないかと。良くなるのではないかとという希望的観測を持っている。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・アベノミクスの影響で世の中の景気が良くなる期待感はあるが、まだ消費者の行動には出ていない。しかし、今後は少しずつ芽が出てくる。
		建設業（経営者）	・景気対策の公共事業が始まってくるため期待している。
		建設業（営業担当）	・アベノミクスにより、依然として自動車販売や工場、教育関連の設備投資による建て替え、改修工事の依頼が増え続けてきている。
		建設業（経理担当）	・仕事の種類や利益が出るかどうかは別として、一時より見積案件が多く出始めているため、仕事が増えそうである。
	輸送業（経営者）	・6月より新規店の配送が予定されており、それ自体は大変歓迎しているものの、取扱量の低迷が続く現在、新規店の増加イコール増益とはなかなかいかない。楽観視はできない状態であるが、期待はしている。	
	通信業（経営者）	・アベノミクス効果のためである。	
	通信業（広報担当）	・円安等の効果はタイムラグがあり、これからその影響が出てくる。	
	不動産業（総務担当）	・オフィス空室率が改善傾向にあるため、いずれ賃料も上がってくるのではないかと期待が持てる。	
	広告代理店（経営者）	・希望ではあるが、3か月後くらいには好景気のおこぼれ程度は味わえるだろう。	
	経営コンサルタント	・消費マインドが高くなっている傾向である。	
	経営コンサルタント	・商店街の会合では、2、3か月先はお中元セールが始まるころであり、サラリーマンの夏季賞与に期待している人が多かった。大手企業の業績改善の結果が、取引先企業の賞与にも出るのではないかと。もっと先だと言う人もいるが、以前に比べて期待する声が増えている。	
	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・株価の上昇による含み益のためである。	
	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・公共事業は見込めないが、箱物の警備の見込みがある。	
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・酒を扱っている飲み屋や料理屋の様子を聞くと、良くなるにはもう少し時間がかかりそうである。
繊維工業（従業員）		・アベノミクス効果で円安、株高が進んでおり、景気が改善しているとの報道が盛んだが、中小企業の国内製造業には景況感はその逆で、輸入に頼る原材料が高騰して入手が困難なうえ、納入価格は現状維持であり、注文量も減少傾向にある。	
出版・印刷・同関連産業（経営者）		・季節的に当社の売上は減少期になる。しかし下請業務の増加には期待している。	
出版・印刷・同関連産業（総務担当）		・個人消費は上向きでも、企業の消費はまだ抑えられている。	
化学工業（従業員）		・新聞、テレビのニュースでは景気が良くなっていると言われているが、販売先、仕入先等からは、少しも良くなっているとの声は聞こえてこない。また、製品の動きも良くなっているとは思えない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		プラスチック製品製造業（経営者）	・アベノミクスの影響が受注量や新企画の話等に明るい兆しはみられるが、まだ話だけの段階で、決定するには時間がかかりそうである。
		金属製品製造業（経営者）	・次々と政策が打ち出され、景気が上向くと期待感維持できているが、確実に業績が良くなるのにはまだ時間がかかりそうである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・売上が少しずつでも伸びることを願っているが、今のところ横ばいである。もう少し頑張っていきたい。
		一般機械器具製造業（経営者）	・このところ新しい仕事の話がどの客からもぼったり止まっている。秋口にかけて忙しくなる準備をこの2、3か月でして、秋口に立ちあがるというのが毎年のパターンだが、ここで新規の話がないと少し厳しい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・実際の数字が継続して上がるかどうか見通しはついていないため、良くなるという判断をするには、まだ早いと思う。
		精密機械器具製造業（経営者）	・企業の生産拠点を海外へ移す動きは為替に関係なく加速するため、日本では物の値段が高くなるだけで生活は苦しくなるばかりである。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・現在小型トラックは良いが、大型トラックは在庫調整中ということで全然材料が動かない。アベノミクスでこれから少しは体制を立て直して良くなっていくのではないかとは思もの、やはり停滞感があり、少しでも元気が出るような要素はない。例年でいけば5、6月と少しは良くなるので期待している。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・大手完成品メーカーは輸出すれば円安効果で利益が上がっていると思う。下請の部品メーカーは親会社から値上げをしてくれない限り、厳しい状況は変わらない。値上げを認めるように指導をお願いしたい。
		建設業（経営者）	・景気対策、経済対策の効果が我々にまでまだ下りてこない。
		輸送業（経営者）	・荷主からも全く先が読めないということを言われており、忙しい時は忙しいが、びたっと止まったりもする。本当に波があって、我々零細企業は大変苦労している。
		輸送業（総務担当）	・国内出荷が微増だが増加し始めている。東北方面は車両が足りない。また低運賃のため地方へ帰る車両が集まらない。自車で配送すれば首都圏の配送車両が足らなくなってしまう。運賃を上げてもらわなければ復旧、復興輸送にも対応できなくなると苦慮している。
		金融業（統括）	・円安、株高で景気は良くなると思うが、2～3か月ではまだそれほど変わらない。もう少し先であれば上がっているのではないかという期待はある。
		金融業（従業員）	・建設業、不動産業では業況回復の気配があるものの、小売業、サービス業の業況は依然として厳しい。経済対策の効果が中小企業にまで広がるのか、慎重な見方が多いようである。
		金融業（役員）	・このまましばらくは、気分だけが先行するように思われる。実際の生活が変化するのは年末ぐらいではないか。円安によるデメリットだけが先行することはないよう、財政支出と財政再建に注力してもらいたいとの意見が多い。
		金融業（支店長）	・来年の消費税増税や、燃料費の高騰でまだ各業種とも今後の売上見通しが立っていない。経費が増えるため、景気が上向くと考えにくく、様子見で今の景気が続くのではないか。
		不動産業（経営者）	・新築が苦戦しているため、しばらくはこの状態が続く。
		広告代理店（従業員）	・受注や販売予想は前年度とほぼ変わらない。
		経営コンサルタント	・通貨の供給が増加すれば物価は上がることが過去の経験から分かっている。実体経済の成長がなければ物価の上昇は、経済に何も恩恵をもたらさない。したがって、このところの変化は期待できない。
		社会保険労務士	・良くなるという要因はまだ見当たらない。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・好景気というニュースが流れているが、広告などの業界にまで下りてくるのは、まだ先のことである。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（所長）	・仕入原価の値上げ要請が強くなっている。この部分をクライアントに転嫁することが非常に厳しい状況のため、ますます悪くなる傾向である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・電気料金や材料の値上がりがあり、これを上乗せできずに実質マイナスになる。また、客先が2社からの購買になり、値下げをしなければ注文が取れなくなるため、これから先が不安である。
		税理士	・シェールガス革命がけん引して、アメリカの景気が良くなってきているため、日本からの輸出等が伸びていく。中国経済はEU向け輸出が不振であるが、他の新興国向け輸出が伸びている。日本経済はアベノミクスで、政治が大きく引っ張っている。旧政権の時と比べて、政治自体が、大きく引っ張ってきているため、良くなっていく。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・取引先工場の稼働率は夏ごろには低下の兆しとのことであり、先行きの不透明感の根強さに加え、厳しい原材料価格の上昇が重くのしかかる。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・元請会社の契約が他社に取られ、5月末日で2件の解約物件が発生する。6月から内定していた新規物件もあったが、こちらも他社に逆転されてなくなってしまった。いまだ低価格競争は続いているため、本当の意味でのデフレ脱却に期待したい。
	悪くなる	建設業（経営者）	・やはり消費税増税で2度の足踏みがあるのは必至である。
雇用 関連 (南関東)	良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・月の状況としては段々減っていく形になるが、他社に出ている分を当社で新規に受注する予定の5社が入れば相当の盛り上がりがある。
		民間職業紹介機関（経営者）	・人事担当者の表情が明るい。求人増を待ち望んでいた感がうかがえる。
		民間職業紹介機関（職員）	・心理面での回復が進んでおり、5月を過ぎたあたりから求人や採用者数が増えていくと思われる。また、参議院選挙も控えており、このムードが下火になる可能性は低いと思う。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・景気が悪くなる要因が少ない。
		人材派遣会社（営業担当）	・派遣労働者市場に関して、求人数は若干回復していると思う。依頼がある背景も派遣交替要員ではなく、業務量増加に伴う新規採用が多くなってきている。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣の求人数は、ここ3か月ほど弱含みだが右肩上がりが続いている。
		人材派遣会社（営業担当）	・アベノミクスによる好転の実感はまだないが、期待感の衰えもない。人事担当者からは、今後の設備投資や人材確保への動きが現実味を帯びてきているという声が聞かれるようになってきている。
		人材派遣会社（営業担当）	・採用数が増え、雇用が増えれば企業での業務改善なども進み、投資も進むと想定している。ただし、賃金水準は以前ほどには戻らず、雇用形態の有期比率も上がると思われる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・秋採用に向けての企画を検討している企業がある。また、就職活動開始時期が3年次の3月にずれ込むことが確実であり、3年次の夏場のインターンシップに注目が集まり始めている。予算組み替えの検討が始まっているようである。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・具体的な要因はないものの企業側担当者との話で、何となく明るいムードが漂っている。以前のような閉塞感はみられない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・徐々にではあるが、求人募集広告の量が増えてきているため、今後更に増えるのではないかと。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・景気が上向いているという雰囲気、ようやく中小企業にも伝わってくる。
		職業安定所（職員）	・求人数の増加傾向が続いているためである。
		民間職業紹介機関（経営者）	・為替の影響を受けにくい体制を既にとっている企業が多く、人材をそろえる環境が出てきているようである。
		民間職業紹介機関（職員）	・4月は新卒入社の受け入れ、採用業務が多忙のため、中途入社者の求人数は大幅に増えていないが、新卒が落ち着く6月ごろからは、もう少し求人が増えると予想している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・今後も人材需要はおう盛であることが見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・経営者の何人かと話をしたが、円安、株高が良い方に作用する企業と、そうではない企業との差が徐々に広がってきており、それがどこで縮まるのか、このままいくのかどうか、しばらく見極めなければならない。また、参議院選挙もあるため、秋にどう変わるかだろうという人が多い。
		人材派遣会社（社員）	・2、3か月先の需要についての話も出てきており、しばらくは企業からの求人数が堅調に推移しそうである。
		人材派遣会社（支店長）	・求人が増えても求職者とのミスマッチが多くあるため、なかなか成約へ結び付かない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社 (広報担当)	・株取引を上手にやっている人だけが潤うような仕組みのため、世の中全体としてはあまり変わらない。
		職業安定所 (職員)	・現段階での短期動向については変わらない。
		職業安定所 (職員)	・最近の円安、株高の影響が一部の企業には好影響を与えているが、賃金に反映されるまでに時間がかかり、電気料金や円安による輸入品の値上がり等で財布のひもがきつくなってしまふ恐れがある。
		職業安定所 (職員)	・円安により輸出関連企業が業績を伸ばす一方、飲食業界では、原材料の調達コスト上昇を価格に転嫁できない等の情報もある。また、円安の恩恵を受けている中小企業でも、賃上げについては様子見との情報もある。今後、円安による日常生活品の価格上昇などが懸念される。
		学校 [専修学校] (就職担当)	・一般的に早期化している募集活動状況ではあるが、各企業への状況調査より、今月と同水準での求人獲得見込みである。
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

5. 東海 (地域別調査機関: 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

(-: 回答が存在しない, O: 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東海)	良くなる	商店街 (代表者)	・アベノミクスの効果がまだまだ続く。
		一般小売店 [土産] (経営者)	・このままの勢いであれば、過去最大の観光客数となりそうである。
		一般小売店 [土産] (経営者)	・遷宮行事が7月から始まり10月に本番を迎えるので、参拝客はより一層増える。
		住関連専門店 (営業担当)	・民間工事では、消費税増税前に戸建住宅やマンションを購入する動きに伴って新築、改修工事が出ている。公共工事でも、建築前の物件が出ており、これから予算執行とともに発注となる。
	やや良くなる	商店街 (代表者)	・気持ちだけでも良くなると思いたい。しかし、商店街にある当店から周りの様子を見る限りは、良くなるようには感じない。地方の商店街は、あまりにも悲惨である。
		商店街 (代表者)	・アベノミクスにより、自動車産業等での給与アップに伴う購買意欲や販売量の増加が期待できる。
		一般小売店 [高級精肉] (企画担当)	・景況感がよくなる。
		一般小売店 [薬局] (経営者)	・これから梅雨に入り、体調不良や夏バテに伴う栄養補給等に期待している。株式市場も活況で、経済的な余裕ができた人も増えてくるので売上の増加が期待できる。栄養剤の売行きで、今後の景気の動きもわかってくる。
		一般小売店 [食品] (経営者)	・大手企業を中心に給与増が言われている。中小企業も刺激を受けており、若干は上げざるを得ないのでは、というムードである。2~3か月先かボーナス時期までには一定の昇給が実現し、その頃には景気も持ち直す。
		百貨店 (売場主任)	・給料支給日の時期に客へ買物理由を尋ねたところ、給料の支給とは関係なく、4月だから新しいものをという買物意欲のある人がいた。5月はゴールデンウィークに色々催しがあり、家族の来店を増やせるよう工夫している。景気は良くなっている。
百貨店 (売場主任)	・3月時点では、一過性ですぐ景気が戻る気配もあったが、客の財布のひもは、2か月続いて緩んできているため、もう少し続くと思う。		
百貨店 (経理担当)	・円安・株高の恩恵が一般消費者にまで浸透しているとはまだ言い難いが、このまま持続していけば、夏の商戦に期待が持てる。		
百貨店 (販売促進担当)	・株価大暴落や有事のような景況感を根底から変える事象が起こらない限り、この傾向は続くと思う。		
百貨店 (販売担当)	・製造業が多い地域なので、このまま円安が続けばボーナスの増加が見込め、消費意欲の向上が期待できる。		
百貨店 (営業企画担当)	・消費者の購買意欲の向上は感じられるものの、輸入品の値上げが始まっており、値上げの反動は大きく出ている。今後値上げが続く事で、消費者の購買意欲は少し下がるかと考えている。ただし、増税を控えており高額品の動きは良くなっていくと考える。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売担当）	・政府の施策が軌道に乗って所得や雇用が改善されれば、より幅広い所得層で購買意欲が向上する可能性が高い。加えて、消費税増税前の特需を見込んで考えると、相当高い確率で景気が大きく上向くと思われる。
		百貨店（経営企画担当）	・大企業を中心に夏季賞与の増加が見込まれる状況であり、消費意欲の向上とあいまって、消費拡大に寄与するのではないかと考えている。
		スーパー（経営者）	・3か月後には参議院選挙があり、現政権が過半数を占める。衆・参議院で政権が安定する事は、国内外にとって大事である。安定した政治のなかで、経済も良くなっていく。
		スーパー（経営者）	・当地では遷宮に向かって様々な行事が行われている。来客数の伸びに期待している。
		スーパー（店長）	・客1人当たりの買上点数も徐々に増えつつあり、これは当店に対するより良い評価の表れであると感じている。これが継続すれば、客数も更に増加すると思われる。
		スーパー（店員）	・経済に関する明るい話題がマスコミ等に取り上げられ、客からもそれに期待する雰囲気を感じつつある。ただし、4月13日の淡路島の地震に伴うレタスの高騰など、注視しなければいけない部分も多少ある。
		スーパー（総務担当）	・母の日の商品予約金額が、前年に比べて若干増えている。
		スーパー（営業担当）	・消費マインドは高まってきている。
		スーパー（営業企画）	・食品は、景気の上げ下げの影響がいつも最後に出てくる。現在のアベノミクスによる好況感、食品においてはまだ実績としては出ていないが、今後は徐々に現れると思う。
		スーパー（商品開発担当）	・引き続きGMS（総合スーパー）中心に回復傾向が強まり、高額商品（高付加価値商品）や週末の消費が増える傾向を予想する。
		スーパー（支店長）	・ただただ、政治に期待している。
		コンビニ（企画担当）	・金回りが良くなるという雰囲気がある。報道の役割も大きいのではないかと。不安定な社会情勢や政情不安など嫌なニュースも多いなかでも、規制緩和など景気が良くなるという報道が必ず流れているというのが大きいのではないかと。実際の足元は変わっていないが、良くなる気がする。
		コンビニ（エリア担当）	・客の購買意欲は徐々に高まり、前年同月比100%を超えるのも近いと思う。
		コンビニ（店長）	・連休明け5月から本格的に始動し始める。気候も良くなり、人も多くなるため、来客数や購買点数も増加すると期待している。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・期待を込めて、良くなってきて欲しいと言う声が多い。
		乗用車販売店（経営者）	・ゴールデンウィーク後は、ボーナス商戦に向けて少しずつ購買意欲の向上が見込まれる。
		乗用車販売店（従業員）	・2か月くらいずっと、想定した計画よりも受注量が良い。このまま良くなるような感じがある。
		乗用車販売店（総務担当）	・取引先の声から、少しずつ仕事が増えている実感がある。
		乗用車販売店（販売担当）	・注文がたくさん貯まっており、車が届く2～3か月先までは、ある程度登録ができる。
		一般レストラン（従業員）	・来客数は、寒い時期よりも暑い時期の方が増える。
		観光型ホテル（経営者）	・前年同月に比べて、2～3か月先の宿泊予約は予約スピードが良くなっている。これからアベノミクスの効果で、消費がじわじわと上向く。
		都市型ホテル（支配人）	・景気改善を期待して大手企業が動き出している。外国人観光客も、原発事故発生後2年を経て、やっと戻ってきている。
		都市型ホテル（経理担当）	・大型連休にかけての宿泊者数が増えている。
		旅行代理店（経営者）	・ボーナス支給も多くなり、夏休み商戦は大変期待できる。客の早期獲得がカギである。
		タクシー運転手	・昼間の買物客等の利用は減少した感があるが、夜の繁華街、特に都市部などからの乗客の割合が増えている。自動車業界の上昇気流がこのまま続き、タクシー業界も少しずつ上向いていく。
		タクシー運転手	・ボーナスシーズンも始まり、仲間で食事をする機会や買物客の利用も増えると思込める。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		通信会社（企画担当）	・アベノミクスの効果が実態として現れてはいないまでも、マスコミ報道を含めて、雰囲気はまだ良くなっていく気がする。
		通信会社（営業担当）	・前年の動向から見ると、6～7月は増加傾向にある。今年も、ISP関連の販売が今よりも増加する見込みである。
		テーマパーク（職員）	・商圏内の景気感が話題となる際には、楽観的な内容が多く期待ができそうである。
		ゴルフ場（企画担当）	・6月までの予約状況は、前年同月をはるかに超えている。この予約数を見る限りは景気が大きく良くなっている。ゴルフ場は天候、気温に左右される事が多いため予断を許さないが、かなり期待をしている。
		設計事務所（職員）	・事務所は景気とは関係なく定額の給与を支払い、大変であろうと思う。最近の外交など政治の動きは心配であり、戦争になる恐れがあるならば、景気は悪いままでよい。
		住宅販売会社（従業員）	・多少の上向き傾向が見られる。
		住宅販売会社（従業員）	・慎重な人もいるため緩やかに良くなるが、8月には駆け込みの客が増える事から、今の景気であれば期待どおりの上昇となる気がする。外交面でロシアとの協調が良好に進めば、製造業には一層の追い風となり、近隣アジア諸国とも政治的に安定すれば、期待感は一層高まる。
		商店街（代表者）	・進物用の商品は売れており、自家用の商品購入にも広がれば、プラスに転じる。
		商店街（代表者）	・この2～3か月の状況は変わらない。法人向けの需要が伸びていないため客単価が上がってこない。
		商店街（代表者）	・身の回りの状況は、消費意欲があまり感じられず、消費活動、景気は停滞しているように思える。景気がこれ以上悪くならないと思えないが、3か月くらいでは状況が良くなる事はないだろう。
		商店街（代表者）	・夏場に暑くなると、消費は拡大しない。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・個人消費が上向くとは、まだまだ感じない。
		一般小売店〔電気屋〕（経営者）	・主力の液晶テレビの販売量は変わらなくても、販売単価が低下しているため、販売高は減少となる。また、他の商品を含めた販売高が増加しても、販売高の増加までは望めない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・前月に引き続き、シルバー世代と若い世代の飲食利用は期待できる。しかし、大幅な増加とはいかない。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・男性客は、所持金が少ない。同性としてこのような状況を見るのは非常に辛い。この状況が少しずつでも変わってくれば、良くなっている事が実感できる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・厳しい生活はまだ続くと思われる。夏のボーナスまでは変わらない。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・3か月先も個人の所得上昇は感じられない。それに伴って交友範囲も狭くなっている。自分の事に関する支出以外には、節約が続いている。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・アベノミクスの効果は、一般庶民の所得増加等には見られない。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・景気の高揚感といった気分的なものは感じられるが、実質収入が増えない事には、購買にはつながらない。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・先行きの個人消費がどうなるかは、まだ微妙なところがある。
	百貨店（企画担当）	・アベノミクスへの期待先行で円安・株高に振れているが、給与のベースアップは、思ったほど多くの企業で追随していない。この先の景気が回復するか否かは、6～7月に出るボーナスの上昇率によって判断できると感じている。	
	百貨店（経理担当）	・景気はしばらくの間は続くものと考えているが、現在の水準を更に引上げるほどの好材料は見られない。	
	百貨店（経理担当）	・食品、紳士洋品など前年に比べ良くなっている商品もあるが、全体としては前年並みである。	
	百貨店（販売担当）	・前年同月比では良かったが、良好さが長期的なものになるのか、手ごたえはまだ感じられない。	
	百貨店（販売担当）	・様々な商品で値上げが増えてきているが、当分の間、景気は簡単には変わらない。	
	スーパー（店長）	・自動車関連等の回復はあるが、買上1品当たり単価や買上点数等からは、食品消費支出の回復の兆しは見られない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・円安の影響で色々な物の値上がりが危惧されている。値上がりになって景気が良くなるのか悪くなるのかは、不明である。今後世の中全体に値上がりが浸透し給与も上がれば、もう少し良くなる可能性はある。しかし、消費者は値上げに抵抗があるため、景気が良くなる実感はない。
		スーパー（店長）	・可処分所得が増えるとは限らず、今後、消費が急に増えるとは考えにくい。
		スーパー（販売促進担当）	・今月は近郊の大型商業施設の開店があり、開店騒ぎが一段落しないと、改善しそうにない。
		コンビニ（エリア担当）	・単価の前年同月比は、やや悪化の傾向から顕著に改善傾向であるため、変わらないと判断する。
		コンビニ（店長）	・客の動き、買物に対する動向を見ていて、良くなる気がしない。
		コンビニ（商品開発担当）	・金融政策による株価上昇を背景に、景気が上向いている風潮はある。しかし、低単価商品へのシフトは続いており、来店客の購入単価は上昇しておらず厳しい。一方、土地柄により大手自動車メーカーの一時金アップから、購入単価上昇や来客数の増加が見込めるため、総じて変わらないと予想する。
		衣料品専門店（経営者）	・客の来店によって売上が増減するため、いかに来店してもらうかを考えている。
		家電量販店（店員）	・新製品の発表はこれからであるが、画期的な商品が出るという噂もない。
		家電量販店（店員）	・物価が先行してどんどん上昇していく。結局は空元気で、実際には良くならない。
		乗用車販売店（従業員）	・やや良くなる気はするが、楽観はできない。
		乗用車販売店（従業員）	・政権交代後、明らかに景気は良くなっている。それが本物かどうかはまだわからないが、余程の事がない限り、ここ2～3か月の間でぐっと落ち込む事はない。
		乗用車販売店（従業員）	・客との会話では、景気が良くなった実感は持てず、何となく周りにはやし立ててくれるのでそんな気がするという声を多く聞く。気分的なものが強く、今後も続くのかは不安が大きい。
		乗用車販売店（経理担当）	・前年はエコカー補助金の復活で販売量も増えたが、今年はないので厳しいと感じる。
		乗用車販売店（営業担当）	・株価は上昇しているが、広く一般には反映されない。給与が上がってくるのかは、見通しづらい。しかし、ムード的には、お金を使いやすくなっている。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・近隣に大きなショッピングセンターができて、客がそこにどう流れるかが読めない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・売上は、前年同期比で2.3%増加し、来客数は、0.6%減少となっている。
		高級レストラン（スタッフ）	・夏季賞与の増加など飲食店にとってはプラス要因が期待される。一方で、平成9年の消費税率上げ時のように、その前年から客の支出が貴金属や耐久消費財に向かう可能性があるため、楽観はできない。
		一般レストラン（スタッフ）	・アルバイトやパートを募集しても集まりにくくなっているため、他業種を含めて活気付いてきている。
		スナック（経営者）	・株を持っている客との会話では、少し株価が持ち直したと喜ばしい話を耳にしている。今月程度の来客数があればいいと思う。
		スナック（経営者）	・今年のボーナスに期待したいが、消費者は簡単には財布のひもを緩めない。交際費がもう少し使えれば、繁華街も活気が出てくる。急には良くならない。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・今後、消費税など税金の引上げが具体化してくると、この状態が続くとは思えない。
		観光型ホテル（販売担当）	・企業の利用には特に拍車はかかっておらず、まだ様子見という感じである。3月決算をみて6月の総会の動きに注目したい。決算内容によっては、利用度も中身も濃くなることを期待したい。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断している。
		都市型ホテル（経営者）	・雰囲気としては景気上昇傾向だが、実態の数字の上昇には、まだまだほど遠い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・円安で増益の企業が出る分、収益が圧迫される企業もあり、新たな成長産業が出現しない限り、景気が良くなる可能性は少ない。毎年人口が減少するなかで、基本的には消費が増加する要素はなく、輸出拡大か海外からの旅行者や中長期滞在者が増加するしかないが、ここ数か月で増加するとは思えない。
		旅行代理店（経営者）	・アベノミクスの効果で良くなってほしいという期待感はあるが、現実問題として良くなるという確証が、販売面からは得られていない。
		旅行代理店（従業員）	・大手企業の社員は夏のボーナスが期待できるため、旅行需要にも反映されるが、多くの人は中小企業に勤めているため、そのボーナス次第で旅行需要の動きが決まってくる。期待はしているが、難しいかもしれない。
		タクシー運転手	・客からは、景気は変わらないという声の方が多い。2～3か月では変わらない。
		タクシー運転手	・まだまだ良くならない。辛抱する事が定着している。
		テーマパーク（経営企画担当）	・日本経済が上向いている様子であるが、まだ実感できない。もう少し先のように感じる。
		観光名所（案内係）	・現政権に期待している。
		美顔美容室（経営者）	・キープキャンペーンが7月末までであるため、紹介が増える。
		美容室（経営者）	・3月は良くて4月は悪くなっている。これから暑くなりパーマの客も多くなって欲しい。
		美容室（経営者）	・客の話を聞いていると、浮き足だった感じも景気の悪い話も聞かないため、このまま現状維持が続く。
		美容室（経営者）	・景気は良くなっていない。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税の関係で、秋まではこのまま続く。しかし材料費が値上がりしているため、先行きはわからない。
		住宅販売会社（従業員）	・客の声からは、住宅建築関連の支出に対しては、仕方なく修繕やリフォームに着手する様子であり、前向きな姿勢を感じられない。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・案件は多くなり、仕事には結び付きそうであるが、売上が前年同月上回るの厳しい。
	やや悪くなる	スーパー（店員）	・地元では閉店する店が多いが、大型店舗が近くに今年だけでも2店舗オープンする。客の取り合いになり、厳しくなってくる。
	やや悪くなる	スーパー（販売担当）	・近くにディスカウントショップができて、そちらに客が流れる。
	やや悪くなる	コンビニ（店長）	・客の高齢化が進み、売上が伸びないうえに、客が亡くなってしまい、販売先が減少している。
	やや悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・景気が回復する期待感を感じるが、単価の高い物は実際には売れない。競争店も増えてくるため、店単位でみると厳しくなる。
	やや悪くなる	コンビニ（店長）	・競合店の出現により、売上減少から抜け出せない。
	やや悪くなる	乗用車販売店（経営者）	・燃料費、食料品等の生活必需品で物価が上昇し一般消費者の出費がかさむ。一方で、給与等の収入は変わらない。
	やや悪くなる	乗用車販売店（従業員）	・これからボーナス商戦に向かうが、新車も出ず好材料がないので、しばらくは厳しい状況が続くかもしれない。工場在庫量も減少しているが、こちらはキャンペーンを行うので、ほぼ横ばいの数字でいけそうである。
	やや悪くなる	その他専門店〔貴金属〕（店長）	・政権交代後、乗客数が若干伸びてきたものの、デフレ脱却にはまだ時間がかかる。マスコミ報道にあるように、これからの景気に期待する。
	やや悪くなる	旅行代理店（従業員）	・ここ最近、鳥インフルエンザに伴うアジア方面の旅行中止や自粛が目立ち始めている。特に団体旅行の中止、延期が発生しており、収入、取扱量の減少は必至である。半島情勢が悪化すると渡航が減り、更に悪化すると思う。
	やや悪くなる	通信会社（サービス担当）	・引越しシーズンが終了し、新サービスや料金改定がなければ、申込数も減少し今よりも景気は悪くなる。
	やや悪くなる	通信会社（営業担当）	・株価の上昇と並び輸入製品高騰の話題がテレビ等をにぎわしている。資源が少ない日本及び国民の生活向上を考えると、何ら景気向上は期待できない。
	やや悪くなる	パチンコ店（経営者）	・業界全体の販売減少傾向が鮮明になっている。
	やや悪くなる	理美容室（経営者）	・ガソリン代も高いままで、色々なものが値上がりするため、あまり良くならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・円安に伴う原料高による値上げの懸念がある。	
		設計事務所（経営者）	・案件数が更に減少している。その上、設計料の減額も要求される。世間の風潮とは、逆の状態である。	
		その他住宅〔室内装飾業〕（経営者）	・5月施工予定の見積依頼など、引き合い件数は少ない。	
悪くなる		乗用車販売店（従業員）	・車両販売に関しては、新車投入や改良など増加が見込める要素が全くなく、引き続き厳しい状況が続くと思われる。	
		旅行代理店（経営者）	・鳥インフルエンザが日本にも広がったら、人の動きが一層悪くなるのではないかと思う。	
		理容室（経営者）	・景気の先行きは見当がつかないが、良くなってほしい。	
企業 動向 関連 (東海)	良くなる	—	—	
	やや良くなる	—	—	
			食料品製造業（経営企画担当）	・3月期決算の発表でも増益となる企業が多く、景気回復基調が気分的にもますます高まり、消費の盛り上がりにつながっていけば良い。
			紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・主要取引先の中国向け生産は伸びないものの、北米向け梱包資材が伸びる傾向にある。ただ、明白な景気の良さは伝わってこない。
			出版・印刷・同関連産業（経営者）	・有料別冊本の販売が好調である。
			化学工業（企画担当）	・アベノミクスの効果は、2、3か月程度持続する事が予測される。円安による原材料の高騰で、消費財メーカーでは価格転嫁を余儀なくされる企業が出てきているものの、テレビなどの価格低下は変わらず、デフレ改善には時間がかかりそうである。
			化学工業（人事担当）	・景気が後退する理由が今のところ見当たらない。近隣アジア諸国の情勢悪化や、テロ、天災など突発的な事が起きなければ、景気は確実に上昇すると思われる。
			窯業・土石製品製造業（社員）	・当社の最量販製品で生じた問題点を1か月以内に解決し、2か月後以降には、本来の受注量まで戻せる予定である。
			一般機械器具製造業（経理担当）	・見積依頼がきている。
			一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車メーカー及び関連企業の設備投資が増加の見込みである。
			電気機械器具製造業	・期待感によるもので、決して実体が伴っているとは言えないが、株高による景況感の上昇が、設備投資に拍車をかける気がする。
			電気機械器具製造業（企画担当）	・円安で輸出競争力が高まってきているうえに、米国の経済状況も安定しているため、輸出企業の業績改善が期待できる。
			電気機械器具製造業（経営者）	・オリジナル製品のパーラーチェアの販売見込みがある。
			輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・円安の影響で輸出自動車台数が増加する。
			建設業（経営者）	・多少の懸念事項はあるが、マンション・戸建売上の堅調な推移やモデルルーム来場者の増加等アベノミクスの効果が着実に現れている。
			輸送業（従業員）	・業種によって格差がある。物流業界では燃料の石油製品の価格が高止まりで運賃への転嫁が難しく、依然として厳しい経営が続くと思われる。景気が好転するとドライバーの採用が難しくなり、懸念材料である。
			輸送業（エリア担当）	・円安で当地域の製造業は活気付いている。
			輸送業（エリア担当）	・通販が急に伸びてきている。
			通信会社（法人営業担当）	・良くなってもらいたいとの願望も含めて、3本の矢の成長戦略の効果に期待する。良くなると、来年4月に消費税増税とはならず、政府の戦略も立たなくなる。政治主導のもと、企業は今までの内部保留を、設備投資や従業員の給与改善にシフトするであろうとの見方が入っている。
			金融業（法人営業担当）	・円安による自動車輸出増を背景に、下請部品メーカーでも受注増加の動きが広がっていくと期待される。
行政書士			・貨物の動きが安定している。	
会計事務所（職員）			・経済のインフレ傾向を敬遠するかのように、消費でも、早め早めの購入に移行しているようである。高級品、耐久消費財の購買意欲が高まっている。	
その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・今年度については、もともと各社の投資計画があり、たまたま立ち上がりが遅いだけであると思われる。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・受注量、販売量ともに増加で推移するとは考えられず、今の状況で推移する。
		金属製品製造業（経営者）	・景気が良くなる期待感はあるが、引き合いは増えておらず、変わらない様相である。
		金属製品製造業（従業員）	・原材料の値上げ圧力が強まると、圧迫要因になりかねない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・一度値下げした商品の値上げは許容されず、受注量が増えなくても利益はそれほど増えない。現在の好況が続くかどうかは為替次第であり楽観はできない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・販売量の増加は、一時的な傾向の可能性はある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・まだまだ為替が安定したとは思えず、2～3か月で回復するにはとても思えない。今後も現状の90円程度が続けば、輸出が再度増加する。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・生産計画は、しばらくこの状態で続く。
		建設業（営業担当）	・大手スーパー等で下水道につなぐ割合が上がってくるため、我々の業界にとっては痛い。役所から受けている仕事は下水道関係であるため、業況が変わるかどうかわからないが、少し悪くなると思っている。
		輸送業（経営者）	・国内生産で新規の設備投資が増えているわけではなく、国内の物量が増え続けるとは思えない。大手メーカーからも、足元の需要回復に対する国内設備投資を手控えるよう、仕入先に話があったと聞いている。
		輸送業（エリア担当）	・前月は、荷物の動きが少し良い方向に向いて来たと思ったが、ここに来て動きが止まっているように感じる。良い話も聞こえて来るが、しばらくはこのままで推移していくと思われる。
		輸送業（エリア担当）	・景気が良くなる兆しが報道されているが、1日当たり、1か月当たりの荷物量をみても決して増えていない。实体经济は動いておらず、景気は現状維持である。
		金融業（企画担当）	・個人の投資意欲や消費意欲がおう盛になってきているのは、短期的な株高、円安の影響によるものである。これがより長期に続いていかなければ、本格的な景気回復とは言えない。
		不動産業（経営者）	・中小零細企業は、今回の経済回復が本物かどうか見極めの途中のため、大きくは変化しない。中堅以上の企業では、会計上は増収増益に感じられるが、实体经济はまだ低迷期にありそうである。
		不動産業（管理担当）	・世間で景気が良いと言われているほど、オフィスの需要は動いていない。実際の状況とギャップがある。もうしばらく様子を見ないと、本当に景気が良くなったかはわからない。
		広告代理店（制作担当）	・広告の受注は、定期的なものは今までと変わらない予定であるが、目新しいものが出てこないため、横ばいが続きそうである。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込広告は2～3%の減少が続き、1人世帯の新聞購読率は、壊滅状態である。
		公認会計士	・経済の雰囲気は良くなってきているが、中小企業の業績が上がる見込みはまだまだ少ない。
		会計事務所（社会保険労務士）	・4月は昇給の時期であるが、実際に昇給を行った顧問先は少ない。手取りが変わらなければ、消費に回る額もあまり変わらないのではないかと。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・思った以上に円安が進んでいるが、良い事ばかりではない。6～7月には批判も出てくると思う。中小企業では新製品の開発に積極的に取り組み、金融界には是非手助けをしてもらいたい。
		やや悪くなる	
輸送用機械器具製造業（財務担当）	・円安による追い風はあるものの、下期からの受注量の減少を補うには至らない。		
金融業（従業員）	・今までは、先の見通しは悪い方向に向いている話が多かった。しかし、ここ数か月先はある程度読めてきて、生産性も上がりつつある、との声をよく耳にする。		
悪くなる		窯業・土石製品製造業（経理担当）	・新設住宅着工件数が減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		鉄鋼業（経営者）	・4月からの電力、ガソリンや素材の値上げで、最も大きなダメージを直接的に受けているのは中小零細企業である。新規の仕事も少なく、単価を値上げしようにも、少ない仕事を更に減らす結果になる事が明白である。むしろ、企業努力の名目で値下げを要求する客も多くなる。
雇用 関連 (東海)	良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・安全を見越して参院選の結果待ちをしているが、結果の如何によらず、上向きの方向感がうかがえる。
		職業安定所（職員）	・正社員の求人が増加していくかが、今後の回復の鍵を握る。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・正社員採用の求人案件が、引き続き増加している。
		人材派遣会社（支店長）	・業務委託へのシフトが引き続き継続しており、受託可否の状況にもよるが、当社にとっては追い風になる。また、契約社員採用後3年が経過し、求職者の登録が20%増加するなど、こうした状況がしばらく続くと予想される。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・株値上昇、為替相場の円安傾向を受け、自動車販売も上向き傾向になると予想する。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・アベノミクスの効果を背景に、個人消費が徐々に上向いてくる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・参院選まではマイナス要因は少ないであろう。したがってそこまでは現状維持かプラスに転じる可能性もあるが、中小企業までは行き渡らないのではないかと。
		職業安定所（職員）	・新規求職者の動向が落ち着くなかで、求人数の増加から求人倍率上昇となり、非正規求人を含めて労働条件が良くなると思われる。また、医療、福祉分野での新たな求人応募申込が継続すると考えられる。
		職業安定所（職員）	・求人数が増加傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・求人情報誌で求職者を募集しているが、面接を行う前に断ってくるように求職者の姿勢が中途半端な状態である。半年前以上前からこうした状況でなかなか求職者を採れず、この状態は更に続いていく。
人材派遣会社（営業担当）		・アベノミクスの効果が私たちの実感につながるまでには、もう少し時間がかかると思う。	
職業安定所（職員）		・円安の効果で一部に改善は見られるが、全体として求人が増加するまでにはつながっていない。まだ時間がかかりそうである。	
民間職業紹介機関（営業担当）		・地域の企業幹部に聞いたところでは、景気の上向き感は全くないという意見が多い。上向きと感じるのは大手企業に限られるとの声もある。下請企業への取引条件は、依然として厳しいのが実状ではないかと。	
民間職業紹介機関（営業担当）		・求人数や求職者数の大きな動きとなる兆候は見られない。	
学校〔専門学校〕（就職担当）		・就業に語学が有利とされる業界で、今年度と来年度の採用が見送り若しくは減少となった事により、資格取得希望者が減少している。	
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・4月の好調な宴会需要の反動で5月はあまり良くない。ゴールデンウィークは特に祭りのために良くないが、後半は持ち直す。	
悪くなる	—	—	

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)	良くなる	スーパー（店長）	・競合店の状況を踏まえて、店舗としての施策を今後少し切り替えていけば、さらに伸びると予測している。
		観光型旅館（スタッフ）	・宿泊予約は4月が前年同月比106%、5月が同110%、6月が同103%、7月以降も前年を上回る予約を保有できている。間際予約が前年並みを確保できるかがこれからの課題である。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長）	・多少、客の財布のひもが緩んできているように感じる。購買意欲が旺盛になってきた感じはある。
		百貨店（売場主任）	・円安傾向でまだ市場への反映は少ないものの、徐々に景況感の上がっており、高額商品の動向が伸びつつある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・今から3か月後はお中元商戦や夏のクリアランスセールも始まり、客の購買動向は上がっていくと思われる。特にお中元商戦は、早期承り期間に来店する傾向が強くなってきており、お中元商戦を中心として、クリアランスセールなどで上がってくるであろう。
		コンビニ（経営者）	・当店が属するチェーン店では、陳列量を増やしたりして、冬期間から夜間の売上を伸ばそうという取組をしている。これから気温上昇によって夜の客が増えるということから、売上も伸びてくるのではないかと希望的観測ではあるが期待はしている。
		衣料品専門店（経営者）	・県内のあるゴルフ場には、間違いなく客が戻ってきているという感じである。最近の土曜や日曜は、料金が高いため敬遠されているコースが、2週間ほど前に申し込むとキャンセル待ちになり、かつキャンセルする組が一組も出てこないという状態にある。もっとも他のゴルフ場で1日5,000円で満員の所もあるが、別格かもしれない。
		家電量販店（店長）	・消費税率引上げ前にエアコンの前倒し販売が見込まれる。
		乗用車販売店（役員）	・消費税率引上げに向けても、この期待度の高い景気の好況感は維持されるべきものと思うので、悪くなることはないと思われる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・現在の円安と株の動きにより、今後2～3か月はやや良くなると思う。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・本年のゴールデンウィークは、前半と後半の間に3日間の平日を挟むため、国内近場での外出消費が想定され、引き続き来客数の増加傾向が見込まれる。
		スナック（経営者）	・2～3か月先までは空気だけは良い状態であるか、業種による格差はあるが自動車関連など忙しいところがけん引してくれる気配を感じる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊や宴会の予約状況は好調を保っている。
		旅行代理店（従業員）	・個人客は相変わらず動きがみえない。しかし、明らかに団体の企画や見積り依頼が増えており、多めに期待している。
		旅行代理店（従業員）	・アベノミクス効果の浸透により、やや良くなるであろう。
		タクシー運転手	・ビジネスホテルに、ビジネス客が少し滞在するようになったような気がする。
		通信会社（職員）	・サービス業界などの賃上げの動きを受け、地元中堅企業社員の間にも将来への不安感が和らぎつつある。
		通信会社（営業担当）	・夏モデルの発表が5月以降行われると予想され、その発売に伴い販売量も増加すると思われる。
		競輪場（職員）	・レースを絞って購入する客が増えている。2～3か月後はグレードの高い開催が続くため、来客数、売上ともに、増加するのではないかと予想している。
		その他レジャー施設（職員）	・卒業や入学の時期が落ち着き、子供のカルチャー系、スイミングスクールへの入会が少しずつではあるが増えてきている。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税率引上げ前の駆け込み需要により、2～3か月先の景気はやや良くなると思われる。
		住宅販売会社（従業員）	・高級住宅では消費税率引上げによる駆け込み需要はあまりみられないが、値頃感のある注文住宅は5割近く的大幅な伸びを示している。一方で、円安からくる資材の高騰がここに来て顕著になってきている。受注面は大幅に伸びるが利益面でそれに伴った伸びは期待できない。
		住宅販売会社（従業員）	・春の需要を取り込むため、各社の広告も増え、消費税率引上げ前までにどれだけ受注が積み上げられるかの競争になっている。今契約しても秋以降の着工という会社も増えており、また、円安傾向も相まって価格の上昇の対応になりつつある。
		住宅販売会社（従業員）	・4月1日から「木材利用ポイント制度」がスタートし、最大60万ポイント（60万円分）もらえるため、今後ますます客の動きが活発になると考えられる。
変わらない	商店街（代表者）	・世間で言っているほど、購買意欲につながるものが無い。	
	商店街（代表者）	・今年は寒い日が続く、これから一気に暑くなると、春物が全く売れなくなってしまう。資金繰りなどが苦しい会社が増えそうだ。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔鮮魚〕 (従業員)	・景気マインドとしては良いが、給料が増えて可処分所得が増えているわけではないため、当面はそれほど消費が増加することは無いと考える。
		一般小売店〔事務用品〕 (役員)	・25年度は様々な建設計画や事業が予定されているため、需要はあると思うが、景気が上向きかどうかということは、我々の業界は半年後になるのか1年後になるのかそういう状況はまだ不透明なため、何ともいえない。
		百貨店(営業担当)	・若干ボーナスも上向き加減と聞いているため、一部高額品関係も期待できると思われる。なお、今からクールビズやクールライフといった夏商戦に入るが、やはり商品自体の機能性あるいは付加価値といった物が客に伝わっていかないと、従来の夏物では厳しい気がしている。
		スーパー(店長)	・今月の現在の状況をみても、周囲やマスコミおよび円安の景気感があまり食品スーパーの現場では反映されていないのが実状であると思われる。実際に数値的にみても、良く上がっていないのが現状である。天候状況についても、非常に寒暖の差が激しかったのが一因といえる。今後はこういったことも含めて、気温や天候の上昇を期待しつつ、販売に注力していきたいと思っている。
		スーパー(総務担当)	・ガソリンや小麦の高騰、円安により、実質家計は圧迫されている。現状は、食品に対する購買の影響は生活必需品であることより微小であるが、来年の消費税率引上げとなれば、影響が出ると思われる。
		スーパー(店舗管理)	・ようやく前年同月水準に戻っただけである。来客数は上がっても、客単価や買上点数などは前年同月にも満たない点のみでも、景気が良くなっていくとは思えない。
		コンビニ(店舗管理)	・円安による「食料品の値上げ」が押し寄せている。小売価格に転嫁できるほどの空気感も無く苦しんでいる。一方、アベノミクス効果による景気浮揚も見込まれ、相殺されると思われる。
		衣料品専門店(経営者)	・景気の良い話が聞こえてこないわりには、製造原価が上がっているとか消費税率引上げなど不安な話の方が多い。
		衣料品専門店(総括)	・客の様子をみていると、購入するまで非常に長く考えている。欲しいと思ったものは迷わず買うという思考に全くなっていない。
		家電量販店(店長)	・話題性の高い商品は発表されているが、客の問い合わせは少ない。来店時の購入点数も減少している。
		家電量販店(管理本部)	・一般消費者の収入が増えているという実感が無いように思える。
		乗用車販売店(経営者)	・現在使用している車が古くなり買い換えている状況が多く、新商品だから積極的に購入するという状況ではないため、しばらくはこの状態が続くと思う。
		自動車備品販売店(従業員)	・主力のナビゲーションの単価下落が大きく明るい兆しが見当たらない現況で、新たな施策を企画してはいるが即効性を欠き、見通しは暗い。
		住関連専門店(店長)	・かなりの無理をしての住宅の新築では、その他に使える予算が無さそうである。景気回復にはまだまだ時間が掛かる。
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・当地や当業種が良くなってくるとは1年以上は掛かると思っている。また、北朝鮮、中国や韓国との問題があるため、これも景気の足を引っ張っているのではないかと思える。
		その他専門店〔医薬品〕 (総務担当)	・化粧品は、ドラッグストアの主力である中級クラスの商品の動きが悪く、客の財布のひもは固いものの、カテゴリーを問わず低価格帯商品への需要が高い。
		高級レストラン(スタッフ)	・アベノミクス効果など景気の上向きを期待するが、現在の受注状況では影響を感じられない。
		一般レストラン(店長)	・景気回復を期待したいが、地方への波及には時間が掛かりそうだ。
		観光型旅館(経営者)	・旅行会社の動きとしては、北陸方面への送客は新幹線開業まで控えているように思われ、依然として集客が厳しい状況には変わりないように思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・高額品が売れるというニュースも目にするが、消費者の一部の動きであろう。足元の景気は確かに明るさもみえているが、価格には非常に厳しく販売価格は下げ止まっていない。価格を少し上げると売上は減少するため、より付加価値やお得感を打ち出さないと売れない。また、仕入原価が上がっていても転嫁ができない。
		タクシー運転手	・天候も良くなって人出はあると思うが、あまり大きな変動は無く、変わらない状態が続くと思う。
		通信会社（営業担当）	・解約数は減少傾向にあり、新規契約数の伸びに変化も無く、現状上向きとも下向きともいえない状況である。
		テーマパーク（職員）	・先行予約をみても、引き続き海外からのインバウンド客は好調に推移すると思われるが、一方、国内の団体や個人の前予約状況は前年同月よりやや鈍い状況にあり、トータルとしては前年同月並みの状況が続くと思われる。
		美容室（経営者）	・美容室で消費マインドが上昇している感はまだ無い。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税率引上げの駆け込み需要によるものであり、個人の所得改善はまだまだ感じられず、力強さに欠けている。
	やや悪くなる	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・原油高や為替の動向など家計に直結する不安要素が多くあり、良くなるとは思えない。
		スーパー（総務担当）	・円安の影響が水道光熱費の増加につながるため、基本的な生活用品の需要は増加しない。
		スーパー（統括）	・今後3か月はやはり異業種であるドラッグストアやコンビニエンスストアの高速出店の状況にあり、また、客が価格により購入先を選んでいることより、厳しい状況にあると思う。
		コンビニ（経営者）	・来客数の微増傾向が続く、また、客の同じ商品であれば安い物を買うという傾向は変わらず続くと思われる。また来月にはすぐ近くに競合店も出店し、来客数の減少はやむを得ないところであり、売上の下がり傾向が続くと想定される。
		コンビニ（店長）	・景気回復はニュースなどで言っている以外全く実感できない。前年は競合店の出店などもあり苦戦した1年であったが、今年は外的要因の変化が無いにもかかわらず、前年同月割れしている状況にある。良くて変わらない、最悪悪くなると感じている。良くなると期待していただけに過度の期待感があるのかもしれないが、実際に前年同月比割れしている。
		通信会社（役員）	・従来の有線によるインターネット契約から、無線化が急速に進展しており、ケーブルテレビにおける新規契約獲得環境には厳しさが増している。
	悪くなる	—	—
	良くなる	—	—
企業 動向 関連 (北陸)	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・円安の好影響が輸出関連での受注増に良い影響を与えそうである。また、国内の消費が上向くこと、そして、輸入品の価格上昇により、国内生産品との価格差も縮小し、受注環境の改善が期待できる。
		繊維工業（経営者）	・国内の今年の秋冬の生産量は、前年よりは増えていくだろうと思う。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・円安状況が続くことが条件となると思うが、徐々に、国内消費が回復してきていると感じる。一方で輸入材の高騰懸念もあり、この部分の価格上昇の具合、政策がポイントとなってくる。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・国内は「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」の結果が発表されるので、受注額が増える予想している。また欧米からの受注も、円安により増加が見込まれる。
		建設業（経営者）	・前年は8月頃まで公共工事の発注がほとんどなかったが、今年はゴールデンウィーク明けから、地方自治体がかなりの量の公共工事を発注するといわれており、それに期待したい。
		通信業（営業担当）	・北陸新幹線などの影響もあり、建設需要も若干でも出てくると思われるため、将来的には底上げの要因になり得る。
		金融業（融資担当）	・景気の指標のうち幾つかが継続して良くなっており、期待感が高まることによって、将来の設備投資や消費者の消費マインドが高まれば、この先の景気の改善につながる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（融資担当）	・株価上昇などの心理的なプラス要因が、現在はまだオープンであるが数か月後にはプラスに作用してきて、個人消費についても伸びていくというように判断される。大都市圏については既にその動きがあるようであるが、北陸地区ではまだであり、それが波及してくるのは3か月程度掛かるであろうと判断される。また消費税率引上げがマイナスと読むには早すぎるということにより、当面はマイナス要因よりもプラス要因の方が大きく働きやすい効果がみえると思われる。
		不動産業（経営者）	・個人や法人の方からは、まだ特に景気がいいという話は聞けないが、同業者関係に聞くと、この後2～3か月先ぐらいに期待感を持つてるといった話が聞けた。
		司法書士	・消費税率、住宅ローンの貸付金利などの引上げが予想されるなか、個人住宅の新築が増加すると思われる。
		税理士（所長）	・これから先、やはり景気の気分というのが良くなってきた感じがする。これから夏のボーナスがもう間近に近づいているが、是非引上げの形でいくことを期待したい。公務員関係は下げる方向になるが、本来ならばそれでも上げる方向で政府も努力してほしいし、公共工事の認可単価もまだ下がったままの業種が多いので、とにかく付加価値を付ける、付加価値に予算を投じる、企業も付加価値に先行投資することにより1人当たりの価値を上げないと消費税率引上げにも耐えられないため、そこに期待したい。これがないと中割れするという心配がある。
	変わらない	食料品製造業（役員）	・主原料の単価が幾分下がってくるが、副原料および燃料費が上がってきており、今後2～3か月先をみれば変化は無いと予測している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・やはり住宅市場は来年の4月の消費税率引上げの影響が出るのは、今年の年末ぐらいからであり、3～4か月先では今の状況が変わらないとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の分の注文の入り具合をみると、今月と変わらないと思われる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・為替の影響はプラス側には作用するものの、2～3か月の期間では、国内は好調であり、海外は厳しいという状況は、総合的にはまだ変化しそうにない。
		建設業（総務担当）	・消費税率の引上げ前に工事発注の動きが少し出てきた。また、官公庁工事の発注予定が増加見込みであるが、技術者が限られており、応募することが難しく、業況は依然として現状維持と予想される。
		輸送業（配車担当）	・世間は景気が上向きとの判断だが、輸送業界は円安による燃料費の高止まりによるコスト負担が運賃に転嫁できず、今後極端に良くなるとは思えない。
やや悪くなる	○	○	
悪くなる	—	—	
雇用 関連 (北陸)	良くなる やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・今後、求人数が増えるにつれて人材確保が厳しくなるため、時給単価上昇など待遇改善に努め、より良質な人材確保をしていかなければいけないと考えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・建設などの業界を中心に人手不足の感じが引き続きある。求人広告への波及効果はまだ不透明である。
		職業安定所（職員）	・新規求人の増加傾向と新規求職者の減少傾向が続いており、懸念材料であった製造業の求人にも回復傾向が出てきている。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・一時的欠員補充のための人材需要は発生している。長期安定的な増員計画まで発展しそうもない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・正社員を募集する企業がまだ伸びてきていない。
		職業安定所（職員）	・県内の主要産業である製造業の求人数の回復がみられないため、2～3か月先の景気は変わらないと思われる。
		職業安定所（職員）	・今後の状況に期待感を持つ企業が増えていようには感じるが、円安の影響もあり、全体的には変わらない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・新年度予算が執行されても、景気回復に効果が出るまで6か月～1年ぐらいは掛かると思われる。
	やや悪くなる	—	—

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	—	—

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	良くなる	乗用車販売店（販売担当）	・今のままの市況が続けば、し好品である乗用車の販売量が増える。
		都市型ホテル（客室担当）	・昨年に比べて予約状況が良く、6月は前年比で140%である。特に海外からのインターネット予約の入込が良く、円安が追い風になっている感がある。
		旅行代理店（営業担当）	・旅行などのレジャー需要の高まりは、株高などと相関関係が高い。
		通信会社（企画担当）	・円安、株高は、間違いなく好景気を促すことが期待できる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・大企業と零細企業では格差があると思うが、ボーナスや給料がアップし、少しでも日用品の購入が増えることを期待している。
		商店街（代表者）	・買上点数の増加が見込まれ、顧客ニーズに合った商材を的確に仕入れることができれば、消費のムードは良くなっている。売上は伸びる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・需要は前月よりも良いムードであり、特別な天候不良がなければ6、7月の夏物衣料の販売には期待できる。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・アベノミクスへの期待が高まっている感はある。夏に向けた省エネや熱中症対策関連で、商品が動くことを期待している。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・景気が回復するという期待感が広がっている。明るいムードになっている。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・景気が上向いているという実感はまだないが、感覚的には消費者の気持ちが以前と比べて明るくなっているように感じる。零細企業や工場が集まる地域であるため、景気の回復を実感できるのはまだ先かもしれないが、以前よりも将来に希望が持てる気がする。
		一般小売店〔花〕（店長）	・アベノミクスの影響かどうかは分からないが、少しずつではあるが販売量の伸びがみられる。
		一般小売店〔酒〕（社員）	・梅田地区の大型商業施設開業に伴い、来客数が増加している。
		百貨店（売場主任）	・株価上昇による資産効果などにより、富裕層の消費が引き続き活発化する。
		百貨店（売場主任）	・大型リニューアルが終わってオープンする予定であり、街自体が大きく変わり、集客が見込める。また、客の財布のひもも少し緩む傾向にあるため、現状よりは良くなる。ただし、この傾向がいつまで持続するのかわからない。
		百貨店（企画担当）	・梅田地区の活性化が進み、次は阿倍野地区の活性化が始まるため、取りあえずは集客や売上の確保ができる。大阪が元気を取り戻す機会にもなる。
		百貨店（営業担当）	・天候が安定すれば衣料品の販売増が期待できる。宝石の催事が動き出しており、改装後の和食割烹レストランも好調である。
		百貨店（店長）	・現状ではアベノミクスにより活気付いており、特に高額商品の売上動向にも表れつつある。ただし、これが持続するかどうかは、企業の利益増が労働者の給与に反映されていくかどうかにかかってくる。
		百貨店（服飾品担当）	・自分の時間を大切に感じる感覚が、高齢層だけでなく若い世代にも芽生え始めている感がある。それぞれ何に価値を感じるのかわからないもの、お金を使うときにはきっちりとお金をかけてくるライフスタイルが徐々に浸透している。
		スーパー（店長）	・景気回復による直接的な恩恵はまだ先だと思うが、販促を含め、天候が良ければ、来客数や販売額が増加している。
		スーパー（店長）	・円安の影響で国産品の需要が増えるため、販売機会の拡大につながる。
スーパー（広報担当）	・電気料金の値上げなど、家計の負担感が増す要因はあるが、夏季賞与に企業業績の回復が多少なりとも反映され、一般消費者が所得増を実感できるようになれば、日々の消費にもプラス効果が期待できる。		
スーパー（企画）	・直近は気温が低く、初夏らしい商品の動きはみられないが、気温の上昇で衣食住共に上向く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（社員）	・気温の高い日には、食品部門を中心に春物商材の動きが例年よりも良くなっている。価格の高いこだわり商品などの動きも堅調で、今後は客の消費はもっと増えると期待している。
		コンビニ（経営者）	・最近の傾向として、それほど暑くないのに、水やお茶の売上が前年比で10%ほど伸びている。今後季節的に暑くなってくるので、飲料水やアイスクリームの販売が増え、売上が増加する見通しである。
		コンビニ（経営者）	・好況感により、プレミアム系の商品の売上がまだまだ上がってきそうで、客単価の上昇が更に期待できる。
		コンビニ（店員）	・行楽やスポーツのシーズンになるため、来客数が増え、販売量も増えていく。
		衣料品専門店（販売担当）	・円安の進行で、少しずつではあるが、来客数が増えることを期待している。
		家電量販店（経営者）	・消費税率の引上げを控え、客の大型家電の買換え需要が増えてきている。
		家電量販店（企画担当）	・購入商品の単価が上がってきており、このままボーナス商戦を迎えると、更なる伸びが見込まれる。
		乗用車販売店（経営者）	・全体に良くなっているが、天候が不安定なため、衣料品関係のほか百貨店の動きも悪い。天候が安定すれば人の動きも変わり、更に良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・先月に比べると販売量にあまり変化はないが、単価は確実に上がってきている。
		乗用車販売店（販売担当）	・4月に入り、受注に少し一服感はあるが、夏場を前にRV車やエコカーなどの売行きが徐々に回復する。
		住関連専門店（店員）	・現在は端境期で売上が伸びていないが、これからは気温が上昇し、夏物の売上増が見込める。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・株高などで景気が復調する気配を感じて、消費が増える可能性はある。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・カタログなどについて新規の取組を進めているため、売上の拡大を期待したい。
		一般レストラン（スタッフ）	・来客数の増加傾向は関西地区ではやや鈍いものの、全国的には大都市を中心に続いている。消費動向の好転は期待感が先行しているとみられるが、浮かれた印象ではなく、底堅い印象を受ける。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・最近の傾向として、少し高価な物を買う客が増加している。
		観光型ホテル（経営者）	・気温の上昇に伴う動きや、婚礼シーズンということもあり、今よりも客の動きが出てくる。
		観光型ホテル（経営者）	・現状では景気が良くなったという実感は全くない。ただし、世の中全体のムードが明るくなってきているのは事実であり、何らかの形で波及してくることを期待している。
		観光型旅館（経営者）	・小規模なグループからの問い合わせが多く入ってきている。
		観光型旅館（団体役員）	・昨年秋以降、宿泊人数は増加傾向にある。この調子で上向きになるのではないかと期待している。
		都市型ホテル（支配人）	・円安や株高の好影響が景気を押し上げている大きな要因である。今後は、梅田地区や阿倍野地区での商業施設の開業が、関西の個人消費の引上げに大きく寄与する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会部門では、製菓、建設関係を中心に講演会などを受注できている。小規模の会議は減少傾向にあるものの、出張での宿泊が増加しており、単価も上昇傾向にある。レストランは、平日の昼間の利用が減少しており苦戦しているが、土日の利用は好調であり、常時予約待ちとなっている状況である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ここ最近の傾向として、先行予約は宿泊、宴会共に良くないが、直近で伸びるため、特に根拠はないが感覚的には期待できる。
		都市型ホテル（総務担当）	・6月までの宿泊客室の見込稼働率が前年を上回っている。予約の入り方が早く、高単価の部屋もよく予約が入っているなど、人の動きが活発になった感がある。
		旅行代理店（経営者）	・海外旅行は株高もあり好調であったが、急速な円安がマイナス要因にもなり、見極めが難しい。超先行での受注はあるが、韓国向けの間際予約が伸びずに相殺されている。国内旅行は、関西にとって大きな商品である関東のテーマパーク向けの予約増を期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・円安であるが、高額な海外旅行が増えている。政治が経済を変えている実態が鮮明になっており、今後は一層の期待感が広がり、投資マインド、消費マインドが高まる。
		旅行代理店（広報担当）	・夏休みの旅行の申込が、前年よりも10%以上増えている。客との話でも、ゴールデンウィークに申し込めなかった客が、旅行自体をやめるのではなく、早めに夏休みの旅行を申し込んでいることがある。景気が悪く、旅行そのものをやめるのではなく、行く日程さえあれば行こうというマインドはどんどん高くなってきているので、これから景気は良くなっていく。
		タクシー運転手	・雰囲気的なことでは、暖かくなってきて人通りが増えているほか、行楽や買物に出かける人も増えているように見受けられる。
		タクシー運転手	・政権交代による政策の本気度が実感できるほか、期待感との相乗効果も表れてきている。
		通信会社（経営者）	・株高などによる実質的な変化があるわけではないが、今後は効果が出てくると期待がある。
		通信会社（社員）	・好調な状況は当分維持できると考えているが、固定回線の需要は増加していないので、シェアが安定してきたら伸びにくくなる。
		通信会社（社員）	・通信会社の施策によっても左右されるが、閑散期も明け、新製品の発売により販売も伸びる。
		テーマパーク（職員）	・少々高額ではあっても、それなりの価値があれば買っても構わないと考えている客は、以前に比べれば確実に増えている実感はある。政治が好影響を与えているのか、来場者の消費動向をみていると、レジャー関連への個人消費は伸びてきているように感じられる。
		観光名所（経理担当）	・3月の施設リニューアル後、来客数が前年比で10%強のアップとなっている。この状態を夏か、できれば秋口まで引っ張るために、集客施策を打っていく。
		ゴルフ場（支配人）	・予約状況は前年比でマイナスであるが、先々月、先月よりも減少幅が小さくなってきているので、今後は良くなる。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・景気の先行きに対する期待感が高まっているため、生命保険の加入を検討する客が増える。
		住宅販売会社（経営者）	・客からの問い合わせの件数や質が、ここ数年の閉そくした状況とは違う。
		住宅販売会社（経営者）	・アベノミクスの成果が目に見えるようになり、インフレ指向が強まれば、景気は上向く。
		住宅販売会社（経営者）	・しばらくは今のような需要があると考えられる。
		住宅販売会社（総務担当）	・土地価格の上昇が関東方面から関西にも一部波及しつつあり、消費増税の駆け込み需要で契約も増える。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・注文住宅需要は、9月末までの契約が消費税率据え置き期限内なので、駆け込み需要が続く。
	変わらない	商店街（代表者）	・5月以降はエリア内の競争激化で予測がつかない。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・景気が良くなっているとの統計もあるが、生活に密着していない業種には、まだまだ浸透するまでに時間がかかりそうである。企業の経費削減は今までどおり続きそうで、数字として実感できるのはまだまだ先になる。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・それぞれの人のによって、財布の余裕や格差を感じる人が多い。安ければ何でもよいという風潮が変わらない限り、まだまだ景気は良くならない。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・本当に国民の所得が上がり、デフレからの脱却が進むのか、まだまだ不透明で分からないが、節約志向は変わらないと予想される。牛丼も280円となったが、消費の二極化が進むのか、全く想像がつかない。
		一般小売店〔食料品〕（管理担当）	・電気料金の引上げで、利益率はあまり良くないが、6月からはお中元シーズンで売上も伸びてくる。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・まだ様子見の状態、デフレ脱却とまではいかない。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・本当に景気回復が進んでいるかどうかは、1年後に分かる。
		一般小売店〔花〕（店員）	・一般消費者の意識は、まだまだ節約志向が強く、購買意欲が高まる様子はない。
		百貨店（売場主任）	・今後についても周りの環境は変わらないので、変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・来年の消費税率の引上げまでは、良い景況感が続きそうである。ただし、梅田地区の大型商業施設のオープンなどで、エリア間競争が更に激化する。
		百貨店（売場主任）	・関西地区では梅田地区の開発によるエリア間競争が激しくなってきた。そのため顧客の流出を防ごうと値引き合戦が行われており、一時的には消費が活発化するが、中長期的にはその反動でプラスマイナスゼロとなる。また、梅田地区の開発に関しては、テレビなどで話題になっているほど客は関心を持っていないため、全体の消費に大きな影響はない。
		百貨店（営業担当）	・地域間競争は更に激化する一方、消費税率が上がることを受けて、新築の高級マンションへの転居が増加し、高級家具の引き合いが増えてきている。
		百貨店（サービス担当）	・公共施設の歩道橋改装工事がほぼ完成し、客の来店する導線が確保されたことで、来客数が増加し、売上も増えることに期待している。
		百貨店（商品担当）	・大阪では梅田地区の商業集積が一段と強まり、来街客が大幅に増加するため、他地区の集客が伸び悩み、売上への悪影響が懸念される。
		百貨店（売場マネージャー）	・アベノミックスの影響もあり、企業の賞与水準も悪くないため、現状の動きが継続する。
		百貨店（売場マネージャー）	・宝飾品や高額バッグ、時計など、一定の購買はみられるものの、中間層はまだ反応が良いとは決していけない。旅行関連は好調と聞いているが、ファッションや雑貨への消費が増えるまでにはもう少し時間がかかる。企業業績が好転することで、6、7月のボーナス消費には期待したいところである。
		百貨店（外商担当）	・全般的に消費マインドは引き続き上昇していくと思われるが、当地区は4月末と6月に競合他店の新規出店や増床オープンが控えており、競争がますます激化する。
		スーパー（経営者）	・競合店の多い地域であるため、価格競争や客の奪い合いが続く。
		スーパー（経営者）	・アベノミックスの効果も限定的で、社会全体の景気浮揚にはまだまだ程遠い。特に、地方経済はいまだに冷え切った状態である。
		スーパー（店長）	・アベノミックスの効果は夏のボーナスに反映しない。特に、中小企業や小売業では消費税の問題も不透明であり、燃料や穀物などの輸入商品も絡み、円安の悪影響がこれから出てくる。
		スーパー（店長）	・月の前半は、気温の上昇で衣料品関連は好調が続いたものの、食料品を中心に苦戦が顕著となり、来客数、客単価共に悪化傾向が続いている。景気の先行きは不安定な要素が多く、まだまだ流通企業にとっては逆風の状態である。
		スーパー（店長）	・世間的には景気に対する好材料が伝えられているが、店頭での来客数、販売量の動きからみると、短期間で上向くという判断はできない。
		スーパー（企画担当）	・競合他社との競争激化は今後も続く見込みであり、楽観できる材料はない。
		スーパー（経理担当）	・天候や気温に左右される面があるものの、全体の基調としては底堅さを感じられる。セールやイベントへの客の反応も、以前のような手ごたえのない状況から脱しつつある。
		スーパー（販売担当）	・客の様子をみていると、ポイントが何倍であるなど、店ごとの特典のある日を使い分けている傾向がある。目玉商品の価格が10円でも変動があると、それに対して非常に敏感に反応するなど、まだまだ安い価格の商品を買い回る状況が続いている。
		スーパー（開発担当）	・政府の景気対策で円安や株価の上昇が進んでいるが、賃金が上がらなければ好景気とはいえない。
		コンビニ（店長）	・暖かくなると来客数は増えると思うが、景気の回復が一般の消費者に行き届くまでには、まだまだ時間がかかる。
		コンビニ（店員）	・売上の増加につながる材料もなく、現状のままで横ばい状態が続く。
		コンビニ（広告担当）	・2～3か月先では、まだ変わらない。
		衣料品専門店（販売担当）	・クールビズ関連の購入を含め、景気の様子をみる客は増える。
		家電量販店（店員）	・客の様子や単価、販売量などみても、まだ景気に変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・アベノミクスによる実体経済へのプラス効果が全くみられない。
		乗用車販売店（経営者）	・一般的に仕事の量が減ってきている。軽自動車は売れているが、修理、車検の売上は良くない。
		乗用車販売店（経営者）	・徐々に客は戻ってきているが、長期連休前になると仕事が途切れるなど、まだまだ不安材料が多い。
		乗用車販売店（営業企画）	・先行き不透明で様子見の状態となる。
		住関連専門店（店長）	・政治に期待感はあるが、既に対策が打たれている感が消費者に生まれ始めている。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・現在のような為替の円安状況が大幅に変化しない限り、今の景気は持続する。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・大きく変わる要素は見当たらないが、当業種からみればコマーシャルの影響もあり、ボディソープやシャンプー、リンスなど、香りの強い新商品の販売が増えている。高品質の商品も多く、化粧品のようにファッション化が進む傾向にある。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・新規の得意先が出てきている。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・ここ数年の円高の状況に比べれば、少々円安傾向が進んでも商品の価格帯が変わるわけではないため、購買意欲の向上にはつながらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・大型商業施設がオープンし、梅田地区全体が活気付く。
		高級レストラン（支配人）	・3か月前の販売量を上回ってはいるが、来客数は4月の目標値には届かないなど、梅田地区の大型商業施設の開業による影響は免れない。
		一般レストラン（経営者）	・集客見込みのあるイベントが増えるため、景気は良くなるが、年始からのマイナスを徐々に解消するのにとどまり、全体的にはあまり変わらない。
		一般レストラン（経理担当）	・景気は上向きといわれているが、一部の業種に限られたものであり、飲食業に影響が出てくるのはもう少し後になる。
		一般レストラン（店員）	・景気が上向きの状況はまだまだ感じられず、収入も変わらない。
		スナック（経営者）	・このまま同じ方針でよいのか、これからの客に合わせていく方がよいのか、この状況では判断が難しい。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・来客数の動向に変化がみられない。企業収益の改善が賞与などに反映し、消費拡大につながると期待しているが、それはまだ先である。
		観光型ホテル（経営者）	・予約が間際化しているので、まだ何ともいえないが、昨年よりはやや良くなるのではないかと期待している。
		都市型ホテル（マネージャー）	・好調が続いていた客室部門は、海外からの観光客が減少する時期となるが、宴会部門も前年並みの予約状況で推移するなど、ホテル全体ではほぼ前年並みの予想である。ここ数か月は同じような傾向が続いており、大きな変化は期待できない。
		タクシー運転手	・これから観光客が増えて、多少は良くなる。
		タクシー運転手	・ゴールデンウィークに消費が集中し、それ以外の消費が見込めない。
		通信会社（企画担当）	・好転する材料がない。
		観光名所（経理担当）	・今月の前半は気候、天候に恵まれた。土日や祭日のほか、桜の見ごろも好天が続いたことで、来客数、売上共に増えた。ただし、後半は月末に連休が控えているためか、来客数は伸び悩んでいる。一方、アベノミクスの効果か、少し購買単価が上がってきており、前年比では8%程度の上昇となっている。
		競艇場（職員）	・ここ数か月、単価の動きは回復傾向にあるものの、単価を押し上げる起爆剤は見当たらない。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・景気回復策や、電気・ガス料金の値上げ、円安、消費税の二段階増税など、暮らしを直撃する要素はたくさんあるが、ある程度は客の開き直った対応も考えられるなど、先行きは不透明である。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・プロ野球の交流戦や家族向けのイベント、人気グループのコンサートがあるので、多くの来場を予想している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・円安によるインバウンド客の増加は更に期待できる。ただし、神戸地域での余暇消費の獲得競争は、新規の商業施設開業などもあって厳しくなっており、それを上回る市場拡大までは期待できない。	
		美容室（経営者）	・商店街では、閉店が2店舗、開店が1店舗と、動きが出てきている。一方、駅周辺にはマンションが多いが、年金生活者が多い。物価が高くなっても、年金は引かれるばかりで苦しくなると考えている人が多く、カットだけにしていくという人が増えている。	
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕 （エリア担当）	・新しいパッケージ内容での改装や出店により巻き返しを図りたいところであるが、少し時間がかかる。	
		住宅販売会社（従業員）	・為替、株価の動きは、新政権への期待感が先行しているようにしか思えず、実体経済が上向くまでにはまだまだ時間がかかる。	
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・一概にはいえないが、消費は少し増加傾向にはあるものの、身の回りでは今までと変わらない状況である。物価だけが上昇しているようにも感じる。	
		その他住宅〔情報誌〕 （編集者）	・9月末までは好調な状況が続く。ただし、施工コストの上昇が顕著であり、今後の販売物件は価格が上昇せざるを得ない状況のなか、下半期は販売が低調になる可能性もある。	
	やや悪くなる		百貨店（販促担当）	・今後も大型商業施設のオープンが続き、消耗戦の様相となる。来客数への影響は避けられず、数か月にわたって影響が出る恐れもある。一方、株価上昇などで景況感の改善が浸透すれば、購買率や客単価が上昇する可能性もある。
			スーパー（店長）	・来客数は減少しているが、60歳以上の客は増えている。日々の食料品、消耗品に買物が集中しているため、売上が伸びず、良くて現状維持である。
			スーパー（管理担当）	・中小の小売流通業者は依然として厳しい状況にある。原油などの燃料価格もかなり高騰しており、経費削減で対応することは難しい。
			衣料品専門店（経営者）	・他地域での新規オープンなどによる影響を受ける可能性が高い。
			衣料品専門店（営業・販売担当）	・クールビズが始まり、夏物スーツ、ネクタイなどの売上が減少する。
			一般レストラン（経営者）	・梅田地区での大型商業施設の開業に伴い、週末の来客数が減り、売上に影響が出る。
			観光型旅館（経営者）	・石油製品の価格は下がっているが、電気料金や小麦価格の値上がり、公務員給料の引下げなどで、生活に関する不安感が出てくる。
			競輪場（職員）	・昨年の傾向よりも悪くなっている。アベノミクスの効果はまだ実感できず、様々な物が値上がりしているが、それに賃金の上昇が追いついていない感がある。
悪くなる		百貨店（企画担当）	・景況の好転による好影響は継続しているが、梅田地区や阿倍野地区での大型商業施設の開業など、当社を取り巻く競合の激化は避けられず、厳しい状況になっている。	
		衣料品専門店（経営者）	・既に円安の影響で、ウォン高や元高が進み、韓国や中国からの輸入品が2割5分から3割ほど値上がりしているため、今後衣料品は値上げせざるを得ない。	
企業動向 関連 (近畿)	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・新たな取引先との契約が始まる。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・海外の取引先を増やさざるを得なくなっており、5年以上が経過する。ようやく海外取引にも慣れ、海外シフトに成功したと思っただけ矢先に、願ってもない円安が到来したため、今後の取引に期待できる。	
		その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	・そろそろ広告出稿にも上向きの兆候が出てきたと感じている。	
	やや良くなる	食料品製造業（営業担当）	・ミネラルウォーターの売上が伸びている。今後も備蓄品としての購入のほか、気温上昇に伴って売上が伸びる。	
		食料品製造業（経理担当）	・円安や株高にはメリットとデメリットがあるが、メリットの方が多く、雰囲気は良くなってきたと感じる。	
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・配達が進まないぐらいに受注が増えてきている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・医療業界では、変わらず学会や研究会が頻繁に実施されており、学術印刷物の受注は安定している。新薬開発は製薬企業だけでなく、大学の研究室との共同研究などに幅が広がってきており、再生医療の市場も今後はグローバル化が進んでいく。		
		化学工業（経営者）	・問い合わせは増えてきているように思うので、しばらくは期待できる。		
		化学工業（管理担当）	・アベノミクス効果、円安による輸出量の増加のほか、賃上げや賞与の支給もあり、経済は活性化する。		
		プラスチック製品製造業（経営者）	・全体としての傾向は悪化気味ではあるが、自動車や重機関連がそれを上回り、差し引きで見通しはやや良くなる。		
		金属製品製造業（経営者）	・円安、株高、東日本大震災の復興需要により、3か月先に期待している。		
		金属製品製造業（管理担当）	・現在、太陽光発電用のパネルの生産が追いついていないが、6月ごろには生産の見通しが立ったため、全体的に出荷量が増える。		
		電気機械器具製造業（経営者）	・円安、株高は景気にとって良い材料であるため、時間がかかるかもしれないが、良くなることは間違いない。		
		電気機械器具製造業（企画担当）	・住宅市場が活性化すると関連業界まで消費拡大が見込めるほか、円安で輸出企業が好調を維持する予想のなか、設備リニューアルに伴う受注拡大も見込める。		
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・アベノミクスの効果が徐々に出てきて、個人消費が活発化することを期待する。		
		建設業（経営者）	・消費増税の関係もあるのか、企業の設備投資の案件が徐々に出てきている。		
		建設業（営業担当）	・受注後も、建設労務費や建設資材の価格が上昇しているが、契約済の案件では物価上昇による値上げは認めてもらえない。拡大している建設市場のなかで、受注金額も緩やかに上昇し、適正な利益が確保できるようになることを期待したい。		
		金融業（営業担当）	・現在の受注の増加傾向をみれば、先行きは良くなる。		
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・アベノミクス効果で良くなる。		
		不動産業（営業担当）	・土地や不動産を取得したいというニーズが、個人、法人共に高まっている。土地の取引は増えているが、実際にその建物に住んだり、借りたいという人は増えておらず、実体経済としてはまだまだ厳しい。		
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・戸建物件や新築マンションなどの不動産関係や、自動車販売、エステなどの折込件数が増えてきている。		
		広告代理店（営業担当）	・関西では阿倍野地区で大型商業施設の開業が控えているので、2～3か月は活発な動きとなる。		
		広告代理店（営業担当）	・ここ3か月間の企業全般の様子をみると、広告に対して非常に積極的になってきている。		
		広告代理店（営業担当）	・夏に向けて、テレビコマーシャルも含めて少しは戻ってくる。		
		経営コンサルタント	・クライアントの食品スーパーでは、円安の影響で商品の値上げが増えてきているが、まだ卸業者等が価格上昇分を負担しており、店頭価格には影響が少ない。これらが本格化してくるまでは、売上が前年を上回る傾向は続く。		
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・関西では大型商業施設の開業ラッシュが続くため、ゴールデンウィークを中心ににぎわいをみせることになる。		
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・今のところ、消費マインドの向上が実用衣料の購買につながっているとはいえないが、徐々に雰囲気は明るくなるなかで、プラスワン需要が期待できる。		
		変わらない		食料品製造業（従業員）	・新聞やテレビでは、一部の企業は景気が良いと伝えているが、中小企業では販売先からの要請もあり、安価な物しか動いていないので、売上はなかなか上がらない。このような状況がしばらくは続く。
				繊維工業（総務担当）	・染め代、糸代などの原材料価格が確実に上がってきている。景気回復基調とはいえ、実感できるようになるまでは時間がかかる気がする。
パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・消費が上向かなければ、生産増もない。ただし、医薬品関連の受注は新製品の発売などで増加している。良くなる要因と悪くなる要因があり、全体としては変わらない。				
窯業・土石製品製造業（経営者）	・瓶を製造しているが、円安や電気料金の値上げが響いている。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（営業担当）	・新規案件の話など、売上アップにつながる話がある一方で、取引先が海外生産で現地調達を増やすなど、仕事が減る話も多い。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の投資計画が実施されるのは、もう少し先になると思われるため、景況はここ数か月横ばいとなる。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・昇給が見込めない社員が多い。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・企業が設備投資に向かっているような状況には至っていない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・より好転する要因は、まだ見当たらない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・国内での引き合いは増加傾向にあるが、現在は海外での仕事为主であるため、当面は現状維持のまま推移する。
		その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	・新商品の開発が進んでいないため、売上の増加が期待できない。
		建設業（経営者）	・今の状態がしばらく続く。ただし、消費税の増税なども控えており、土地の動きは活発になることが予想されるので、この先に期待したい。
		建設業（経営者）	・アベノミクスにより為替や株価が急激に変動し、景気回復の雰囲気があるため、实体经济を引っ張ってほしい。一方、官庁関係の発注量は増加傾向にあるが、技能労働者の賃金や建設資材価格の高騰で予算が合わず、不調の可能性もある。
		輸送業（営業担当）	・担当している地域には中小工場が多いが、世間でいわれているような好景気は全く感じられず、来月の予定も小規模工場は良くなる気配がない。
		輸送業（商品管理担当）	・ニュースなどで景気回復といわれているが、生活面で変わることはない。
		輸送業（営業担当）	・配達件数が減少しており、増える見込みもないので、この状態が続く。
		通信業（管理担当）	・まだまだ良くはならない。
		司法書士	・期待感が高まるものの、それに見合った案件もなく、当面は現状のまま推移する。
		経営コンサルタント	・季節変動の要因がかなり大きく、6月ぐらいからは現状維持となる。
		コピーサービス業（店長）	・駅周辺の新規商業施設の動きも落ち着くころだと思われるが、それまでは新規顧客の利用が見込め、リピーターの増加も期待できるため、順調に推移する。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・例年、ゴールデンウィーク明けには忙しくなるが、今年はどうなるか分からない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・4月から始まった新規取引がうまく続けば、今の水準を保つことができる。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・平均的には大手から良くなってくるため、半年ぐらい遅れて何らかの動きが出てくる。夏場以降に期待している。
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・実感として、良くなっているとは感じていない。
やや悪くなる		繊維工業（団体職員）	・季節要因により需要は多少増加すると思われるが、運送代や電気料金、原材料の綿糸価格などのコスト上昇が重なっている。需要動向をみても、値上げ交渉は難しい状況である。
		繊維工業（総務担当）	・中国工場での生産品に対して円安が重くのしかかっているが、当社の規模では値上げを求めることは不可能である。一方、国内生産も依然として採算が合わない状態である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・2、3か月先の受注が少なく、引き合いも減少している。
		輸送業（営業所長）	・3、4月の好調が継続するとは思えず、荷動きは鈍化する。
悪くなる		化学工業（企画担当）	・円安の影響を受けて輸入原料の価格が高騰するものの、商品価格への転嫁は容易でないため、利益が圧迫される。
雇用関連 (近畿)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・4月の中旬以降、円安効果が出てきていた家電メーカーやIT関係は、既に先取りで雇用していたため、動きは一段落している。そのほかの企業も変わらない。そのなかで公共事業関係、インフラ関係は忙しく、かなりの人を募集している。全体としては、需給環境は落ち着いてきている。
		人材派遣会社（支店長）	・事業拡大や新工場の新設などを進めている企業もあり、需要の拡大が見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（役員）	・景気回復への期待感が、徐々にではあるが実体経済に反映しつつあり、今後2～3か月はこのトレンドが継続する。
		人材派遣会社（営業担当）	・円安により輸出関連企業の業績が改善することは良い材料であるが、アベノミクスの第3の矢である、成長戦略策定に思い切りがないことが気になる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・今後2、3か月先になれば、参議院選挙に向け、上向き傾向になることが期待される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・実体経済への影響は分からないが、アベノミクス効果で株価が上がっていることによる心理的効果が大きい。関西の地場産業も、梅田地区や阿倍野地区での大型商業施設の開業による波及が大きい。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・ここ半年以上、安定的に求人がある。株高や円安傾向など、現在の経済情勢を加味すると、やや良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・経済が動き始めると、人も動き始めるのではないかという期待感は大きい。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が若干増加している。
		民間職業紹介機関（職員）	・全国、当地域共に建設労働者不足で、求人はもう頭打ちと何度もいわれているが、日雇い求人数はもう少し伸びていくと予想される。
		民間職業紹介機関（大学担当）	・先月から就職活動の開始時期が新聞をにぎわしているが、今年度は12月で、来年度は3月と、最良の決着となった。混乱なくスムーズに改善が進むことを期待している。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・大学への求人案件数が増えてきている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・急激な円安も落ち着いており、生活に関連する商品価格への影響も大きくないため、景気回復への期待感が大きく感じられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・学生たちの雰囲気を見ていても明るさを感じられる。
		変わらない	
求人情報誌製作会社（企画担当）	・東京の動きが大阪にまで広がり、大手メーカーの動きが消費者向けサービス業や一般消費者に届くまでには、更に時間がかかる。		
職業安定所（職員）	・4月の窓口は、年度始めの割に落ち着いた状況である。周辺で倒産や大規模な雇用調整などの発生もなく、雇用情勢が悪化する材料は特に見当たらない。ただし、新規求人数の推移は順調ではあるが、製造業の動きは鈍いままであり、雇用情勢が更に良くなっていく感触はない。今後、求職者の減少傾向が続き、事業所の人手不足感が強まることで、労働条件の向上や賃金アップにつながることを期待する。		
職業安定所（職員）	・政府やマスコミは円安や株高効果による景気回復を宣伝しているが、この結果が雇用面に効果があるかどうかは、もう少し様子を見る必要がある。		
やや悪くなる		人材派遣会社（支店長）	・大手各社の決算次第であるが、悪くなるのではないかとと思われる。
悪くなる		—	—

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (中国)	良くなる	乗用車販売店（店長）	・客の動きが激しく、なかでも今まであまり動きのなかった60歳以上の客の商談が増えており、成約に結び付く可能性がある。
		自動車備品販売店（経営者）	・株価が上がり、円安になるなどムードが先行しているが、いずれは実態も追い付くと思うし、信じたいのが本音である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（運営担当）	・海外の景気動向など不安要素はあるが、国内に限れば、今後しばらくは景況感の改善が続く。客単価の伸びも見られ、高単価商品の充実も必要である。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・来客数も増え、また客単価も上がっている。今後は更に良くなる。
		観光型ホテル（支配人）	・地元企業には、自動車メーカーを始め、製造業が多く、この円安は業績に大きく貢献している様子で、ホテル業界にとってもプラス材料である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや良くなる	商店街（理事）	・景気回復が東京集中から地方へ流れてくる。
		商店街（代表者）	・開業した大型店の影響が薄くなる。
		商店街（代表者）	・客の会話から楽しそうな話が聞こえてくる。以前とは比べられないほど快活な感じがする。
		商店街（代表者）	・出雲大社の遷宮や松江自動車道開通が後押しして、観光客数が増加する。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・高級な印材での注文が増えており、良いもの、必要なものには金を出す客が増えている。
		百貨店（営業担当）	・4月の売上は伸び悩んでいるが、世の中の雰囲気は上向いているように感じられるので、今後、この雰囲気が実売につながるように期待している。
		百貨店（営業担当）	・気温が上昇するに従い、徐々に購買意欲が戻りつつあり、現状より上向きに転化する。
		百貨店（売場担当）	・周南市の百貨店閉店により、山口地区にも客の流入がみられ、少しずつ底上げになってきている。今後も山口地区は好転していく。
		スーパー（店長）	・アベノミクスでデパート業界では売上と来客数が前年を上回っているようである。スーパーマーケット業界ではそういった状況はないが、2～3か月後は回復していると期待する。
		スーパー（店長）	・外部環境に大きな変化はないが、アベノミクス効果を期待する消費者の意識が消費を促す要因となり、景気回復に繋がる。
		スーパー（店長）	・食料品や日用雑貨品は堅調に販売点数が増加傾向にあり、今後もそのトレンドが続く。
		スーパー（総務担当）	・客数、単価ともに上昇傾向にあるので期待できる。
		スーパー（販売担当）	・販売量、客単価の上昇等、プラス要因は見られるものの、相変わらず低価格志向の客も多い。来客数については回復の兆しが見えず、依然としてマイナス要因を抱えている。総合的に判断して、景気は回復傾向にあるものの、そのスピードはかなり緩やかである。
		スーパー（販売担当）	・郊外のディスカウントスーパーに車で行っていた客が、ガソリン代が上がれば近くで買物をする可能性が出てくる。
		コンビニ（エリア担当）	・気温上昇とともに景気も上向きになると思われる。
		コンビニ（エリア担当）	・ディスカウントストアの開店予定があり、来客数と売上の増加が見込まれる。
		衣料品専門店（経営者）	・消費税が上がる予定なのが不安であるが、以前よりは客の行動が買物に向いている。
		家電量販店（販売担当）	・夏商戦に入る。
		家電量販店（企画担当）	・大企業のボーナス支給額が増えそうなので、良くなる。
		乗用車販売店（業務担当）	・1～3月の大増販期を終えてやや低調ではあるが、今後は新商品が出ることもあり、多少の回復が見込める。
		乗用車販売店（営業担当）	・富裕層が動き始めている。消費税増税まではこのまま上向きそうである。
		乗用車販売店（副店長）	・消費税増税や金利上昇が予想されるため、駆け込み需要で消費が加速する。
		乗用車販売店（営業担当）	・来店客は前年より少し増えているので、徐々に販売量も前年より増える。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・消費税増税に対して、駆け込み需要がある。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・客の購買意欲が出てきており、景気は良くなる。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	・出雲大社大遷宮に期待したい。山陰観光へのアベノミクス効果は半年後くらいになる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・円安や株価上昇が継続しており、ベースアップやボーナス増額により所得上昇を実感できれば、さらに消費意欲は高まるだろうが、必要なもの以外は買わないという客の意識は変わらない。
		一般レストラン（外食事業担当）	・焼肉を中心として、一昨年の食肉の風評被害が今年は払しょくされ、輸入肉の規制緩和もあって売上は伸びる。
	スナック（経営者）	・そろそろアベノミクス効果が出てこなければ、物価上昇だけで、景気が悪くなってしまう。アベノミクス効果に期待する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（スタッフ）	・単価の安い商品ではあるが、ここ最近よく売れている。全体的に近年になく売上が増加しているように感じる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・広島では大型イベントがあり、宿泊の予約が順調である。ゴールデンウィークも早くから問い合わせがあり、満室状態が続いている。
		都市型ホテル（総支配人）	・山陰地区については、各旅行会社の先行予約も5月を中心に大きく前年を上回っている。6月以降も出雲大社の大遷宮効果に期待する。
		タクシー運転手	・前年よりも売上は増えており、人の動きも出てきている。
		通信会社（総務担当）	・経済対策による意識変革や消費増が期待される。
		競艇場（職員）	・7月から舟券の電話投票キャンペーンがあるので、売上が伸びる。
		美容室（経営者）	・これから梅雨時期に入り、消費税増税による駆け込み需要等との兼ね合いもあり、今後の見通しはつかない。
		設計事務所（経営者）	・客の購入意欲が上向きなまま推移すれば良くなるように思えるが、業者間のばらつきは大きいようである。
		設計事務所（経営者）	・消費税が上がるまでに契約をする動きが出てきている。
		設計事務所（経営者）	・景気が今後も回復するという期待感が高く、増税前・金利上昇前に住宅を取得したいという客の意思が強い。また、若い夫妻の住宅取得を両親が応援しているケースも目立つ。
		住宅販売会社（営業担当）	・税制制度や景気回復感から、良くなると思われる。
		住宅販売会社（販売担当）	・消費税増税に伴う駆け込み需要で、客が積極的になると見込まれる。
	変わらない	商店街（代表者）	・新規出店の問い合わせもあるが、2～3か月先の景気には影響がない。
		商店街（代表者）	・今月同様に購買意欲は高いものと思われる。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・景気が良くなるといえる材料がなく、景気に変化はない。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・アベノミクスに期待するが、現状と変わらないと思われる。地方はまだまだ厳しく、消費者の購買意欲が上向いてくるとは思えない。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・アベノミクス効果が地方に来るのはまだまだ先である。
		百貨店（営業担当）	・売上が伸びる要因がない。
		百貨店（販売促進担当）	・夏商戦を迎えるが、販売商品の価格高騰、また土日には京阪神を主とした域外への消費流出も想定され、エリアの景気が良くなっていく要素は見つからない。
		百貨店（売場担当）	・円安による商品の値上げが一部で始まっており、は虫類製のハンドバッグや財布などは、消費者感覚では高いと感じる値段になると予想される。
百貨店（購買担当）	・気温が上がり、夏物に切り替わるので衣料品関係の売上が伸びる。		
百貨店（電算担当）	・売上は前年比マイナス1.5%で、回復の兆しはない。しかし、固定客をしっかりと持っている場所や外商と組んで催事を行っているところは、良い結果が出ている。大勢の観光客が動く空港や観光地にある売店は好調である。婦人衣料品の低調が目立つ。		
百貨店（販売担当）	・高額品の動きが良くなってはいるが、その動向はまだ一部の客に限られた状況である。		
百貨店（営業推進担当）	・夏の選挙までは現状が続くような予感がする。		
スーパー（店長）	・景気を判断する材料がない。		
スーパー（店長）	・投資家などは景気が良いが、多くの労働者にとっては、賃金増額や会社の福利厚生の実施などはない。		
スーパー（業務開発担当）	・節約一辺倒が続く。商品を値上げしても、そのまま売上に反映するのではなく、販売点数が減少する。		
スーパー（財務担当）	・地元中小企業の業績回復には時間がかかる。所得環境が改善されないため、節約による客数減及び単価の下落が続く。		
スーパー（管理担当）	・客数と客単価がなかなか伸びてこない状況は変わらず、今後も伸びる要素がなく、現状維持で推移する。		
スーパー（営業システム担当）	・店舗近くに激安ディスカウントストアがオープンした。対策を講じても売上は上がらないが、著しく下がることもない。やはりスーパーでしか扱えない商品があることで現状維持ができていないのではないかと。もっと、品ぞろえやイベントで差をつけていかなければならない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・前年並みの数字で推移する。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・消費税増税や所得税への復興税加算など、先行き不安材料が払しょくされない。
		衣料品専門店（経営者）	・円安がまだ続きそうである。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・景気は良くなるという風潮があるが、見極めが難しい。実際に給与が増えないと来客数も増加しない。
		家電量販店（店長）	・販売量が増加する目玉商品はない。
		家電量販店（店長）	・電気料金の値上げに反応し、消費者の節電指向から省エネタイプエアコン、冷蔵庫の販売が伸びる。その反面、テレビ、パソコンの苦戦は続きそうなので、総体的には大きな変化は見られない。
		乗用車販売店（統括）	・前年は9月までのエコカー補助金効果で販売量が伸びていたが、今年はその反動で厳しさが予測される。
		乗用車販売店（総務担当）	・弊社の販売環境はガソリン値上げの影響を受けるのではないかと感じている。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・ひろしま菓子博が終了してもJRのキャンペーンが期待できる。
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	・ウィンドウショッピングの客が多く、今後もこの状況は続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約状況は前年と同じくらいである。
		一般レストラン（経営者）	・良くなる業種と悪くなる業種があり、景気は良くなるとも悪くなるとも言えない。
		一般レストラン（経営者）	・緩やかな回復基調にはあるものの、実質給与は上がらず、ムード先行になっているように感じる。夏のボーナスシーズンまでは、このまま緩やかな上昇基調を保つ。
		一般レストラン（エリア担当）	・ひろしま菓子博が終わると、その後は特に期待するイベントはないので、景気は変わらない。
		都市型ホテル（企画担当）	・個人、団体とも先行受注の状況は良くない。直近で伸びる可能性はあるが楽観できない。個人消費には期待するが、多少の伸びでは全体への影響は少ない。大型物件受注や、観光客増加となる施策や環境要因が必要である。
		都市型ホテル（企画担当）	・ここ数か月、景気の回復がみられたが、予約状況から見るとこれ以上景気が上昇するとは思えない。
		旅行代理店（経営者）	・好材料となるものがない。円安で、海外旅行中の買物等が結果的に割高となり気の毒である。今後の海外旅行にも響いてくる。
		タクシー運転手	・当地の景気回復は、都会の数か月後になるので期待しているが、あまり変化は望めない。
		タクシー運転手	・景気の動きはわからない。
		タクシー運転手	・景気の良い話は聞かれない。
		通信会社（社員）	・新規加入などの新規の問い合わせが増えない。
		通信会社（企画担当）	・商談の際、客から新金融政策や株価が話題に出ることがあり、好循環になっていると感じられるが、まだ売上には結びついていない。
		通信会社（通信事業担当）	・新規契約や見込み客が増加する傾向は見られず、低位での横ばいが続く。
		通信会社（工事担当）	・景気が良くなる要因がない。
		通信会社（営業担当）	・本格的なスマートテレビの登場に代表されるインターネット・コンテンツ市場を中心に、メディアや視聴デバイスの多様化・高機能化が進展し、競争激化は避けられない。
		通信会社（広報担当）	・欲しいものの価格が下がるような話も聞かないし、賃金上がるなどの情報もない。また、ゴールデンウィークに遠出するような話も聞かない。
		テーマパーク（管理担当）	・円安、株価上昇で、グローバルな観点から見ると良い事であるが、消費者にとっては物価が上がり消費に影響が出るのではないと思う。その影響で入館者数が伸びないのではないと思う。
		テーマパーク（業務担当）	・高速道路の開通もあり、来園者数増の期待もあるが、行楽支出の節約が定着しているため、その影響も懸念される。
		テーマパーク（営業担当）	・ゴールデンウィークの行楽シーズンを終えれば、高速道路の開通効果も一段落する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（営業担当）	・予約速報としては、例年どおりの推移だが、客層が変わりつつある。企業、旅行会社からの予約が増えている。
		その他レジャー施設（アミューズメント）	・現在の状況を大きく変えるほどの新ゲームや新キャラクター景品などの入荷は夏休み前まであまりない。また自店の動向に大きく影響している映画館でも、前年のような話題作公開が多くないため、しばらく前年比で厳しい状況が続く。
		美容室（経営者）	・景気が良くなっても、この業界の景気はすぐに良くなることはない。
		美容室（経営者）	・景気に変化する要因はない。
		その他サービス〔介護サービス〕（介護サービス担当）	・よほど大きなきっかけがない限り、今後2～3か月で身のまわりの景気が変わるとは考えられない。
		設計事務所（経営者）	・株価等によるムードをマスコミ等であおっているが、地方の実体経済は厳しい状況が続いている。
		住宅販売会社（従業員）	・原価上昇の傾向が見受けられ、販売価格等への影響が懸念される。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・客の感覚はデフレ環境下のままであり、消費税増税を踏まえた購買行動は変わらない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・なかなか消費するムードにならず、先行きが不安である。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	・観光客が増加しているが、定住者が増えているわけではないので、一時的な来客数の増加に過ぎない。
		スーパー（店長）	・円安で輸入原料の食品の値上げが始まり、買い控えが予想される。また、特売の価格競争が激化し、価格対応にも限界がある。
		家電量販店（店長）	・来客数が前年より落ち込んでおり、この先も期待できない。
		自動車備品販売店（経営者）	・市内も少子高齢化が進み始め、客数減で個人消費が減りつつある。国が人口増加対策をとらない限り、国内需要は減少の一途である。また、人口減少により自動的にオーバーストア一化にも拍車がかかり、過当競争が発生する恐れがある。
		住関連専門店（営業担当）	・平日の来客数が減少する。
悪くなる	○	○	
企業動向関連 (中国)	良くなる	鉄鋼業（総務担当）	・超円高が是正され、アベノミクスがさらに奏功する。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・今後も新車種が立ち上がる予定で、忙しくなる。
		建設業（総務担当）	・技術者は手持ち工事で目いっぱい状況である。ただし、この状況が来年以降も続くかという面では不安がある。
	やや良くなる	木材木製品製造業（経理担当）	・諸優遇税制や低金利等に加え、景気浮揚のムードがある。
		化学工業（経営者）	・自動車向けの用途は回復基調にあり、全体としての受注は増加する見込みであるが、半導体向けは受注が減少し、他用途向けは現状維持程度に止まっている。
		化学工業（総務担当）	・国内産業の景気回復に伴う素材の需要増に期待する。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・エネルギーコスト上昇圧力の高まりと金属相場下落傾向で厳しい状況であるが、当面の受注量は伸びている。一部製品では円安を追い風に好調が継続する見込みである。
		金属製品製造業（総務担当）	・得意先の役員が来社し、7月以降は受注量が増える見込みであり、納期面での協力をお願いしたいとの話があった。年初から春先以降に増えるとの話はあったものの、実際に説明を受けたことにより、得意先・当社双方の受注状況を見ながら人員を絞ってきた工場体制の見直しを検討していく。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・材料価格が値上げ傾向ではあるが、それ以上に受注量が上回り、値上げ分を吸収できるような期待感がある。
		建設業（総務担当）	・まだアベノミクスに対する期待感が持続する。
		輸送業（業務担当）	・よほどのことがない限り、期待もこめて、やや良くなる。
		輸送業（支店長）	・通信販売市場が伸びて、取引客数も増加する。
		通信業（営業企画担当）	・客からの提案依頼は、いずれも年度内予算となっており、7～8月の発注が前提となっているため、早期の売上が期待できる。
		通信業（営業担当）	・ソーホー市場の回復にはもう少し時間がかかるが、やや販売実績にも伸びが見える。
金融業（自動車担当）	・今の為替水準が続けば利益率は更に改善し、増収増益が期待できる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	金融業（営業担当）	・多くの経営者が少しずつではあるが景気回復に期待を持ち始めている。また、小売・サービス業でも一部取引先は前年割れから脱却している状況も出ている。今の円安・株高が続けば、企業経営者の景気回復に対する自信も一層強くなるし、設備投資等への金の流れも活発化するはずである。
		繊維工業（統括担当）	・株高で景気が良くなっているが、円安の動き、政治の安定なども関係するので、景気の変化は分からない。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・5月は生産前倒しの影響もあって生産量が低下するが、二次加工品の引き合いが活発で、この部門は多忙が継続する見込みである。
		鉄鋼業（総務担当）	・現状に比べ、確実に拡大し続ける分野があまりないと思われる。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きは変わらない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・円安に振れていることが逆に部材の価格上昇や、中国での生産においてデメリットとなる。しかし、海外メーカーに注力していた取引先の目が国内メーカーに向く可能性もある。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・昨年発売された新製品の受注量の高止まりはしばらく継続すると予測され、全体を支える。
		建設業（経営者）	・アベノミクスによる建設投資増加の恩恵は当地にまだ来ない。橋の補修などが多少あるが、当地の建設業者は携わっていない。親会社の状況を見てもすぐに景気は良くならない。
		不動産業（総務担当）	・賃貸物件の需要時期を過ぎたため、この先2～3か月後はほぼ横ばいと予想する。
		広告代理店（営業担当）	・現状維持で推移する。販売促進を様々な方法で展開するが、特別な大口予定があるわけではなく、この状況が続くのではないかと受注先は考えている。
		会計事務所（職員）	・大企業はある程度好業績を出しているが、その果実は中小零細企業にはまだ行き渡っていない。実際の数字も、前年をわずかに上回る程度である。景気の好況感がこのまま続くとしても、その影響が末端にまで現れてくるのは数か月はかかる。
やや悪くなる		農林水産業（従業者）	・全魚種で水揚げ数量、水揚げ金額ともに減少しており、当漁港は深刻な状況が続く。
		食料品製造業（総務担当）	・スーパーや量販店に置いてもらわないと話にならないので、受注予測は難しい。
		食料品製造業（総務担当）	・今後、原材料価格の高騰、エネルギー関係費用の値上げがあるなかで、販売価格の値上げができない状態が続く。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・造船不況により、2013～2014年は造船・舶用機器業界全体の仕事量が大幅に落ち込む。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・当地域の産業に輸出関連企業は少なく、国内販売がほとんどであるため、状況はやや悪い。
		輸送業（総務担当）	・客からの受注量が増える兆しがない。
悪くなる	—	—	—
雇用関連 (中国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（支社長）	・消費税増税への懸念による一時的な特需への対応、公共関連投資の増加、自動車を中心とした製造業の国内生産の堅調さ等の複合的要因により、労働者の需要が増える。いずれも、中長期にわたる継続的な成長ではなく、一時的な現象と捉えているため、派遣を中心とした期間を区切った労働者の需要が伸長する。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・今後、大手企業の採用活動が一段落した後、地場企業の採用活動が積極的に動く予兆がある。夏場くらいまでは続くのではないかと感じる。
		民間職業紹介機関（職員）	・数か月前より中途採用による人材補充が活発化しており、雇用増加として少しずつ現れてくる。また、地元でひろしま菓子博が催されており、地域経済への寄与が期待される。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・政策にあわせて企業が拡大路線をとる動きが始まると予想される。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・アベノミクスの影響により株価等上向きな状況はあるが、雇用状況が上向くのはまだ先という企業が多い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（営業担当）	・当地域で波及効果の高い自動車産業での求人増は明るい兆しであるものの、数か月先にも求人がおう盛かどうかはまだ不透明である。大規模小売店舗が来年開業するが、販売職の求人も、どれだけ人材派遣会社に依頼が来るかもわからない。
		人材派遣会社（営業担当）	・景気回復の実感がない。
		求人情報誌製作会社（採用支援担当）	・新卒採用のスタート時期がずれる可能性が取りざたされており、影響を受ける可能性が高い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地元中堅の運輸会社などでは、アベノミクス効果は全く感じられないと嘆く声が多い。景気の上向きにはまだ時間がかかる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・円安、株高で自動車や小売は好調であるが、まだ地方の中小企業は取り残されている。中小に波及するにはもう少し時間がかかる。
		職業安定所（産業雇用情報担当）	・急激な円安により燃料費が高騰し、製造業の収益を圧迫している。
		職業安定所（雇用開発担当）	・正社員求人が増加して欲しい期待はあるものの、現実的に採用活動が活発になる要素は見当たらない。
		学校〔短期大学〕（学生支援担当）	・現実の数字は変わっていない。
		その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕（職員）	・食品製造業や衣服製造業が好調で、大幅求人増となっている。一方、電機部品製造業は大手電機メーカーのリストラ計画の進捗により大量解雇の発生をみるなど、製造品目による格差が広がっており、先行き不透明となっている。
	やや悪くなる	職業安定所（産業雇用情報担当）	・管内大手企業で雇用調整の動きがあり、景気が良くなるとは思えない。
	悪くなる	—	—

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (四国)	良くなる	一般小売店〔乾物〕（店員）	・アベノミクス効果に期待している。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・大都市経済の活況が地方経済にメンタル的な影響を及ぼしてくれれば期待している。
		商店街（事務局長）	・大手企業の好成績や株高の恩恵を受けている消費者はまだ一部であるが、2、3か月後には経済効果の裾野が更に広がっていると考えられる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・個人経営の小規模店の開店が多い。若い世代向けの新しい店舗が増えて、人の流れができることを期待している。
		百貨店（総務担当）	・宝飾品や美術品、夏物婦人衣料の売上推移より今後も前年比プラスが見込まれる。
		百貨店（営業担当）	・高額品が少しずつ動いており、やや良くなると予想する。
		百貨店（販売促進担当）	・消費税増税前の駆け込み需要により高額商品の動きが良くなってくる。また、ボーナス時期に入ると、購入金額・購入数の増加が見込まれる。
		百貨店（営業推進）	・アベノミクス等の効果で景気は上昇してくるが、食品品等の日用品の売上増はないと思う。ただ、宝石類等の動きが良くなってきている。
		コンビニ（店長）	・来客数が減少しているので売上は増えていないが、客単価が上昇しており、好景気につながって行くと感じている。
		コンビニ（商品担当）	・高単価商品の問い合わせが多く、実際に売れ始めた。単価の面で期待できる。
		衣料品専門店（経営者）	・アベノミクス効果はまだ見えない。都会の百貨店では宝石等の高額商品が売れているという話を聞き、もうそろそろ地方でも伸びるのではないかと期待をしている。
		家電量販店（店員）	・販売量の増加に加えて、来客数も増加していると感じられる。今後の購入予定等を話される事が多くなってきた。
		住関連専門店（経営者）	・都会には円安と株高の恩恵があると思うが、地方は影響が少ないと思う。ムード的には今よりやや良くなると思う。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・夏に向け、飲み物の売行きが伸び、少しずつ売上は増加している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型旅館（経営者）	・アベノミクス効果で海外旅行を控えて国内旅行をしようという動きが出ている。旅行を控えていた人が、もう一度日本の良さを見直して旅行をしたり、家族のお祝い旅行が割合増えてきている。国民の旅行やレジャー消費に対する考え方が少し変わってきていると感じる。
		通信会社（企画）	・現状のまま続けば、少し良くなると思われる。
		通信会社（支店長）	・夏のボーナス期や新商品発売等が控えているため、やや良くなると予想する。
		観光名所（職員）	・円安の影響で、海外旅行から国内旅行への切替えが期待できる。
		設計事務所（所長）	・中小企業が、少しずつであるが設備投資を始めている。
	変わらない	商店街（代表者）	・新政権になって、景気は上向いているように思うが、実際お店に聞いてみるとそれほどでもない。消費者マインド、経営者マインドもかなり高止まり感がある。新規出店もあって、空き店舗率が低下している。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・中央では景気回復の兆しが見えてきているように聞くが、当市では実感が全然ない。ただ、公共事業が少し増えてきていると聞くので、これで底打つかと少し期待まじりに思う。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・マスコミではアベノミクス効果で景気回復と報じているが、地方では全く感じられない。家計に余裕のない生活が続くと思われる。
		一般小売店〔菓子〕（総務担当）	・平日の消費は、引き続き厳しい。
		スーパー（店長）	・景気回復を実感できるのはまだ先だろうと思う。
		スーパー（店長）	・夏商戦において、今以上に景気を持ち上げる要素が見当たらない。
		スーパー（企画担当）	・まだ収入増には向かっていないので、食費を増やすことは望めない。
		スーパー（企画担当）	・円安・株高が賃金へ波及するには、まだ時間が必要だと考える。将来への不安感は強く、新しい成長を感じるまでは、消費動向が緩むことはない。
		コンビニ（総務）	・地方では、回復基調の手ごたえがなく景気が良くなるとはいえない。
		衣料品専門店（総務担当）	・顧客心理は改善してきているが、現状ではメインの客層の収入は増えておらず、良くなるには時間がかかる。
		乗用車販売店（従業員）	・販売台数は前年並み。しばらくは、良くなる要素も悪くなる要素も見当たらない。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の発売も当分の間なく、良いニュースがない。消費税増税による駆け込み需要までまだ時間があることもあり、来場者数が減少気味である。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格が高止まっているので、ハイブリッド車以外の車も売れてはいるが、新車販売総台数は前年の8～9割程度である。
		乗用車販売店（営業担当）	・来客数が減少している中、動向を見る限り良くなる要素は全く見られない。
		乗用車販売店（役員）	・新車登録は前年並みを維持しているが、5～6月は前年を割る状況になるのではないかと危惧をしている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・買物の姿勢に慎重さが目立つようになった。
		スナック（経営者）	・例年低迷時期であり、回復に期待しているが、変わらないと思う。
		都市型ホテル（経営者）	・予約状況はあまり変わっていないので、景気はそれほど良くなっていないと思う。
		旅行代理店（支店長）	・景気回復への期待感で旅行需要の拡大を大いに期待しているが、今後の為替の動き（円安傾向）や新型インフルエンザなどの不安材料があり先が見えない。
		タクシー運転手	・県外客の2割は徐々に景気が良くなったと聞く。しかし、県内では、重油価格が上昇したことから農業・水産関係者が街に来る頻度が少なくなっている。建設業界も談合問題の影響で地元企業が潤っていないため変わらないと予想する。
	ゴルフ場（従業員）	・少しずつ景気が良くなっていく雰囲気ではあるが、状況としてはまだ変化がない。	
競艇場（職員）	・今後の売上増加については、新しい客を獲得できるかにかかっている。有力選手の斡旋、地元選手の活躍、大きなレースの開催、客が来やすい環境整備等に努める。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	住宅販売会社（従業員）	・具体的な商談件数は増えているが、予算を抑えている客が多い。
		スーパー（統括担当）	・景気が良くなっているようにみえるが、実体的なことが分からず不安になってくる。
		衣料品専門店（経営者）	・賃金上昇もなく、電気料金値上げ、原油高騰など円安のデメリットしかない。
		タクシー運転手	・街中のタクシーの乗車率が、この先良くなると思えない。夏場は、お遍路の仕事もなくなって、売上が落ちる。
		美容室（経営者）	・物価上昇により節約傾向が見られる。
	悪くなる	○	○
企業 動向 関連 (四国)	良くなる	食料品製造業（商品統括）	・自民党政権の対外的な安定感（特に中国・韓国に対する毅然とした態度）や経済政策への安心感が形成されつつある。
		繊維工業（経営者）	・夏に向かって、タオルの消費は増加する。小売店も積極的な売場の拡充を図っており、特に手ぬぐいタオルを販売する店では、ゆるキャラブームが続いている。その他の商品も好調に推移すると聞いている。
		木材木製品製造業（経営者）	・住宅着工件数は全国で93万戸から94万戸、年間では、前年比5～7%増と予想されている。本当に景気が良くなってくるのは7月ごろだと思ふ。
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・太陽光発電は非常に好調であったが、買取価格が10%値下げになった影響で、受注がやや減少した。景気は良いが、採算面が少し落ちたという感じがしている。
		通信業（部長）	・景気を左右する大きな不安要素が見受けられない。
		金融業（融資担当）	・高額商品の売上は増加しているが、円安で業績が悪化する取引先もあり、やや改善する程度だと予想している。
		不動産業（経営者）	・今年に入り、客の動き、住宅の契約等が良くなっている。ただ、懸念材料は、建築資材価格がやや上昇気味で、これからも上昇することが予測される。
		公認会計士	・4月以降、飲食店への客の入りが増えているようで、前年比15%増という飲食店もある。アベノミクス効果かもしれないが、景気はやや上向いているのではないかと。
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・値上げを打診しているが、今後の交渉にかかっている。値上げが通れば、採算に合うところまで持って行けると思うが、かなり難しいと思う。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・円安、株高による高揚感が出てきているが、期待先行の動きであり、急激な反動が出てきそうである。
建設業（経営者）		・上半期の事業規模次第であるが、例年、この時期の事業増は望めない。	
建設業（経営者）		・これから2、3か月では、ほとんど変わらないと思う。	
建設業（総務担当）		・良くなるとは思えない。景気回復の期待感はあるが、受注価格に反映するには時間がかかる。	
輸送業（経営者）		・なかなか厳しいが、明るい兆しも感じている。	
広告代理店（経営者）		・地元資本の得意先は規模が縮小しており、広告費予算は徐々に削減されている状況に変わりはないが、一部の得意先では、円安・株高による期待感から積極的に展開する計画もあり多少広告費増加が予想される。	
やや悪くなる	電気機械器具製造業（経理担当）	・米国市場の動向により、価格引下げが予想される。市場動向の見極めと事業戦略の見直しが必要になっており、この先、数か月は販売が落ち込むと見込んでいる。	
	輸送業（支店長）	・公共事業の減少、荷主による生産調整が行われている。また、燃料単価が昨年より若干上昇していることからコストアップが予想される。	
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (四国)	良くなる	—	—
		人材派遣会社（営業）	・夏季賞与の影響で多少は景気が回復するのではと考える。消費税引上げに向けて、今年度の消費動向は例年とは違った現象が予想され、求人状況も多少増えてくることが期待される。
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・例年、ゴールデンウィーク明けに求人数が増えるため。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・消費税増税前の駆け込み需要が出てくる。しかし、何もかもが値上がりしてきているので局地的なものにとどまるのではないかと。
		職業安定所（職員）	・依然として厳しさは残るものの、2か月連続で管内新規求人が増加しており、このところ改善の動きがみられる。
変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・株高や円安は輸出産業の好機となる。しかし、当地域への波及には相応の時間を要するものと考えられる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌（営業）	・最近では地元中小企業でも、中途求人数が増えるなど、景気が上向いてきた感はあるが、その後、地元企業に大きなプラスとなるトピックは少なく、数か月先は現状と変わらない。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は好調な数字で推移しているものの、求人条件では変化がない。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は、先月より0.03ポイント低下したが、前年同月比では0.15ポイント上昇している。
		民間職業紹介機関（所長）	・業種間の格差はあるものの、特に調子が上向いている業種はあまり無い。ただし、建設業については、戸建の数が前年度より増えている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・6月に大きな説明会もあり、夏までは活発な採用活動が展開されると考えられる。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・土木関係では景気が上向いている話を聞くが、製造業の求人が少なくなっており、不安を感じる。
	悪くなる	—	—

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (九州)	良くなる	設計事務所（所長）	・延岡市の市庁舎、並びに駅前の中心市街地活性化事業など公共工事が目白押しである。それにつれて民間の方の住宅や店舗の相談が増えているので、景気としては良くなる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・株価も上がり、円安が進み、アベノミクスが進んでいるという話から景気が良くなるのではないかと期待感が、客の行動に現れている。客同士の会話の中にもそういうことが聞かれる。今良くなっているということはあまりないが、少しは良くなるだろうという期待感から、購買行動に移っていく。
		百貨店（売場主任）	・円安、株高が安定しているので4月のような落ち込みはない。店頭客の様子をみても、衣替え等に前向きな購買意欲があるようだ。またクールビズに欠かせないワイシャツの買換え需要の拡大も、昨年と比較すると見込める。
		百貨店（営業担当）	・やはり賃金に反映されるまではもう少し時間が掛かる。ボーナスが支給された後に期待するが、今までの逆資産効果と言われている部分がかかなり改善されてきているので、その辺りが少し緩和されてくるとみる。現在、高額品が非常に良いが、高額品の好調さにボリュームが付いてきていないので、売上が厳しい。中間層の心理的などが改善されると少し良くなってくる。
		百貨店（営業統括）	・この1年に関しては、アベノミクス効果と消費税増税前の駆け込み需要が出るものと考えられる。
		百貨店（営業政策担当）	・3～4月にかけて、高額輸入品の価格改定前駆け込み需要の効果が大きかったが、その反動減を加味してもプラスに推移している。特に4月からは経済状況の好転に対する消費者の期待が実勢を上回っている。今後、消費税前までとしても、緩やかに景気が良くなっていく。
		スーパー（業務担当）	・現在、不調が続いている初夏の商材は、人気商品に関係ないため、天候不順による買い控え感が強く影響しているような印象を受ける。気候の安定化とともに利幅の大きい衣料品の動向が良くなれば、営業効率の上昇も見込まれる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・青果の品ぞろえにもよるが、暖かくなるにつれ客数が増えていく。昨年よりも少しは良くて、10%は伸びる。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・円安で国内旅行が増加するため、土産品の動きも良くなる。また賃金等の増加により、購入単価の増加、及び購入点数の増加が期待されるので、今後結果が出ることを期待する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・客数は増加傾向にあることと、景気が上向きになっている状況で良くなる傾向にある。
		高級レストラン（従業員）	・2、3か月先になったら客数の動きが慌ただしくなる。
		高級レストラン（支配人）	・来客数は変わらないが、数か月前より単価が上がっている。
	都市型ホテル（副支配人）	・福岡は5～9月位までMICE関連の団体予約がベースに入っているため、今後も十分稼働率が上がると考えられる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（企画）	・引き続き韓国・中国との領土問題により、該当方面への海外旅行者数は伸び悩むと考えるが、これからシーズンを迎えるヨーロッパ方面への旅行と、ハネムーンについては、さしたる問題も見当たらないことから堅調に推移するものとする。懸念点は、原油価格の高騰による海外旅行控えである。
		タクシー運転手	・株高と円安によっていくらか景気が持ち直しているという動きである。それが長崎にくるのを期待している。観光客の動きがかなり良くなったのでそれが継続していき、今度は夜の歓楽街の方もいくらか良くなる。
		通信会社（販売部）	・新商品を発表する可能性が高く、それに伴う購買意欲の向上が見込める。
		設計事務所（代表）	・消費税増税前の駆け込みがある。
		住宅販売会社（従業員）	・アベノミクスによる官製パブルが末端まで届いていないのと、輸出産業は良いが、国内は原油や輸入物が高くなるデフレ抑制のためのインフレ的な物価上昇に、生活水準が追いついていないという現実があり、その辺を慎重に見極めていかなければいけないので、景気は変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅展示場や各種イベントへの来客数の増加から住宅購入潜在客の足が動き出した感があるので、2、3か月後には受注数の増加につながってくる。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街の主人達での話でも、売上が伸びてきたという話は聞かない。今後一年間で、少しでも景気の回復を期待するだけである。
		商店街（代表者）	・アベノミクスの効用で景気が回復していると言われるが、地方ではなかなかその実感がかめない。
		商店街（代表者）	・中央都市、大都会の状況が良くなりつつ地方も若者の雇用が安定するようになればよいが、まだ唐津ではこの安定感を感じるものが少ない。しかし、唐津は生活居住区として食の部分では少し活気が出てきている。
		商店街（代表者）	・今月と同様に、変わらずに前年比を上回る。
		商店街（代表者）	・景気回復が言われている企業も一部だけで、個人所得が上がってこないのが、消費までまだまだ時間が掛かる。
		商店街（代表者）	・一部では景気回復が顕著に現れているみたいだが、高齢者の多い商店街では、これからの円安による公共料金等の値上げが購買意欲にブレーキを掛けている。アベノミクスの恩恵も一部の現役サラリーマン世代にはあるようだが、年金生活世代に効果はなく、現時点ではむしろ生活を圧迫している。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・夏はウナギで利益を出していたのが、去年から高くて利益が出ない。今年も同じような状況なので望み薄である。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・株価等は上昇しているが、それが生鮮食品等に直ぐに影響はでない。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・これから気温上昇とともに売上は減少する。円安で仕入れも上がり、消費税も上がるのでは景気は上向きになってきているが期待はできない。
		百貨店（営業担当）	・新規顧客の獲得と固定化を目指し、プライダルクラブリニューアル同時開催のブラダルフエアも消費増税意識があり、早めの入会、内覧が多く、客の関心が高く入会も好調である。自家需要商品の好調維持と消費税を見据えた購入検討、次回クレジット催事開催予定の問い合わせ等で好調が持続する。
		百貨店（販売促進担当）	・世間では景気が良くなってきたと言われているが、まだまだ自店では高額品等の動きが鈍い。衣料品も苦戦状態が続いているが今後、季節の変わり目でもあるので、衣料品雑貨が動くことを期待している。
		百貨店（店舗事業計画部）	・比較的堅調だった高級ブランドも、価格改定前の駆け込み要素や外国人観光客買上が多く、富裕層の資産効果とは異なる。当店の主要客層は、電気料金値上げ・節電・消費増税を間近に控えており、ますます低価格志向と節約が進むと想定しているなか、状況の好転はまだ期待できる段階にない。
		百貨店（売場担当）	・3か月以内の動向は、天候的要因にかなり左右されるという懸念材料がある。他に要因的なものは見つからない。ただ本店だけで言うと、5月に沖縄展催事のプラスがあるので、5月についてはおそらく前年をクリアする。6月は雨次第、7月についても同様である。マイナス要因が少ないので変わらないとした。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（業務担当）	・今の客は、本当に必要なタイミングでしかものを買わない。前もっての購入は少ない。客の購買意欲が高まっているのは、都心の一部という感がある。地方都市では、まだアベノミクスの効果を実感する客は少ない。
		スーパー（店長）	・今、言われている全体的な景況感が販売量に関して、実感できるところまではきていない。今後の実需に期待する。
		スーパー（店長）	・食品や実用品の客数は前年をクリアしたが、衣料品は前年比95%前後で推移している。
		スーパー（店長）	・競合店が昨年のオープンから、来月でちょうど1年となるため、6月からは前年並みの数字で推移する。競合店のコンビニエンスストアの出店で、多少なりとも売上が落ちてきているのが現状で、特に夜間の売上がディスカウント化や夜間に強い店ができて、夜間の構成比が8掛けでここ1年続いている。こういう状態があと1か月は続くと懸念する。生鮮は特に青果の相場安で苦戦中で、今後もそれが見込まれる。
		スーパー（店長）	・首都圏や大手百貨店にあるような景気回復の兆しが、小売にも好影響を与えているような報道もあるが、地方の量販店においては、逆にオーバーストアによるデフレ基調の図式はまだまだ変わっていない状況にある。
		スーパー（総務担当）	・夏場に向けてのヒット商品も見当たらず、顧客の価格への意識もシビアで競合との低価格競争も継続する。
		スーパー（総務担当）	・生活必需品の動きはあまり変化がないが、価格に重点を置いた商品には安定感がある。一方、低単価でない品質に重点を置いた商品の動きも出始めており、客数確保には品質、機能が充実した商品のラインナップが今後の鍵となる。
		スーパー（経理担当）	・好況感の報道が多いが、実際の食品関連の需要が増えるとは思えず、円安による原材料の値上げなど不安材料もある。
		コンビニ（経営者）	・客の購買行動をみると今のところ変化はない。その状況に変化が出る可能性も見受けられない。
		コンビニ（エリア担当）	・一般庶民の給与がアップし、景気が少しでもアップする傾向がみられたらよいが、今年中はやはり厳しい状況が続くと考える。
		コンビニ（販売促進担当）	・3月は極端に良かった。4月はある程度購買力があるにしても、4月以降はほぼ市場としては横ばいになるのではないかという見方である。量販店が数量的にかなり落ち込み、逆にその分コンビニエンスストアが個数的にも売上は上昇気流である。量販店は食パンの伸びはあるものの、全体的に言えばやはり厳しいものがある。
		衣料品専門店（店長）	・アベノミクス効果で株は上昇しているが、今一つ客の購買意欲向上へはつながっていない。
		衣料品専門店（店員）	・消費税増税や光熱費などの値上げの話題が多く聞かれる。景気が良くなっているとの話は聞くが、フリー客が増えていないので、景気が良くなりそうな気配を実感しない。
		衣料品専門店（総務担当）	・アベノミクスの影響で資産効果もあり、希望的観測としては良くなると答えない。確かに資産効果により企業収益は向上すると思うが、現実には店頭での動き、その他をみると、それが働く人たちに実際どれ位還元されるのか、まだその見極めがつかない。
		衣料品専門店（チーフ）	・テナントでリニューアルをした分、6か月間売上は好調に伸びてきている。今後、1年を経過するとともに売上は徐々に落ちついてくる。
		衣料品専門店（取締役）	・アベノミクスの良い面の報道が目立っているため、株価が上がったことで儲かった方、もしくは大企業に勤める方、内部留保金がある方で収入が増えた方がいるが、3か月先の7月ごろボーナス等の実態も明らかになり、経済が上向きかどうかという現実がみえてくる。個人としては全く分からない状況である。
		家電量販店（店員）	・アベノミクス効果で株価が上がっているようだが、ここ地方大分ではまだ実感できない。具体的な売上等の数字が思ったように上がっていないのが現状である。この先も上がってほしいが、何かきっかけが見つからない。
		家電量販店（店員）	・家電では、まずは核になる商品の成績が全く悪いというのが一番のポイントである。テレビ、冷蔵庫、エアコンにしても今までずっと悪いなか、ぐっと持ち上がるような景気はしばらくこないと判断せざるを得ない。
		家電量販店（総務担当）	・従来の販促ではほとんど効果がなく、大きさに言うと「八方塞がり」状態である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（広報・IR担当）	・直近で景気が良くなる材料が見当たらない。徐々に回復していくと思われるが、現状不確実である。
		乗用車販売店（従業員）	・円安で海外輸出は良いが、国内はガソリン代が上がり良くなっているという話は聞かない。
		乗用車販売店（総務担当）	・販売台数は燃費の良いエコカーがけん引し、計画通り推移する。
		住関連専門店（店長）	・輸入品の価格高騰が更に進む。実際に紙製品は6月あたりから値上げ予定になっており、家計に及ぼす影響が心配される。アベノミクス効果で景気の回復が期待されているが、景気の回復を感じるにはまだ時間が掛かる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・5月に入るとゴールデンウィークの効果もあり、客の来店頻度も若干増える。また帰省客も一元ではあるが、客が増える傾向にある。これは毎年のものである。売上の的には昨年と同じ、もしくは若干良い方向に向かうと予測される。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・顧客の様子を聞くと、定期昇給はあったがこれまでよりも増加したとの話も聞かないし、夏季賞与についても期待できそうだと話も出てこない。これからの消費について、昨年より出費するような心配があまりない。
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	・景気は良くなる方向にあると言われるが、当業界の実績で伸びているところは限られている。長期売上下落の傾向は変わらない。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・女性雑誌の売上が少し上向いているものの、本格回復にはまだ程遠い。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・景気回復の実感が現場にない。ゴールデンウィークの動向をみれば、ある程度の予測は可能かもしれない。
		高級レストラン（専務）	・十数年景気が良くならなかったもので、今回のように急に良くなっているような気がしても、今後続くのかどうか分からない。今は少し良いがゴールデンウィークが明けてからまた落ちそうな気もして、6～8月はかなり心配である。
		居酒屋（経営者）	・周りの同業者の声を聞いても厳しい状況が続いているようだ。簡単には良い方向に向かわない。
		観光ホテル（総務）	・予約状況や収入予測の結果から変わらない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・宴会・披露宴等は順調に予約が入ってきているが、宿泊は昨年を下回っている。春の学会・大会が昨年より少ない。またFIT（個人旅行）も東京・東北への流れが大きくなっている。
		都市型ホテル（販売担当）	・中央政治の取組が、地方政治には全く反映されていない。靖国神社問題を海外と問題にしている場合ではなく、地方が良くならなければ中央で何を言っても変わらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約等は例年と同様で推移している状況である。全国高等学校総合体育大会等のイベントも開催されるがスポット要因であり、景気全体を上げるまでには至らないと判断する。
		旅行代理店（従業員）	・海外需要が円安や情勢不安もあり悪い。また、株高や景気回復ムードよりマイナス部分の方が、大きく捕らえられているようだ。
		タクシー運転手	・会社関係はだんだん良くなっているようであるが、なかなか一般まで行き着いておらず、一般の動きが大変悪くなる。
		通信会社（管理担当）	・相変わらず債権回収が上手くいっていない。
		通信会社（業務担当）	・5月は新商品の発売と値引きの最終時期で、ある程度の販売が期待できるが、品薄感が全体にあり、商品の訴求力で他社との優位性がなく、シェアを減らす状況が続くと予想される。
		通信会社（営業担当）	・アベノミクス効果で景気が良くなりつつある企業もあるが、製造業等は、全てが円安効果を受けるわけではないので、その辺りがうまく良くなってくれば本当の景気回復につながる。
		通信会社（総務局）	・好材料は特に見当たらず、営業体制の見直しにより前年並みの新規契約数は確保したい。
		ゴルフ場（従業員）	・予約の動きは、4月からゴールデンウィークにかけて、また6月と低迷しており、集客も乏しい状態だ。プレー料金を下げたり、いろいろなイベントを開催したりするなど、集客しないといけない状態で苦戦している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（支配人）	・5～6月のゴルフベストシーズンに見合った件数の大型、中型コンペが入っているが、予約にまだ余裕があり、ここ数年並みの来場見込みである。近年の6月は早めに梅雨入りし、雨量も増加傾向にあるため、その動向が気掛かりである。特に熱帯雨林並みの梅雨はゴルフ場にとって痛手になる。
		競輪場（職員）	・売上状況の推移からみて、大きな変動要素は見当たらない。
		理容室（経営者）	・3月いっぱい、かなりの客が就職、進学、転勤等で異動している。一度に新規の客が多く来店することはなく徐々にしか増えていかないので、良くなる見通しはまだ何か月か時間が掛かるということ、変わらないと回答した。
		美容室（店長）	・今月はいくらか客数が増えたが、2、3か月先は変わらず、電気料金の値上げも影響する。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・介護報酬自体は3年間変化がないため、大幅な売上及び利益増加は見込めず、介護人材の確保も困難で現状を維持していくことでいっぱいである。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・2、3か月先の景気が良くなるという材料は、現在の景気、財政では見当たらない。また4、5月のゴールデンウィークでかなりお金を使っているが、景気の良い人ばかりではない。生活費、子どもの塾、ローン等に追われて、マスクミに言われているようなことは、零細企業、一般市民では全くそういうことがうかがわれない。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・宮崎に限って、生産地の気温が上がり、かなり地元の商材が減ってきた。これからは高冷地、県外の商品になってくるので、単価も上がり、利益率も悪くなって、横ばいどころか厳しい状態が続く。今のところ、相場自体がアベノミクスの影響を受けてはいない。
		百貨店（総務担当）	・競合他店のリニューアルの影響で、来店客数の減少が予測される。
		百貨店（企画）	・これからゴールデンウィークに向けての行楽シーズン商材の動向に期待しているが、想定を下回っている。
		スーパー（店長）	・電気料金の値上げも来月から始まり、今後、燃料や資材、石油製品の高騰により商品の値上がりも考えられるので、今後、景気の状態は良くならない。
		スーパー（店長）	・依然、先行きの不透明感は消費者のなかで払しょくされず、消費の活発な回復に結び付く気配がない。来年に向けての消費税等の問題もあり、消費者の買い控え傾向は今後も更に続くと思われる。
		家電量販店（従業員）	・ゴールデンウィークで旅行などにお金をかける方が多くなる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・近隣店舗のリニューアルでの悪影響が継続する。
		高級レストラン（経営者）	・5月の客の動きの状況としては、今のところゴールデンウィーク明けの予約が入ってきている。その状況は今年のこの時期に比べ少しは良くなっている、悪い方向に向かっているのではなく、やや良くなっている。
		タクシー運転手	・これからも良いようで悪いの繰り返しである。
		通信会社（企画担当）	・季節的にも販売量が落ち込む時期であり、今月の様子からすると例年以上の落ち込みが危惧される。
		競馬場（職員）	・販売量や来客数の伸び悩みが顕著である。
		美容室（経営者）	・2、3か月先の景気は希望的には良くなると思っている。初夏に向けた客の購買意欲は非常に上がると考えているが、まだアベノミクスの動きが末端までいっていない。希望的観測ではあるが、景気回復しているようにも思えるし、少しずつ上がっている。最終消費者である客に何か刺激策がほしい。
		音楽教室（管理担当）	・これから先のことは分からないが、音楽教室等は塾の次になってきているので少し落ちてくる。
		設計事務所（所長）	・新しい仕事が少なく、2、3か月先に結果が出るような状態であるので、今の状態より悪くなると判断する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	商店街（代表者） 衣料品専門店（店長）	・良くなる兆し、ネタがない。時期季節柄も踏まえて、当店に関しては良くなる兆しがない。他店とは違うサービスを現在検討中のため、それが定まらない限り売上増加は見込めない。 ・客の様子がよくみえない。顧客の年齢層が上がり、年配の客が増えてきたので、価格面でちゅうちょする方がいるようだ。「年金生活だから」という声を聞くようになった。
企業 動向 関連 (九州)	良くなる やや良くなる	○ 家具製造業（従業員） 鉄鋼業（経営者） 一般機械器具製造業（経営者） 一般機械器具製造業（経営者） 輸送用機械器具製造業（営業担当） 建設業（従業員） 建設業（社員） 輸送業（総務） 通信業（職員） 通信業（経理担当） 金融業（営業職渉外係） 新聞社（広告）（担当者） 経営コンサルタント（代表取締役）	○ ・2、3か月先の受注もおう盛で前年の10%増加で推移している。家具の販売単価はまだまだ低いものの、量が総体的に増えて売上も準じて伸びている。 ・販売価格が少し改善してきたが、販売数量は伸び悩んでいる。人手不足から建築現場の工事が遅れているせいで出荷に影響が出ている。人手不足が解消に向かえば、販売量も回復する。 ・新年度の計画がおそらく2、3か月後には実施に向かうので、期待している。 ・客先の引き合いの量が多くなってきた。さらに、今まで取引のなかった客先が将来の受注拡大を見据えて訪問する企業もある。 ・生産量は15%増の見込みである。 ・受注状況も上向きで景気は良くなっている。消費税増税で駆け込み需要も増えてくる。しかし反動でこの先どうなるか先行き不透明である。 ・良くなっていてほしいという願望である。平成25年度は労務単価の増額もあり期待しているが、官公庁の発注が遅いので、現政権への不満が参議院選挙に出てくるのは必至である。大手企業は景気が良いようだが、末端の地方業者が景気が良いと判断をして初めて景気が良くなったと判断できる。早期の発注を地方の官公庁に催促してほしい。 ・株価の上昇に伴い経済活動が活発になれば、荷動きも良くなると考えている。 ・新年度となったが、4月時点では大きな受注量の動きはない。夏に入る前に省エネ関連の受注が増えると予想している。 ・ベースアップは社会全体の景気動向を見据えて当面様子見ではあるが、平成25年度の夏冬の賞与は標準額が支給される見通しである。 ・株価や為替相場の動向にもよるが、経済が徐々に元気を取り戻している。全体的に企業の業績や受注動向は上向き傾向が続く。 ・好調な通販、化粧品広告に加えて、夏に予定されている参議院選挙もあり、新聞広告にとっては明るい材料といえる。 ・自社に対する問い合わせ件数や受注状況から判断して、しばらく良い状況が続く。
	変わらない	農林水産業（経営者） 農林水産業（従業者） 食料品製造業（経営者） 食料品製造業（経営者） 繊維工業（営業担当） 化学工業（総務担当） 窯業・土石製品製造業（経営者）	・今の流れからすると、5月まではある程度期待できる。ただし、6月から7月前半は梅雨の影響で厳しい。7月後半から8月に向けては夏のビアホール等に付随する特需で期待ができる。懸念材料は、中国の鳥インフルエンザの風評被害だ。早く終息してほしい。 ・今販売についてはある程度確保できているので、3か月の見通しについても今位の受注は対応できる。 ・業績はやや上昇したものの、景気が上向きになったとの実感を得るほどではない。身近に売上が増加する要因は見当たらず、当分現状のままである。 ・季節的には端境期を迎えるが、例年より多くの受注が見込まれる。 ・糸や燃料費の値上げができてきている。それよりひどいのが運送料金の値上げである。利益はかなりなくなってしまい、従業員の賃金にはまだ回す余裕が出ない。 ・今後2、3か月で、当社の賃金や賞与が上がる見込みがない。 ・焼物業界は夏場に向かって一般商品の受注が難しくなる。自社開発商品がいくらか寄与することで、今までとあまり変わらない。世の中の流れと業界の流れが思うようにいかないので心配している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注量のキャパは変わらない状況であるので、内部の生産体制を改善、改革をし、変わらない分は無理、無駄、ムラをなくすことで利益の方に回していきたい。しばらくは調整していかないといけない。新規製品を出していくという業種転換を少し入れていきたい。
		精密機械器具製造業（従業員）	・先期は何とか黒字であったが、まだ先の見通しが見えない状態で、今のところはこのままの状態が続く。
		金融業（従業員）	・製造業では、このところの円安効果により輸出関連企業を中心に商談が活発化してきている。また、分譲マンションや戸建て住宅の販売も持ち直し傾向にある。一方、原材料費、電気料金等コストアップ要因を抱え、先行き慎重な見方をする地元中小企業も少なくない。
		金融業（営業担当）	・このまま円安が続くと中小企業、特に製造業以外の業種は、収益悪化が懸念され景気自体は低迷のままと予想される。
		金融業（調査担当）	・製造業など円安による原料価格高騰の心配もある。株価上昇等によるマインドの改善の一方で原料価格の高騰による不安とが交錯している。
		不動産業（従業員）	・市内の賃貸オフィスの空室率等市況は、概ね横ばいで推移する。
		広告代理店（従業員）	・4月の新聞折込チラシの受注枚数・金額は前年同月比97%と依然前年を上回ることができない。特に娯楽産業のパチンコの受注が悪い上に、消費活動が活性化しないため小売業に販促意欲がみられない。来年の消費税増税を見越してマンション販売にいくらか動きがみられるが、まだ本格化していない。
		広告代理店（従業員）	・4月の状況をみる限り、変わらないと言わざるを得ない。上昇要因はない。
		経営コンサルタント	・まだ経済の動きが活発ではなく、新しい動きがみられないので、現状の状態が当分続く。
		経営コンサルタント（社員）	・現在行動を起こしている段階なので、実績に効果ができるまでには至っていない。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・福岡県内の市町村の3月議会で決まった当初予算をみると、道路工事、建築工事が例年と比較して多く計上されている。こうした工事は、地元で営業所のある工務店などの建設業者が優先して指名され発注されるため、福岡市にある業者に恩恵は少ない。福岡市の事業は、すでに3月から発注されているため、受注する見込みが低い。
		やや悪くなる	
輸送業（総務担当）	・生活必需品は円安の影響を受ける物が多い。しばらくは買い控え等でありあまり良くない。		
悪くなる		—	—
雇用関連	良くなる	○	○
(九州)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・十数年変わらなかったパーティコンパニオンの値上げが行われる予定である。
		人材派遣会社（社員）	・全体的に、株価の上昇から会社資産評価が上がり、その分設備投資及び人的投資を行うべきか、円安による輸入コスト増にその分見込むかで、企業側もいまだ判断し兼ねる状況にある。ただ、メルティングポイントとなるべき時期が来れば、一気に人材の確保に乗り出す可能性を秘めている。
		人材派遣会社（社員）	・引き続き注文も増えている。中元時期になるが、昨年実績のあった企業からの依頼も多い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・消費増税前の駆け込み需要もあり、住宅・不動産に動きがみられることから、雇用への波及が期待される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・日本銀行の超金融緩和政策の効果が継続する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新聞媒体の求人広告は減っているが、情報誌、求人誌は堅調のようだ。教育（塾講師）や医療サービスが主体だが、景気に敏感な製造業や流通・サービス業の求人は徐々に増えてきている。
		職業安定所（職員）	・就職件数は前年同月比14.0%増加している。その背景として、求職申込件数はやや減少し、新規求人数は増加の流れになっているからである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	職業安定所（職員）	・新規求人は主要産業を中心に増加傾向にあり、特に建設業44%増、情報通信業61%増となっている。また、求人の停滞が続いていた製造業からの求人も2けたの増加となっており、今後も求人増が見込める。
		人材派遣会社（社員）	・現状でも好調なため、これ以上の上がり幅は少ないと考える。
		人材派遣会社（営業）	・以前より求人数は増えてきているが、前年と比較すると大きな伸びではない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・消費税増税前の駆け込み需要のせい、現場作業の建設関係の求人が増えているが採用がなかなか決まらない。
		職業安定所（職員）	・政府の経済政策により、一部においては景況感があるようではあるが、地方において、期待感はあるもののほとんど実感が湧かない状況である。また、賃上げについても、一部大企業のみであり、中小零細においては非常に厳しい状況との声が多く聞かれる。
		職業安定所（職業相談）	・円安を受けて、輸出型製造業の業況回復が期待されるが、電気料金の値上げ、円安による原材料の値上げ等の懸念材料もあり、先行きは不透明である。
		民間職業紹介機関（社員）	・派遣の自由化業務の最初の終了年を迎え、派遣労働者から将来の不安による仕事の状況確認が増加している。派遣業務に対する需要がまだ盛り上がり欠けており、これといって景気が良い業界やプロジェクト話もきていないので、紹介にも苦慮している。
		民間職業紹介機関（支店長）	・求人数、採用数をみ限り、前3か月と比較してマイナス幅が小さくなり、悪くなる傾向が和らいだ。しかし、これといって良くなる材料はないので、現状はあまり変わらない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・参議院選挙が終わってみないと、動向についてはなかなかみえてこない。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・現4年生を対象とした4月までの求人件数は、前年比110%超えとなる見込みで、ここ数年の増加傾向を反映しているが、景気回復を実感させる好材料とみるにはもう少し早く動向を注視する必要がある。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・半導体工場の閉鎖の影響もあり、採用を手控える風潮がある。
	悪くなる	—	—

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)	良くなる	ゴルフ場（経営者）	・前年より単価が高くなってきているので、もし来客数が多少減っても相殺できる。
	やや良くなる	一般小売店〔菓子〕	・外貨為替の変動により海外旅行から国内旅行へシフトが起こり、売上が増加することが期待される。
		百貨店（営業企画）	・3、4月にかけては、前年の改装オープンや会員様企画の入り練り等の反動で伸び悩んだが、5月からは母の日ギフトの強化や催事場のメニュー入替え検討など、営業力の強化を図る。
		衣料品専門店（経営者）	・売上自体はさほど変化は無いが、客の動向に変化がみられる。以前より商品を見る客、触る客が増えている。少しずつ良くなっていくと予想する。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・夏のイベントや政府の予算等交付金助成金など、市や県のイベントだけでなく観光客の誘致も順調に推移していくと期待している。
		通信会社（店長）	・競合他社のブランド力に対抗する新商品を発売する予定なので、今月よりは上向きになると見込む。
		観光名所（職員）	・予約状況が良い。
		住宅販売会社（総務・企画分野）	・4、5月で集客した客の追客の成果が反映される期間でもある。消費税増税前の駆け込み受注増が予測でき、契約件数は増加すると予想している。競合先でも駆け込み需要対策が活発化するとみられ、業界全体での相乗効果が期待でき、今後、数か月先の景気は、現状より良くなるとみる。
		住宅販売会社（代表取締役）	・当面は、消費税増税を意識した建築に関する駆け込み需要が増えるとみられる。ただし、来年以降、その反動が怖い。
	変わらない	スーパー（企画担当）	・競合で既存店が苦戦しているが、好調な新店がけん引し、今後2、3か月は前年並みで横ばいに推移する見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売企画担当）	・競合店の立地が増えていなかで2、3か月先の景気は引き続き悪いと判断する。
		コンビニ（経営者）	・来客数は増えているが、単価が伸び悩んでいる。
		コンビニ（経営者）	・来客数増の材料が見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・客単価は前年並みに推移しており、買い控えも落ち着いていると判断する。例年どおりの天候が続けば、売上も前年並みに推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・政府間の問題や鳥インフルエンザ等の影響により観光客は増加すると見込む。県内経済も安定しており、当面好調に推移すると判断する。
		衣料品専門店（経営者）	・雰囲気としては上がりそうではあるが、簡単には変わらないと予測する。しかし、落ちることも無いとみている。
	やや悪くなる	観光型ホテル（マーケティング担当）	・現段階の予約状況から、今月同様に実績の前年同月比プラスが予測される。アベノミクス効果で旅行マーケット全体としても追い風が吹いている状況を予測している。
	悪くなる	その他専門店〔書籍〕（店長）	・今はまだ耐える時期だと感じる。もう少し耐えることができれば、景気も回復するとみる。夏休み頃に期待している。
		商店街（代表者）	・アベノミクスは将来は期待できるが、現時点では市場内での客単価は落ちて大変苦戦している。衣料品等の購入客は郊外の大型店に流れているようである。観光関連店舗への来客数は少しは戻っているが、使う単価が相当落ちている現状で、回復に数か月か1年かかるか分からないが、先行きは大変厳しい状況とみている。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・物価上昇が先に来ており、仕入れ単価の上昇、客の来店回数減少があり、巷で言うほどの経済効果は飲食店舗では現れていない。長期的には鳥インフルエンザ、次年度の消費税増税が重くのしかかってくる。
企業 動向 関連 (沖縄)	良くなる	—	—
	やや良くなる	建設業（経営者）	・引き合い件数及びモデルハウスへの来場組数が増加している。
		輸送業（本社事業本部）	・取引先の新規出店による取扱量増加及び、これから需要期を迎えるエアコン等夏物家電といった季節商材の取扱増加が見込める。
		会計事務所（所長）	・金融緩和により消費者マインドが緩やかに大きくなるものと期待している。
	変わらない	食料品製造業（総務）	・仕入コスト上昇分の販売価格への転嫁が進まなければ厳しい状況が続くとみる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・工事全体では、横ばいの見通しである。
		輸送業（代表者）	・先々は公共工事の増加が期待できるが、時間がかかるとみている。宮古は民間工事が底堅い。
		コピーサービス業（営業担当）	・今月も受注が少なくなっている状態である。
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (沖縄)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（総務担当）	・受注案件増に伴い、「派遣」だけでなく「紹介予定派遣」「職業紹介」の案件も増加してきており、企業の求人も堅調である。今後も景気への期待が持てる。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・求人件数に関して、今までに無い件数が続き、その時で「今がMAX」だと思っても、更に微増する状況がここ数か月続いていることを考慮し、もう少し良くなるとみている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・現在好調であるが、どこまで増加するかは不透明である。依頼はあってもぎりぎりの段階で自社内での対応に切り替えたり、依頼の最初の人数を調整する動きもあり、若干慎重になっている感もある。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・今のところ、今後特に良くなったり悪くなったりする材料が見当たらず、例年どおり求人数が減少する。
	やや悪くなる	—	—
悪くなる	—	—	